

心のケアふれあい姫路

＜ボランティアのつづやき＞



＜ 夢 ＞

〈共に生きる〉

山 田 美 子

ここは神戸市より遠く離れたN市郊外にある阪神大震災の被災者の住まれる仮設住宅です。田んぼだった所を整地して300戸余りの仮設住宅が建っています。遮るものは何もなく、じりじりと日差しが強く真っ黒になり、皆が「仮設焼けや」と言い合ってます。私も仮設焼けになりながら、また冬は雪の降る中「姫路心のケアネットワーク」の仲間達と日曜日の午後、戸別訪問し、安否を確認しながら「お話を聞く」というボランティア活動を続けています。

訪問先は主に一人暮らしのお年寄りや、震災の為、あるいはそれ以前より持っておられる病状の為、家の外に出て人と関わるのが苦手な引きこもっている人達です。

信頼関係が出来ることが大変です。普通カウンセリングをする場合、カウンセリングルームで来る人を待っていればよいのです。「来たい」という意志を持って来られるので、「来室された時はもう半分治っている」とよく先輩より教えられたものです。しかしここでは相手の人は来て欲しくない（かも知れない）のに、こちらから押しかけるということもあるのです。カウンセリングでは、あくまで本人の意思を尊重すること、と教えられた私にとってこちらから押しかけるということは気が咎め、いつも自分自身の中で葛藤がありました。しかし幸いにも殆どの人は気持ちよく応対して下さい、コミュニケーションが出来てくると、「お姉さんと一緒に食べるの楽しみにしていた」とお菓子を買って待っていて下さることもあります。なけなしのお金で買われたと思うと心苦しいのですが、喜んで戴くことにしています。また少し訪問出来ないでいると「どうしてた。顔見ないから病気がかと思った」などと案じて下さると、私を待っていて下さる人がある。私は必要とされていると心がはずみ、来る時の気の重さ、疲れも吹っ飛び、充実感に満たされ、足取りも軽く帰ったのでした。

一方ではいくら訪ねてもコミュニケーションの取れない人達がおられます。仮設という共同体の中に入らず、狭い仮設の一室にひっそりと一人で生きておられる人達です。仮設の人達との関わりを絶ち、訪ねてくる者へも心を閉ざしておられるのです。おせっかいかなと思いながらも何とか支えになってあげられたらと訪問しましたが、何度訪ねても中に居られるのに返事はなく出てこられませんでした。しかし「うつ状態にある人は自我が意識下に沈んでいる状態なので、同じ時に同じ人がノックし続けると、丁度、卵の殻を殻が中からコツコツ叩いていると破れる時がくるように、時が来れば自我が不意に水面に顔を出す時がくる。その時に外からの声かけがあれば無意識の中で聞いた声だと思い込める」という以前読んだ本の一節を思い出し、勇気を出して「〇〇さん、お元気ですか」と声をかけ続けました。

約二カ月たった頃内から「はい」と返事が返ってきて、ドアが開きました。この時の嬉しさといったらありませんでした。それからは心を開かれ、病気のこと、生い立ちのこと、震災のことなど話され、コミュニケーションが取れるようになりました。「地震でいっそ死んでいればこんな思いはしないですむ。これ以上こんな状態で生きていても何の楽しみもない。身体がこんなではとても仕事など出来ない。廃人同様だ」と震災以前に遭った交通事故による後遺症に悩まされ続ける苦しさや、この苦しみを誰にも分かってもらえないというつらさを何度も訴えられました。

実際に苦しみを取ってあげることは出来ませんでしたが、彼の心に寄り添い、共感しながらその気持ちを聞いていると「自分は一人ではない、分かってもらえる人がいる」と思われたのか、目を

外へ向け出され、復興住宅への応募など積極的に次のステップへと踏み出されました。資格審査も通り、復興住宅へと転居して行かれる時は、よかったという思いと去られる淋しきの交じった複雑な思いでした。

私達の「心のケアネットワーク」のボランティア活動は、「心のケア」という目に見えないものを提供しています。催物をする、草引きをする、あるいは品物やサービスを提供するといった目に見えるボランティア活動だとする側もされる側も「した」「してもらった」という満足感がありますが、「お話を聞く」という精神面のケアは、される側からすれば「何をしてもらったのか」という思いがあるでしょうし、する側からすれば「必要とされているのだろうか」という不安がいつもあります。私はいつも「役に立っているのだろうか」「押しつけではないのだろうか」と思いながら訪問活動を続けていました。それを面と向かってつきつけて来たのがAさんでした。

一年前の暑い夏の日曜日の午後、その日は「心のケアネットワーク」の仲間と各家を片っ端から訪問することにしました。「〇〇さん、お元気ですか」と声をかけて歩いていました。多くの人達は気持ちよく「元気です。暑いのにご苦労さん」と声をかけて下さいましたし、顔見知りの人とはお話がはずみました。しかしAさん宅を訪問するともものすごい見幕でボランティアを攻撃されたのです。「日曜日に来られたらおちおち休んでいられない。当初ならとも角、もう皆立ち直っている。必要ない。話を聞いてもらっても慰めにもならない」「ボランティアとは、必要なことをしてくれるのがボランティアだ」と怒鳴られ、ボランティア精神の本質をつかれた思いで、皆返す言葉もなく落ち込みました。「あそこは怖いから行くのやめよう」と言い合っていました。リーダーのK氏に「そうやってうっぶんをぶつけてきたのを聞くことでボランティアしている」と言われました。なるほど、私達のすることは相手の気持ちに寄り添って話を聞くことなのです。Aさんはきっと心の中に一杯ストレスが溜っていて、何かに攻撃せずにはいられなかったのでしょう。その気持ちを受け止めてあげようと決心しました。それにこれを避けて通ったらこの仮設に来る意味がないように思えました。

そこで次の週、何が出来るか分からないままAさん宅を訪問しました。「この間は失礼しました」と言う「何が」と少し困った様子でした。近くの川に釣りに行くというのでついて行きました。釣り糸を垂らしている横に座って、黙って話を聞いていました。相変わらずボランティアの攻撃をされますが、前のような勢いはありませんでした。そして、朝からお母さんの下のお世話で大変だったこと、こんな状態では仕事がしたくても出来ないこと、又これからの人生がどうなるのかということなど胸につかえている思いを吐き出されました。

Aさんは震災後、脳梗塞で倒れたお母さんの面倒を見ておられます。「ヘルパーも腰を痛めた。自分も痛めた。ボランティアでしてくれる人など居ないだろう」と言われる。(うーん、私にも出来ない。)
「必要としていることをしてくれるのがボランティアの筈だ」という彼の切実な願いがここにあります。しかしこのことは誰でも中途半端な気持ちで出来るものではないのです。(私は今貴方の側に寄り添ってそのつらい、しんどい気持ちを分かち合うことしか出来ないのです。それも大変な勇気を持って、それでもボランティアかと言われそうで……)

次週、まさしく仮設焼けのするかんかん照りの中、「ボランティアです」と声をかけると「こんな暑い日にウロウロしていないで家でおとなしくしている」と私の身体を氣遣ってくれました。言葉は乱暴で言いたいことを言っているのですが、心の優しい思いやりのある人であることが分かりま

す。だからこそお母さんを施設に預けず、一人で頑張って世話をしているのでしょう。「今日はお母さんの所へ行ってくる」とまだ下のお世話をする決心がつかないまま言う。「話でもしてやってくれ。ヤクルトでも飲ませておいて」と頼まれました。「余計なことするな」と怒られるかも知れないと思っていたので意外でした。

お母さんを初めて訪問しました。おむつを当て、ベッドに寝たきりですが、お元気でしっかりしておられます。震災後あの大変な状況の中で「息子は自分のことより私のことを先にしてくれた」と何度も言われました。余程嬉しかったのでしょう。「この年になって息子に下の世話をされるなんて、頭にこれっぽっちも思っていなかった」という無念の思いが伝わってきました。

次回訪問すると息子さんがおむつを替えているところでした。下の世話をしなくてはならないしんどさからお母さんに当たっています。息子さんが帰った後、彼女は息子に粗相して怒られ、それでもベッドの上で動けず寝ていなくてはならないみじめさ、何も出来ないふがいなさ、情けなさなどの死ぬ程つらい思いを語られました。どんなに歩きたいでしょう。一人で何でもしたいでしょう。私は何もしてあげられない歯がゆさの中でつらく悲しい思いで聞いていたら、「頑張る。生きていたい。生きる」と言われ、救われる思いでした。また「貴女と話しているとふさがれた重い扉が開き、心の扉が開くような気がする、ありがとう」と帰り際に言われ、「よかった」という安堵感が全身に広がり、彼女のどうしてあげようもない暗さの中に一抹の光を見る思いでした。

訪問時には、息子さんからはお母さんの介護のしんどさを聞き、お母さんからは寝たままで人の世話にならなくては生きていけないつらさ、また元気になりたい、生きたいという心の叫びを聞くという関わりが続きました。そんな中で私自身も自然に下のお世話が出来るようになり、そのことが息子さんには、この大変なことを分かち合ってくれる人がいる。このしんどさを分かってくれる人がいるという思いを与えたのか、息子さんとお母さんの関係が和らいできました。

そして私自身、お母さんが一日千秋の思いで待っていて下さると思うと、日曜日毎の仮設訪問が張り合いになっていました。ある時お母さんが「今迄余り人の世話もせず、自分勝手に生きてきたのに、今皆に世話になっている。もう人の為に何かしたくても何も出来ない。私なんか生きていても仕様がな」と悲しそうに言われました。私は思わず「そんなことないよ。Aさんから私は生きがいをもらっているよ」と言っていました。帰り道、心の中で「本当にあなたからは一杯生きる喜びとエネルギーをもらっている。」と思いました。そして翌日はっと思ひ当たりました。これこそが「共に生きる」なのだ。

あれから1年、また暑い仮設の夏がやってきました。その間Aさん親子も神戸に帰られました。仮設の半分程の人々が復興住宅に当たったり、家を再建されたりまた住めば都とN市に住いを構えられたりして転居されました。空き家の目立ってきた仮設の中は森閑としてきました。残された人達にあせりや不安感が出始め、今こそ支えにならなくては、とグループの仲間で声を掛け合っているとはいえ、私の中には「もういいのではないかな、皆そんなに必要としていないのではないかな」という思いがありました。

そういう思いの中、今日、平成9年8月10日もまた「心のケア」の仲間と戸別訪問をしました。

初めて訪問するBさん宅の敷居は高く「話が出来かな」「迷惑ではないかな」と思いながら「Bさんお元気ですか」と声をかけるとBさんが出来られました。顔立ちのはっきりした若々しい感じの主婦でした。とまどった顔をしておられましたが、その日一緒に回った高校生のFさんと同年

代の子供さんがあることから学校の話、家族の話、震災の話など2時間近く話されました。「震災から2年半経って終わったことなのに」と言われながら震災時の恐怖の模様を話されるBさんにとって震災はまだ終わっていないのです。環境の激変に子供さん、ご主人、お姑さんのことに心を痛められ、これから先のことを色々と案じられるBさんに「一人で本当によくここまで頑張ってこられましたね」としみじみと感じたことを伝えると「話を聞いてもらって心のつかえがおりました。また頑張ります」と嬉しそうに言われ、私は「来てよかった」とつくづく思いました。

外に出ると今日も仮設焼けのする真夏日でした。でも暑くはありませんでした。

木 村 由香子

私はボランティアを始めて半年になります。月に2回の訪問をしています。ボランティアを始めたのは毎日が忙しすぎて自分を見失いがちになっていることに気付き、何とかしなくてはと思いボランティアを始めました。最初は不安もありましたが他のボランティアの方々には大変快く受け入れて頂き今もとても楽しくやっています。また、仮設の方との出会いが私にとってとても大切なものとなっています。それは『生きる』ということを改めて考える機会となり、自分を取り戻すきっかけともなりました。私も幼い頃、心に傷をうけたことがあり、震災によって心に傷をうけた方と共に生きていくことができたと思います。そしてこれからも自分も他人も大切にして生きていきたいと思います。

平成9年8月31日 浜 田 ときみ

人の心の強さも弱さも
美しさもみにくさも
希望も絶望も……すべてを知った
暮らしの中で、人と人とのふれあいが
心の安らぎになってほしいと思っています。
未来をあきらめないで下さい。

心のケアネットワーク 一同

H9.8.31現在、玉手仮設にいる人すべてに一言ずつを添えて絵葉書のプレゼントを……ということに決まり、私は割り当てられた20名足らずの方への言葉としました。

日々小さな思いはあっても、今の暮らしが永遠に続いて行くと思っていたのに、一瞬のあの地震がそのすべてを絶ってしまったのです。

行政も、心のケアネットワークのメンバーも、その他の多くのボランティアも、それぞれに精一杯のことをしてきた2年半でしたが、どうしても生活弱者と呼ばれるお年寄りやひとり暮らしの人を優先させることも多くありました。家族そろっている人には声をかけてもその生活に立ち入らず、むしろ立ち入らない方が相手のためではないかとさえ思っているところがありました。

ところがところが……今日、高校生と中学生の子供さんを持つHさんに会った時、丁度同じ年頃の子供を持つ母親として話が弾みました。思春期、受験をひかえた子供の悩み、その親としての思い、同世代の近隣がいなくて話し相手がいけないことなど、息せき切ったように次から次へと話題は

尽きずあっという間の2時間でした。地震の時の様子、頼もしかった息子さんのことなども初めて聞きました。

今までは悩みや苦しみつらいことがあっても「自分には家族がいる」「自分はまだ若い」「まだましな方だ」と心の奥にしまい込んで大きな声で言えなかったぜいたくな悩みだと言われそうで誰にも話せなかったそうです。

2年半が経ってやっと自分の思いを口に出せた、話し相手が欲しかったというHさんを前にして、もしかしたら家に閉じこもっている人の中にもまだまだ心のふれあいを求めている人がいるのだろうと感じさせられた1日でした。

話しましょう。

青空の下で、さわやかな風を受けて

話しましょう。

美しい花をめでながら

こぼれんばあかりの笑顔を見せて

話しましょう

窓をあけて、ドアをあけて！！

植 田 貞 子

若い時、ボランティアをしていた時は、ただ何も考えず走り回ってきましたが、この阪神・淡路大震災で『姫路 心のケアネットワーク』のボランティアに入り、新白浜の仮設を私なりの形で精一杯皆さんと共にお付き合いをしてきました。最初は一人一人の考え方、生活環境もそれぞれ違うのでなかなかどうしてよいのか悩みましたが、ボランティアの仲間達が「走らず、くよくよせず、マイペースで自分の出来る事を気長にやれば良い」と励まして下さいました。それから自分なりに走ったり歩いたり休んだりしながらすることに心掛けました。そうすると仮設の人達の一人一人が少しずつ見えてくるようになり、今では自分自身も見つめ返せるようになり、一人一人の立場にたって物事を考えられるように少しなりました。と、共にまず私自身がボランティアをさせてもらえる「幸福」とボランティアをしている中で自分自身がいろんな勉強をさせてもらいました。また同時に、共に助け合いながら生きて行く事の大切さを痛感致しました。ボランティア活動を通じてこの上もなく充実した毎日が送れる事を感謝して若い仲間達と一緒にこれからも続けたいと思っています。

〈復旧後の生活に思う事〉

谷 口 宣 夫

震災直後に最初に思ったのは、押しつぶされ混乱した生活のシステムがどれぐらいの期間で元に回復するのだろうかという事だった。

世界に冠たるハイテク技術を持ち、難問にあたっては官民一致主義で事に当る日本なので、バブルのはじけで多少、体力の消耗はあるものの、半年や1年もすればかなり復旧できるものとおもっていた。(多分多くの人がそう信じていただろう。)しかしこれは大きな認識不足だった。確かに資本力のある大企業や官庁等は、廃墟ビルがブルドーザーで取り除かれ、さら地に巨大なクレーンで鋼

鉄の骨格模型のごとき新ビルを組み上げていく様子は、見るからに力強い復旧シーンだが、その陰で大した援助も期待出来ない民間中少の零細企業や、今まではひっそりとつつましく暮らしていた庶民はどう終結されたのだろうか気になるし、行政の救済にも現実とのギャップが多々あるようにおもえる。

そこで思うのだが、この震災でわかった事の一つにひょっとして我々の文明社会システム（特に日本の場合）というのは、何か新しいモノを造る時には非常に効率的に働くのだが（各自の人が利益を得られるので）、しかし一度壊れたモノを修理、蘇生させるという事には、とたんに目に見えて意欲がおちるのではないか、（生産メーカーが自社製品のリサイクルには、利益がでないので積極的に関与したがる事にもなっている。）

更に気になる事は、いわゆる建物や道路等などのハードな物体は時間と費用さえかければ完全に元の状態以上に復元するが、そこに暮らしていた人々の目にみえない生活感覚や、思い出などのソフト面はあまり議論にされてない様だ。

無論、人によって受けとめ方は色々だし、過去が100%いいわけでもなくどっちにしろ古い物はすたれほろび、時代や建築物は次々と変革していくのだからいいではないかという意見もありそうだが、私は、人間の暮らしというものはただきれいで便利な快適空間（ハード）だけではなく、その人にあったソフト面（会話の機会はなくとも理解しあえる隣人や、あまりきれいでなくてもなんとなく親しめる周囲の環境、少しでもよいから自然の風景等）が欠かせないと思っているのである。

だから、被災した方達がたとえあたらしい住まいをそれぞれ得られたとしてもそれでこの事件は完結ということにはならず、いろんな問題を含んでいるのではないか。

.....

姫路市福祉総合通園センター看護婦 深谷しのぶ

私は大震災の一週間後、長田で看護婦として救援活動をしました。被災した方々と直接お話しすることになったのはそれが最初でした。AMDAというNGOから看護婦要員の要請があったので、すぐに食料・水・寝袋をもって長田へいきました。本部の長田区役所の5階に到着したその時点から、巡回医療チームに加わり、区役所管内を車で回りました。傷あとの生々しく残る長田にその被害の大きさに驚き、どうそれを表現するか言葉がみつかりませんでした。幸いにも巡回した先々では緊急を要するような重症の患者は居ませんでした。冷え、疲労、栄養の偏りが原因と思われるカゼ症状、疲労脱力感を訴える人、極度の緊張で自分の疲労にも気がつかず働いている人、あるいは（がまんがまん）と医師や看護婦に顔色の悪さを指摘されても大丈夫と答える人が居ました。

どこへ行っても医療チームの到着するのを心待ちに待ってくれる方々が居ました。そこで大変気になったことをここに書きます。持病を持ち、内服を怠ってはいけない人を何人か診察した時のことです。その方々の多くが自分の飲んでいる薬の内容や名前、量は全く医師から聞いたことはなく知らなかったのです。薬を持って逃げるのが出来た人は、その薬を私達の所へ持参して下さったので、巡回医療先であっても、無線で、本部で活動する薬剤師に連絡を取り、同じ内容のものをその薬が切れるまでに手渡すことが出来たのですが、そうでない方については主治医の所へ行くようにと伝える以外、方法はありませんでした。その主治医の所へ行くためのバスや電車がちゃんとあるのか聞くことはためられる状況でした。しかし、主治医と患者の関係というものは、インフォームドコンセントが叫ばれはじめた時代とはいえ、たいていはこの様なのが日本の現状かと思う

と、医師を批判せずにおれない気持ちでいっぱいでした。その時同じチームで活動した医師達はどう感じたのでしょうか。

また日に日に寒さの増す中で、明日はみんな元気な顔で居てくれるだろうか。毎日心配しながら各地点を巡回する毎日でした。いつもおなじ顔の医師や看護婦が巡回することが、そこに待ってくださる人達にとって安心してもらえるのが良く分かるだけに、ずっと続けていたかったのだけれど、その場に心を残しながら、一週間は過ぎ、職場に戻りました。

職場ではいつも通り、神戸でることがまるでうそのように何も変わることなく時間を過しました。それがたまらなく腹立たしくなったのを思い出します。他にすべきことはもっとある。自分はそのまま、自分のいつもの仕事をしていていいのか。そんな思いをしながらも、何もすることが出来ず、あっという間に一年数カ月が過ぎてしまいました。

新白浜仮設住宅で訪問活動をしているのを知ったのは平成7年の11月頃でした。平成8年に出産、育児休暇と自由な時間が出来たので、子供が6カ月になったのを機にくこころのケアネットワークに参加させて頂き、メンバーの1人として活動させて頂きました。AMDAで活動したあの時、途中で長田を離れなければならなかった、また何かするべきことがあるはずという強い自責の念もあり、この不完全燃焼のままの気持ちを少しでも自分なりに解決したいという思いがありました。

初めて新白浜住宅を訪問した時は、出会った住民の皆さんの温かさや明るさに感激しました。あれだけ大変な思いをしたにもかかわらず、今は人を思いやり、毎日一生けんめい生活していらっしゃる姿がありました。しかし度重なる訪問をするうちに、将来に不安をかかえてふさぎ込む人や、希望の光が見えなくて投げやりになってしまう事もあることや、長期の病気が悪化してゆく人、現在の生活に困窮しながらも、市は何も助けてくれない現実のあることも知りました。体、心が元気な方達にはお話しすることで私達の訪問は意味あるのですが、生活に困窮し、希望の持てない現実をかかえた方に対しては、私達ボランティアは何の援助も出来ないのです。自分達の無力さにあ然とすることもしばしばでした。つまづく度にくこころのケアネットワークリーダーに相談し何等かの方策を搜していただき、それを解決出来るよう助けてもらい、そして多くの仲間と話し合い、助け合うことで活路を見つけ出して行ったように思います。

またどんな時にも、私達を心よくむかえて下さった住宅の方々に支えられ、逆に力づけられたのも大切な思い出です。今年9月に多くの住民の方々が復興住宅や市営住宅へ居を変え再出発されることは、何よりも私達にとってうれしいことです。そして、もう少し姫路に残る方々ともますます親しくお付き合い出来れば幸いです。育児休暇を終えあまり活動出来なくなったのですが、住宅に誰かが居る限り、私達はそこへおじゃまします。今後ともよろしくお願いします。

〈公的財政援助を願う〉

西山博子

震災のあと骨折治療の為、病院に入院した彼女は、退院後、姫路市玉手の仮設住宅に入居した。当時は住民も少なく寂しい状態であった。彼女は幼い頃に母親を亡くし愛情の乏しい家庭で育ち、働ける歳になった時に独立をした。その後結婚をし、2人の息子を儲けたが、後に離婚をして彼女は女手一つで子供を育ててきたのである。母親にカレーライスをつくってもらい、路上生活者に食べさせた優しい心を持った息子は成人した後、若くして病死した。時間の経過と共に、心がやっと癒さ

れた直後に、阪神淡路大震災が彼女を襲った。

仮設のふれあいセンターで彼女は、来る人にはこまごまと世話をした。自治会長が転居した後は、会長代行の人（プライベートな事情を公表してしまう人）とはうまくいかず、仮設住宅に閉じこもり糖尿病の治療の為に病院通いと、日々の生活の買い物だけの暮しになってしまった。アルコールに溺れる日もあった。神戸市の住宅申込みにも当選しないし、転居して行く人も増え、玉手の仮設住宅に来た時と同じような住民の数になり彼女をまた寂しくさせた。

そんな中でも、病気になり仕事ができなくなって食べる物も事欠く人がいると、食物をつくり与えた。仏壇を小さくしたので仏壇を載せる台が欲しいと言っていたおばあさんには、使わない台を与えて設置したりした。それから、うつ病をかかえて仕事に行き詰まり、電気、ガス、水道を止められてしまった人には、生活保護の手続きをする際には清潔にといっ、自宅のお風呂にに入れてあげた。（うつ病の人は、二カ月位入浴していなかった。）他にも、アルコール中毒になってしまつてトイレにも行けないような状態の人に病院へ行く説得をして治療するようになった。

震災以前は洋服をデザインしたり、ディスプレイをしたり、いきいきと仕事をしていた時の彼女に一刻も早く戻れる様な環境づくりを積極的に行政は取り組んで欲しい。

県や市など自治体での努力だけでは限界がある。従つて政府は今こそ、被災者のために公的財政援助を実施するべきであるとかんがえる。

山 中 幸 恵

震災後復興はかなり進んだが、仮設住宅には、まだまだ恒久住宅や生活再建の見通しが見つからないのが現状です。

私達の活動は週一回（日曜日）に戸別訪問をして、年に数回イベントを催し、住宅とのふれあい交流が出来たらと……。訪問して住民の方々を励ましたり、悩みを聞いたりが目的です。訪ねると私達を笑顔で迎えて下さる2週間ぶりに訪ねたりすると「どうしてたん」と心配して下さる。とてもありがたい、そしてなんだかほっとします。

時には、血圧測定をしたりして病気の話をすると糖尿の方が多いのには驚く。

また料理上手の方がおられて、料理の話になると楽しそうに次から次へとメニューを変えて講習して「おだしの味は…」「あま酢の味は…」と作って味見させて下さる。私も夕食にすぐに取り入れて作ったりして重宝している。

色々な話を伺っていると1～2時間がすぐになつてしまい2～3件しか訪問出来ない時が多い。私達が訪問して皆さんの気持ちが少しでも軽くなればと。これからは、食事指導のようなこともやりたい。

訪問後みんなでふりかえりをして、嫌なことなど家に持って帰らぬようにとリーダーの配慮があり、ストレスを感じずに今に至る。私達グループは、リーダーを始め、心のやさしい思いやりのあるすばらしいグループです。

〈私もボランティアのひとりに〉

濱 田 悦 江

震災の年の暮れに新白浜でおもちつきに参加、玉手で子供たちと遊んだことから、仮設住宅の方

たちとのお付き合いが始まった。

毎回、おじゃまじゃないか、わたしの一言でつらい経験をされた方たちを傷つけないかとドキドキし、それでも話し相手が欲しい方もおられるだろうと恐るおそる尋ねる私に何人もの方が暖かく受け入れて下さった。

今年の2月マイクロバス2台（新白浜と玉手）で、復興住宅を見学した。神戸の街を知らないものが案内出来るだろうか心配。前のバスからの連絡をもらいつつ説明していくと、皆さんの方が詳しく、この辺りはこうだった、もう少し向こうに何があると教えて下さる。なつかしくイキイキとした様子で話しが弾み、1ヶ所ずつ熱心に、真剣に品定めをしておられる。でも倍率がすごいからなとため息も出る。あっという間の1日だった。帰路、新白浜へ帰る車のリーダーからの連絡を皆さんに伝えると、うす暗くなった車中に突然拍手が湧き起こり、ボランティアにお礼を言ってお下さる。この日私がもらった喜びは、今までの関わり方の不安を吹き飛ばし、皆さんのやさしい気持ちに、うれし涙がでてしまった。最後のお一人が無事神戸へ帰られるまで、出来る事で力になりたいと心に誓った。

このところ、復興住宅に当選され引っ越しされる方、自分で生活再建され、神戸へ帰られる方と当初の2/3くらいの戸数になり、個々の事情の違いが生活力の差となり、皆で手をつないで頑張ろうとされていた気持ちがだんだん薄くなってきたようだ。食、住の不安な発生当時は、あれだけ身近な方、見知らぬ方が助け合って来られたのに、2年余り同じところで過されてると、きれいごとではいかず、いろんな力関係が生まれてきた。弱い立場の人が、もっと弱い人をつないでいたり、中傷されることがある。ボランティアに「Aさんには困っとんや。あんたらもやさしくしたり、話し相手にならんといてや。」と言われた時には返事に困り、さみしくなった。

震災で職場がなくなった方は多く、幸い続けておられる方でも神戸までの通勤に疲れ、仕事を辞められた方、体をこわして入院されている方、通院しながら療養されている方もおられる。生きることは、食べるだけでなく、仕事、支えないといけない家族の存在、打ち込める何か等があることが、力になると実感している。

きのう、入院先から外出中のBさんにあった。「もう退院出来たん」「いや、もうじき帰るんや。ええ車に乗っとうなあ。」（洗いたての車できてごめん）「うらやましいわ。わし、免許返してしもたんや」「おしかったね。神戸で仕事に使えたのに」「もう高いし、よう取らんわ。もうええんや」「でも元気そうやし、もうすぐ退院やね。退院してもお酒飲まん、体に着つけなあかんね」「いや、ええんや。いまでも晩ご飯すんだら、ちょっと買いにいった飲んどう」「え」こと先生（やさしい女医さん）に怒られるやろ」「内緒や。わしもうええんや。人生なんかええんや」「なんで、家も当選したし、これからやんか」……ごめんね。これ以上ゆっくりよう聞かんかった。

いつも気になるCさん。「わたし、元気そうに見える？損やわ」「わたしも一緒にボランティアしたいわ。仲間にいれて」……ごめんね。きっと生きがいを探しておられるのだと思う。就職はうまくいかなかったし、体も弱っておられる。それに、なぜかまわりから中傷されてしまうCさん。誰かとゆっくり話しがしたい気持ちはわかるけど、会うといつも疲れてしまう私。

「心のケア」というのボランティアグループの一員なのに、勇気が出るようにケア出来ないし、自分自身なまけもので立派でない。仕事のこと、家庭のこと、私自身の人生のこと等、思わんならんことがいっぱいあって、いつも仮設の方たちのことを考えているわけではない。2年近くになる今で

も、日曜日の午後、訪問に向かう時はドキドキとしている。「自己満足」ではないか、「親切の押し売り」になっていないか。楽しい悩みを持ってもらえるだろうに、楽しい会話にしていまいがちなわたし。つらいことを打ち明けるチャンスがないかも知れないと反省している。それでも、皆さんの理不尽に受けられた境遇に共感し、応援しているものがここにも一人いるとわかってもらえたらええんやと勇気をだして、ドアをたたいている。最後のお一人が神戸へ帰られたら、ちょっと休憩して、被災者の方たちとのかかわりで、教えてもらったこと、得たことをまた別のところで生かしたい。

『クリスマス会に参加して思うこと』

●場所／玉手ふれあいセンター ●日時／1996・12・21

人形劇ボランティア 植 戸

昨年に続いて、人形劇をすることが出来てよかったのですが、仮設にいる方は1年間、そこできびしい生活を送られているので、複雑な思いでした。仮設にいる子供たちの数が減ったそうで、来られた方も大人の人の方が多かった。

大人の方も喜んで楽しんでいただけたようで、タンブラフで、もみの木や魚など形が出来るたび、拍手をいただき、とてもうれしかったです。小学校の元気な男の子達が舞台に近づいたりのぞいたりして少し困ったのですが、後で昨年は、この場に出てこれなかったということを知り、人形達に触れ、話をし、自分を出して楽しんでたんだぁー、あれでよかったんだと感激しました。

残念だったのは、最後まで会に参加できなかったことです。ボランティアに来られていた学生の方や、仮設に住んでおられる方といろいろお話して交流できればいいなと思いました。風のようにさるのもいいですが、たまにはじっくりおちついて最後までいたいですねー。

又よろしくお願いします。

人形劇ボランティア 春 名 真由美

昨年に引き続き、お招きいただきありがとうございました。

人形劇、タンブラフ（知恵の板）遊び等させていただきましたが、たくさんの方々にお集まりいただけたのでうれしかったです。なかなか元気な子供達でガンガン反応がきて、ちょっと圧倒されながら演じておりましたが、大人の方々、お父さん、お母さん、おじいちゃん、あばあちゃん等年配の方々にも、よろこんでいただけたようで皆様の笑い声が利けて良かったです。

クリスマス会の最後まで一緒にふれあえればよいのだけれど、途中で舞台の片付け等で中断してしまい会の雰囲気をおぼしてしまふことがいつも悪いなぁーと思いながら、帰ってまいります、ごめんなさい。それでも少しでもお役に立てているのなら、またぜひ参加させていただきたいと思います。

今回もやっぱり参加させて頂けてよかったなと思い、私自身も皆様から元気パワーをいただいてきたなぁーという感じです。『これからも頑張らなくちゃ』と思いました。

どうもありがとうございました。

『ボランティアに参加して』

姫路市余部小学校 5年 濱 田 香

私が玉手の仮設住宅へ行きはじめたきっかけは、今年のお正月にお父さんが『ボランティアをしたい』と言って、お母さんのお友達が『姫路こころのケア・ネットワーク』で活動されていたからです。そして、3人で行くことにしました。

私が初めて仮設の人達を見た時、一番はじめに思ったことは、なんて元気のいい人たちだろうと言うことです。

私が訪問すると、

「何年生？名前は何？」とか

「またおいで」とかうれしくなるような言葉をたくさん言ってくれます。

お母さんが、「ごはんは、おいしく食べられますか」と聞いて

「うん、おいしいよ」と話が始まります。

「早く神戸へ帰りたいけど、なかなかちゅうせんに当たらん」

「神戸で生まれ育ったけれど、今は姫路もええなあと思う」

と話がはずんでいくうちに、私は、たいくつになってきます。そんな時を見計らって、

「むすめさん？」と言って、私の話になっていくのです。一緒に回るおばちゃんが、「私の子」とじょうだんを言って、大きな声で笑うこともあります。お母さんが、「私たちが行った時しか、話したり笑ったりする相手がない人が、いっぱいいるから、香ちゃんが『こんにちは』って言うだけでうれしいんだよ。」と言いました。

私たちが声をかけても、あんまり返事をしない人や、戸を開けてくれない人もあります。仮設の中でお友達を見つけられない人や、まだ心に苦しみを持っている人が、いっぱいいるのです。

今では、仮設の人が3分の1にへってきていてさみしくなってきたけど、私は、みんなが早く、せまい所より広くて自由にくらせる場所へ、どんどん行ってほしいと願っています。

[97.6.29 記]

『こころのケアネットワークボランティアに参加して』

姫路市立書写中学校 一年 生 田 雄 也

ぼくが、ボランティアに参加しはじめたのは、小学校の6年生のときです。姫路にできた仮設住宅の一つである玉手住宅で、ボランティアに参加しているお母さんにさそわれて、いっしょに行ったイベントでした。

そのイベントとは、ビール祭りといって、仮設の人たちに少しでも安くビールやジュースを飲んでもらおうと企画された物でした。炎天下、多くの人たちが来られて、生ビールやジュースはまたたく間に完売してしまいました。しかし、多くの人たちとは言っても、この仮設住宅全員の人数から見るとほんのひとにぎりにすぎません。残念なことにあとの人は、部屋に引きこもってしまっていると聞きました。

ところで、みんなは仮設住宅を見たことがありますか？。

となりの家との間にはうすい壁たった一枚だけです。話し声も足音もすべて、相手に聞こえてしまうのです。ぼくならそんな生活はとても耐えられません。こちらの行動が手に取るようにわかってしまうのですから。

ぼくは、きっと仮設のひとたちもそう思っているだろうと思っていました。しかし、その考えは違っていました。ぼくが出会った人は、そんな条件の中で生活しているにも関わらず、明るい人ばかりでした。だけど、この明るさはどこからきているのだろう。震災で住むところを一瞬に失い、絶望のどん底に突き落とされたのに、どうして明るいのだろうと考えました。

きっとそれは、人と話をすることで、心が明るくなるからだと思います。つまり、人との会話やつながりが、絶望のふちにあった心に、やすらぎをあたえてくれるのだろう。こうして、人と人とのつながりの輪は広がっていき、毎日楽しく明るくすごすことができるのだと思います。

しかし、人との会話やふれあいがどうも苦手だという人や寝たきりの人、体の不自由な人は、自分だけの世界にとじこもりがちになってしまいます。だから、ボランティアの一環として、月一回、又は2ヵ月に一回程度のイベントをひらいて、より多くの人と接してもらおうと努力しています。そのために、外に出てこられない人には、一軒一軒訪問してプレゼントをわたしたり、言葉をかけたりしています。

もう震災から2年以上たったので、ボランティアなんていらないと考えている人も多いと思いますが、本当は今こそボランティアが必要なのです。

震災直後から一年間ぐらひは、生きていくことに一生懸命だったのが、だんだん落ち着いてくるにしたがって、むなしさや心細さ、不安が出てきて、その事で心の病気になる人が多くなるそうです。このような人が少しでも減るように、ボランティアが必要なのです。

ただ話を聴いてあげるだけで、その人の不安や心細さが取り除かれるのです。

みなさんの中でもし、やってみようと思われる人があれば、一度参加してみませんか？



『心のケア』って

Y・T (97・7・20記)

『今日は、ボランティアです』

『どうですか 体の具合は』

週に一回の訪問が、何回か重なって

少しずつ顔なじみになってくる

『最近顔を見なんだけど、どうしとったん』

『住宅の申し込みはした?』

話が長びく時は、一時間もすぎることもある

神戸での暮らし、子どもの時のこと

家族のこと

時には涙を浮かべながら

とうとうと話をされる

ああ

ただ聴いているだけの私は

今までの行き方を

そして自分を

恥ずかしく思う



私が出来ることは あなたの声に

耳を傾けること

私に出来るのは あなたのそばに

居ること

ただそれだけ

「ハーモニカのひとり言」

【姫路こころのケアボランティア演芸スタッフ】 まえさか のぼる

僕の生まれた播州飾磨で、小学校から高等学校迄一貫して、楽しく学校生活を送って来ました。社会に出てから御縁があり、御当地の書写の山麓に転居。今日迄病氣一つせず、お蔭様で気儘に楽しく頑張っている次第で感謝して居ります。

さて、元来僕等の地方で幼少の時から古人曰く、「地震やその他災害のない所」と聞いて今日迄やって来ました。

太平洋戦争の、B29による空襲の時の恐怖以外を知らない僕は平楽で生活していた処、1995年1月17日午前5時46分熟睡していた。突然、寢床が踊り、大揺れ、大地が横に、そして上下に慌て

ふためいた。あの時の事は今も僕の心にしっかり刻まれている。

お蔭様で僅少な被害で助かった僕等に比べ、震災地の方々の心身共に被災された皆様方には今もって御同情申し上げます。

今は神戸市長選の真っ只中、10月26日の投票日には一人でも多く参加され、復興に際して蓄積した難問題を、新しく選出された市長と共に一つ一つ解決し、一日も早く被災地の皆様方が喜ばれる市政を切望するのは僕だけではないと思いますが？

寒冷の冬将軍が今年も間近にやって来ました。仮設住宅の皆様、健康にはくれぐれも御留意願い唯々頑張って下さいと祈念するのみです。負けたらあかんで！

そうそう、手前味噌で失礼ですが、僕の身近で先月二つの行事があったので一寸聞いて下さいな。

9月1日防災の日として今年は阪神大震災から学んだ貴重な教訓を踏まえて姫路市総合防災訓練が西部ブロック（七校区自治会）、そして行政防災関係機関に近郊の企業が相互に連携役割分担しながら効率的、かつ効果的に行われました。参加人数は2500名とか。プログラムに基づいて9時30分より11時30分の二時間、皆様の多大な協力により無事完了。これが一つめ。

そして9月15日の敬老の日で感じた事は僕の住宅台地は約380世帯が居住しており、今回調査したらなんと70才以上の高齢者が104名。それに反して子供会会員は30名。これでは秋祭りも単独では無理の有様です。

逆ピラミッドと云った幼少児の減少に反して高齢者の多大化と云った将来危険な我が国がこれからどうなることやら？

今後、山崎断層の活性化による市行政当局は訓練で学んだ消防、警察など防災関係機関だけに頼らず避難所が団結して組織的、自主的な活動を行政が唱えてはいるが、この様に住民の老齢化により、動きが鈍く自分自身でもどうか？

今日、何もかも混乱するのではなからうか。

あれやこれやと考えると赤信号を点滅して案じているのは馬鹿な、そして軽薄な僕一人だろうか？

クワバラ、クワバラ 10/24記

松 本 佳 奈

平成7年4月、家の近くに仮設住宅ができた。それまでに何度か炊き出しに参加してほしいときをわれたけど、当時2才になったばかりの拓磨をつれてはとても行けないし、めいわくがかかると思い断っていました。5月、ゴールデンウィーク頃から仮設に人がいるのを見かけるようになり、5月中旬「もしかしたら子連れでも何か出来ることがあるかもしれない・・・。」と思って家にある生活用品を少し持って子供と一緒に、仮設住宅の中に入り勇気を出して声をかけてみた。この時、まだボランティアらしい人はだれも来ていなかった。

「火事で何もかも失った。カレーもお茶わんとおはしで食べている。何でもいいからほしい。」そんな声があちこちから聞こえてきた。とてもショックだった。

困っているだろうとは思っていたけれど、そこまで何もないとは・・・。

「これぐらいなら、だれにでもできる。」友人に声をかけ、公園仲間のお母さんたちをさそって週一回のバザー（無料）を始めた。マタニティで大きなお腹をかかえながら来てくれた人、小さな子

供の手をひいて手伝ってくれたお母さんたち、直接のお手伝いは出来ないけれど、物質をたくさん提供してくれたお母さんたち。

たくさんの友人にいっぱい協力してもらった。

やる気さえあればだれだってボランティアはできる。子育て中でも出来るんだ……。長年ボランティアをしてきたけれど、この時初心にかえった気がした。2カ月ほどすると、あとから来たボランティアの人たちや住宅の人たちにお金をとってバザーをしたほうがいいとか、日曜日でないと働いているからもらえないとかいろいろ言われた。

無料で提供してもらったものにお金を払うのはおかしい。

働いているんだったら、何もよその家の不用品や中古品をお金をだして買うよりもスーパーに行けば自分の好きなものが買えるだろう。最初の何ひとつない、なんでもいいから欲しいというときよりも、物質のことはケアの必要がなくなったのでは……と思い、やめようと思っていたころに岸岡さんと出会った。

今度は心のケアが必要かも……。岸岡さんの話を聞いてそう思った。

個別訪問するようになったある日、1人暮らしのおばあちゃんが「一日中だれとも話しをしない。テレビが友達、だれか外を通らないか、ずっと窓を開けて待ってるんや。」と言われた時は、これからの高齢社会を考えさせられた。平成8年1月にばらばらで訪問していたメンバーを火曜日の午前中と決めて集まって訪問することにした。これはメンバーにも住宅の人にも好評だった。メンバー同志もすぐ仲良くなり、いろいろな情報交換やイベントもできるようになった。火曜日に訪問するようになって拓磨が少し変わった。人見知りがなおって他のメンバーと訪問したり、あいさつも自分からするようになった。とくに、何かを配るという日が好きで「これどうぞ」とうれしそうに配っていた。4才になった今は保育園に行っているんで、火曜日には行けないけれど休日のイベントはお父さんと一緒に参加している。バーベキューの時には、キャベツを切るのを手伝ったり、おはしやごはんを給仕していた。ずいぶん自分から進んで考えて、お手伝いができるようになったと思う。自然にボランティアができるようになって、とてもうれしく思った。

ボランティアというと、むずかしい事のように考えている人が多いみたいだが、子供にボランティアとは何かというのを言葉ではなく、私を通して体得し大きくなった時、自然に当たり前のようにボランティアの出来る人間になってほしい。小さなことかもしれないけど、電車に乗ったら席をゆずることができたり、困っている人がいたら声をかけるということがあたりまえのようにできる子供になってほしい。仮設住宅でボランティアを始めてから、たくさんの人と出会ってたくさんのお話を聞いていい勉強になりました。子連れということでめいわくをかけたと思いますが、あたたかく接して下さってありがとうございました。

そして、やはり家族の理解がないと今まで続けられませんでした。

休日でも手伝ってくれた主人と弟にありがとう。

また2人めの子供が少し大きくなったら、ボランティアやりたいな……。

その時にはみなさん、またよろしくお願いします。

被災者のさけび

＜心の想いを誰かに＞

振りむけば
小さな静けさ
ゆっくりと歩んでゆこう
やさしいまなこを向け
足もとに
名もなき草花
涙と天の恵みに
嘆きの声は風のさゝやき
空を仰いで
ゆっくりと歩んでゆこう

仮設の心
お金にいい子
(仮にいい子)
おびてる

ぐさぐさの
まぶた
に平の部屋と
おびてる
二つおや、おびてる
100. 横断、おびてる、おびてる

神戸(おびてる)に最前、おびてる

みんなはくして下サリよるんで
おびてる、おびてる、おびてる、おびてる

神戸(おびてる)に最前、おびてる

① 心、配事、おびてる
② 依頼事項、おびてる
③ 管理、おびてる
④ 意見、おびてる

災害援助資金
保証人、おびてる、おびてる、おびてる

こちらに住んでる

1号線(おびてる) JR英賀保駅へ近所、おびてる
毎日、おびてる、おびてる、おびてる、おびてる
おびてる、おびてる、おびてる、おびてる、おびてる
おびてる、おびてる、おびてる、おびてる、おびてる
おびてる、おびてる、おびてる、おびてる、おびてる
おびてる、おびてる、おびてる、おびてる、おびてる

おびてる、おびてる、おびてる、おびてる
おびてる、おびてる、おびてる、おびてる
おびてる、おびてる、おびてる、おびてる
おびてる、おびてる、おびてる、おびてる
おびてる、おびてる、おびてる、おびてる
おびてる、おびてる、おびてる、おびてる

- 医療費の免除の延長
- 健康保険料の免除の延長
- 不動産の税金の免除
- 新築に義理金、おびてる、おびてる、おびてる

おびてる、おびてる、おびてる、おびてる
おびてる、おびてる、おびてる、おびてる

玉手の仮設では、おびてる、おびてる、おびてる、おびてる

- ① 土地、建物に関する
法律相談を聞いてほしいです。
- ② 仕事を紹介して頂けないでしょうか。
- ③ 神戸市に限らず播磨地区の県市営住宅
の情報がほしい。
- ④ 毎月1度でも良いですから仮設の皆さん
全員に出席して頂いて総会を開いたら
どうでしょう。其の場で自治会で決まら
れた事や、注意したい事を伝える。
又皆さんからわ、おびてる、おびてる、おびてる
言うふうな場が、おびてる、おびてる、おびてる
か

定年退職してから、今日まで高年齢のため
仕事もなく現在貯金で生活して居ります
厚生年金が10年ほどかかれましたが、年がら
年金もなく無収入です。県市営住宅には
おびてる、おびてる、おびてる、おびてる、おびてる
おびてる、おびてる、おびてる、おびてる、おびてる

因た事で言えば、現在、現時点の連絡先が今更にある事、という点。この震災に妨がらず、そして震災後も身内等では連絡を取り合っていたため、少し孤独感に似たる毎日が少し寂しげになります。このような別な理由が原因ではなく、やはり、神奈川から距離的に隔たっているという事もあり、ホームシック的な気分になるのも無正体な事とは思っています。...、その他に因た事は、まだいふ言いますと、今し、下の島尻から通話です。そしてTVを見たのですが、この主役仮設住宅の内部、壁がうねりまわっている。メイトンがうねりまわっている、という点、六月の仮設住宅をTVで見ましたが、かなりズリがちなところと思いました。仮設住宅は場所による建物のつくりがまちまちなのかな? おとは郵便物を送る方が多いところ(郵便物が少ない?)。

次回が本日の主幹する校、市立第
はくはく、さくら、また、さくら、さくら...

あと車の駐車場所は、この車を置くのも良いので、
（こちらへ）

この仮設住宅には、81%の茶色の屋根板
の工事等. はここに100%、合わせて工事すれば、
良いだろうか... (番号に25は"100%合わせ
先も教記下す。)

最後に在りしは、ナチ最終的の利
 害は、神戸迄の距離が遠いから一番困
 ると云ふ。但し、~~神戸迄の距離が遠いから一番困~~

いふが、いふにすぎず。
出まへよう。電報でこゝまでおくりたい方か多くて、
神戸市にお金がかかる。たゞ國の爲に救済を
いたします。
一日も早く復讐がきでうたいたいとお願ひ

義援金はもうあらないのですか
たうたすう月曜よりですか
仕事も全くお金もない人間はどう
てお正月を越したらいよいよですか
もう一度義援金を下ささい

もう一度義援金を下さい

5/6

ひな祭の際/:. 七つむ
かわいいひな人形を頂マネア
七つむ ありがたうごまいネア:

部屋に飾られていた。とて
うつくしく思われた。

子供が産まれた初めの頃は深
く、よい人形を飾った良かった
と思つてゐた。

3月30の日1:12. 家族揃って
写真とりして母の晴らしの記念
にとりました。本当にありがとうございました。

壬午 癸卯 9年 3月 16日 石橋



キのうクリスマス会がありました
 ケーキがあつたほくと、チョコソ
 ユだけチョコがのていなかつた
 手品は、すこかつた。でも、も
 とすぐいのできないのピエロが、
 二つをしてもなにもしなかつた。
 なんのためにピエロのか、二つを
 したのかなとてみたのこかつた。
 またやりたいなとほくは、思う。

<新白浜仮設住宅から>

このたびの震災で住む家をなくし
これからどうしたら良いかと親子で
心配しましたが、白浜のこの地へ来て
十ヶ月生活できましたのね
ボランティアの心あたたかいし、支援の
おかげです有り難く御礼申し上げます
私に共々元の神戸で新しい生活が
1日も早く出来るよう努力しますので
支援をお願いいたします。

先日高砂(県営)に申し込みましたが、姫路
市内なるべく白浜の仮設住宅に近い所が
あれば、良いのですが、なけいば、高砂の県営
住宅がいちばん駅から近いようです。
妹に来てもらうのにいいと思っています。
神戸は、家賃めんど、私の場合は、わりと
思っています。あまり遠い所は、目がみえませんが
困ります。

代筆してもらいました。

<南駅前仮設住宅から>

- ① 肩健康は不調(ハタリ中)神戸大で結果が
② 一寸先が見えてきません 平塚 8年1月29日

1. 行き手几の夕くて寒い
2. 床のカタキのわり
3. 天窓の高くすぎます
4. 電灯代が高くて行き手几
5. 仮設の場所においては
支援の仕方間違っています。

大変お世話になって
有難く思っています。
肩の痛みは再建の
職業にたいして大変です。
今後この生活の希望、新居先等、
これに悩まされたいと思います。
冬は夜の事については
自分としては結構だと思います。

兄とはなかい事つてあつて
ありませんから電話も住所も
はつきりしません

心のケアのボランティアの方へ
すみません勝手でご迷惑ありませんが
アンケートを提出したくありません。
あちこち記入し間違えて汚れてしまっ
ましたのでいたたいておきます。
いつもいろいろお世話をしていただき
本当にありがとうございます。
本年も宜しくお願いします。

今の所は私の手ばかりで、所に
保証人がありません。

専念者としての健康の事、お心配して下さる
又、住居が市営に入りた...と思っております。
まだ未定ですが、お電話お待ちしております。
よくいねえ、致しす

田へ水を落とす排水溝に住宅が接している為、今年は復興の
方にも願って水量を少なくする等についていろいろ音量を調整し
て頂きましたか来年度はどうなるか分からないうで入居していま
す。田植えに成ると田に水を入れるのでどうしても水量を多くし
ないといけないうで苦しいです。夜に成ると音量がすごく
入るに聞えて寝れなく成る事も多々有りましたので身体にまし
えありかなければと思つてます。仮設住宅の入居時の受入れは
本当に助かります。口で表現出来ない事が多く有りますが早く
住宅の良し所の当り暮らしが変ることでも解決するのがある
と思います。

ボランティアの皆様ごきよう様です
私は7月16日に御国野仮設に住める様に
なりました。こちらに来ては人とうに良かったと思つて
います。この村でずっと皆様が良くして下さるし、喜んで
おります。私も自身勤めていすので、休みが日しか何
事も参加出来ません。こちらの生活でも買物も
近くに多々有りますし、郵便局も、銀行さんも有り
交通面でも何も言う事が有りません
住んで見るととても良い所なので、仮設がなくな
る住したい様々気持ちになつてます
神戸の住宅にも申し込んでいますけど、わかつかいの
が現状です。当分の間は国分寺でがんばら
行くつもりです。震災後の何ヶ月間の間は弟妹
達の家を次々と変り心痛で大へんでした
何をするにも無気力で考える事出来なくて、涙が
思ひ出ると悲しくなつてしまいます。でも、
国分寺仮設に住む様になつてから悲しい
うすらさ、笑う事が出来、元気にすごしている毎日
です。私も事に参りましたけど、特に心配事や依頼
事項は有りません



本日は出席できません。申しわけございま
せん。

市外の仮設に出ている。者には

毎日の通勤が大変です。

今までは、がんばらばしでばと、がんばらばでま
した。

いくら、まだ若いと言っても限界が

あります。一日早く、神戸市の方へ

帰れる様にしたいです。

市住にも、申し込んでいます。あが、

神戸市の命令は、所ごとにも、(仮設市住)
当らばいいので(ようい)。

命令は、検討、考へて、

働いて、お人(ひと)と、おと、神戸の方へ、

白けて、一日も早く市の役、ようい、

早めの方へ、いいので、ばい、ようい、

市の方々、御苦労もわかります。が、

でも、アゲートばかり出ても、少しも、

お達の身世(みよ)に、それか、見えて来ません

月日は流れていきます、お達も、おせ、い子の
です。



阪神大震災を経て

一九九五年一月一七日、私は二歳三ヶ月の息子をかえ、妊娠五ヶ月の身でした。前日まで、私はいとこの結婚式に出席するために郷里の高知市に家族で里帰りしてました。夫の仕事がつかまつっていたせいで、もう一日ぐらいうつかりしていったらという声を振り切り、一六日の夕方に神戸市灘区のマンションに帰ってきました。夫はその足で東京出張に出かけ、わたしは翌日からの保育所登所の準備をして、息子とともに眠りにつきました。

一七日の明け方四時ごろに一回目覚め、もうしばらく眠れるなと思ったことを覚えてます。その次、がくと床が沈みこみ、つきあがるような感覚に揺さぶられて目覚めました。まだ何が起きたかわかりませんでした。ふとんの端のほうにころがっていた息子を引き寄せたとき、ガタガタガタガタとひどい揺れが部屋全体を襲い、あちこちで食器やガラスが割れる音が響きました。これまでに大きいといえる地震を経験したことがなかったため、地震かもしれないと思うまでにしばらくかかりました。私をはじめ出て出合った大地震が、未曾有と言われたこの阪神大震災でした。

前年三月に購入して引っ越したばかりの中古マンションは、外壁がゆがみ崩れるなど、構造的な破壊を受け、崩れ落ちこそしませんでした。全壊判定を受けました。幼児をかかえる妊婦という身であるため、家族や親戚の支援を受け、地震直後に神戸市北区の夫の兄の家に避難。その一週間後には夫一人を神戸に残して高知の実家に帰り、約一ヶ月すごしました。三月はじめ、水道が復旧したのを機に、まだガスも復旧していない段階でしたがマンションに帰り、ようやくふたたび家族で暮らせるようになりました。

六月に娘を出産すると同時にマンションの補修工事は始まり、とても新生児を育てられる環境ではなかった。産院から退院するとすぐにまた、夫を残して高知の実家にもどりました。そのあいだに夫は、工事が完了するまでのあいだにはいれる仮設住宅を探して、姫路市玉手の仮設住宅に入居を決めたのです。これまでまったく縁のなかった姫路の、周囲はたんぼだらけの仮設住宅かといわれるところになかったと電話で聞かされたとき、何か暗澹とした不安を感じたものです。生まれたばかりの赤ん坊を連れてたでさえ苦勞の多いときに、まったく見知らぬ環境にはいられなければならなかったのですから。

そして七月、生後一ヶ月にならない赤ん坊と二歳の長男と連れて、姫路市玉手の仮設住宅に移りました。長男の保育所入所も震災特例のおかげでスムーズに決まり、周囲のようすを手探りするような心持ちで、新しい生活がはじまりました。最初のうちは、すぐ近くにスーパーもなければ医者もないなど不満ばかりがつのりしましたが、しばらくして周囲の地理がわかってきて、自転車やバイクで動きまわるようになると、なかなかいいところだと思えるようになりました。それどころか、たんぼや畑に囲まれた広々とした環境は、子育てをするには神戸より

望ましいのではないかとまで思えてきたものです。

仮設住宅での生活も、夏のあいだはクーラーつけっぱなし、冬のあいだはヒーターつけっぱなしという構造上の不便はありましたが、玉手の仮設はまだ空気が多くてとなりが入居していませんでした。おかげで、子どもが騒いでもあまり気兼ねすることなく暮らすことができました。それに、マンションでは考えられなかった、昔の下町の長屋みたいな周囲のご家族との親密なつきあい、子ども同士の交流などが経験できたのは、生活上の不便をしのいであまりあるほどの利点だったと思います。ふれあひセンターでボランティアの方々が季節ごとに工夫をこらして開いてくださったいろいろなイベントも、本当に感謝すべきものでした。毎週月曜日のお料理教室に出ていって、たくさんのおばさん、おばあさんたちに赤ん坊を抱いてもらったのも、いい思い出です。

私たちはこの玉手の仮設住宅で夏と冬を無事に過ごし、三月末に補修の終わった灘区のマンションにもどりました。

仮設住宅でいろいろな人たちと知り合えたこともふくめて、この震災は私にとって本当にいい人生経験となりました。世の中にはいろいろな人がいるという女、これまで頭でわかっていただけだったことが肉として身についたという感じ。仮設で知り合った人のなかには、働きたいのに職がないと嘆いていた壮年の男性もいました。そういう人たちの顔を思い浮かべると、現在の仕事をしつかりやうねばという励みになります。わが家もマンションのローンと補修費のローンという、いわゆる二重ローンに苦しむこととなりましたが、仮設住宅に暮らしたおかげで、この震災の被災者でまだまだ苦しんでいる人たちが大勢いるのだということが実感としてわかっていくため、どうにかがんばって働くことができています。あの日からもう三度目の夏がすぎようとしています。今となつては、玉手の仮設住宅で暮らしたことは、本当になつかしい、いい思い出となりました。あのときはそれほど感じませんでした。が、今になると、ボランティアの方々がいっしょにうけんめい活動してくださったことを本当にありがたかったです。あのと生まれたばかりだった赤ん坊ももう二歳を越え、元気に走りまわっています。ふれあひセンターでこの子を抱いてくださった方々に見ていただきたと思うほどです。

三度目の夏を越えてもまだ仮設住宅に残っておられる方々も、どうぞ無事に進む道、帰る家を見つけれられますようにとお祈りするばかりです。

(佐脇 暹子・翻訳家・三六歳)

仮設住民【声のカード】

96. 11. 24 新白浜・玉手仮設住宅

- ・元の神戸に帰りたいし、お金もない仕事もないし生活が苦しくなっている状態です。もっと被災者にお金を下さい。(男)
- ・県住があたっただけれども(明石)。喜んで行くのではありません、やはり早く神戸に帰りたい。
(60歳・女)
- ・仮設から仮設に移動するがやっと神戸に帰れる。(70歳・女)
- ・県住の再募集で明石が当選の葉書が届いて嬉しい反面、本当に神戸に戻らなくていいんだ
ろうか、・・・後に残ったお年寄りの人達が気になる。(50歳・女)
- ・月に2回神戸の病院に行くので一日も早く神戸に帰りたい。(70歳・女)
- ・ふれあいセンターに活気がない??? ふれあいでない特定の人ばかり利用している。
(60歳・女)
- ・お金がない。死にたい。お金がない。死にたい。お世話になりました。(50歳・男)
- ・自転車がなくなった。物がなくなるなんて・・・。(50歳・男)
- ・心まで貧乏していない。(60歳・男)
- ・住宅が当たり安心しているが、残る人達の事を考えると心配??(40歳・女)
- ・皆いなくなって寂しくなった。(50歳・女)
- ・早く神戸に帰りたい。(40歳・男)
- ・仮設にいたいような早く神戸に帰りたい様な気持ちです。(40歳・女)
- ・土地あるけどお金がない家が建てられない。(60歳)
- ・寒い。(30歳・男)
- ・早く神戸に帰りたい。(49歳・女)
- ・私は鈴蘭台の方に家が当たりました。どうも有り難うございました。(60歳・女)
- ・仲間うちで足の引っ張りあい・・・嫌になる。(60歳・女)
- ・弱い人を助けるボランティアご苦労さんです。(70歳・女)
- ・色々な事を言われても今日も活動するボランティアさんご苦労さん。(50歳・女)

平成7年11月『神戸市と仮設住民交流会』にて

（長田区 女性・全壊 無職）

●瓦礫の下から這いだしたときは時は生きてたと思いました。今ではあの時逝ってたほうが善かったかも・・・!! 行くところのない私には何時まで仮設に居られるか毎日が不安で不安でなりません。地震前、家は持ち家でしたが借地です。4年前に主人も逝き、子どもも居ない私には家を建てる力も財力もありません。肝臓を患い仕事にも出られません。神戸の中央区に姉が居ます。虫のいい話ですが、できれば姉の近くで生活をしたと思います。（長田区でもいいのですが）私の目から見れば神戸市は公共事業に力を入れて（それも大切なことですが）底辺に居る弱者を忘れて居るのではないですか・・・？

空きマンションや公団、民間の家賃には手が出ません。どうしたものかと悩める日々です。未筆ながら姫路の皆さま有り難うございます。何時まで仮設におれるのでしょうか・・・!!

会話のないのが淋しいです。

（長田区 女性・52歳 有職） 御国野

●当日は出席出来ませんが、申訳ありません。市外の仮設に出ている者は、毎日の通勤が大変です。今までは頑張らなくてとは頑張ってきました。いくらまだ若いと言っても限界があります。一日も早く神戸市の方へ行けるようにしてください。市住にも申し込んでいますが、私たちの年齢は何事にも（仮設・市住）当たらないのでしょうか。年齢など考慮して働き盛りのにんげんをもっと神戸の方へ向けて、一日も早く市の復興を早めたほうがいいのではないのでしょうか？市の方々のご苦勞もわかりますがでもアンケートばかり出しても少しも私たちの身近にそれが見えてきません。月日は流れています。私たちは焦っているのです。

（須磨区 男性）

●須磨区桜木町一丁目で被災しました。平成3年7月から週3回の人工透析を受けています。現在も姫路より兵庫区笠松まで通院中です。往復で約2千円の交通費が要ります。経済的負担が大きいです。出来たら桜木町の仮設の空き家に入れてほしい。

・病気の関係もあり、暑さ寒さの感じる度合いが激しい。いくら家賃が0でも電気代、水道代がこたえます。

・公的住宅は坂道階段があって苦手、又、民間住宅は家賃が高い。

・新築購入住宅に補助がないのは理解が出来ない。

（須磨区 女性・58歳）

●困ったことや心配事・・・あれ以来多すぎてどの程度をそう言うのか分からない位です。

昨年暮れの健診で異常なし、病気に全く縁の無かった私が、仮設住宅の夏の健診で要精検との事で病院へ行くと肝臓が悪いので毎日注射の必要有りと言われ、信じがたいことを言われました。現在治療中、煙草・酒に関係ない者でも心労と過労が原因とのことでした。

午前中通院して点滴を受け神戸へ通勤、14歳の老犬が待っているのに10時頃帰宅、12月になる

と益々込混むし一寸心配です。

質問…土地など資産が有る者は、市営住宅に入居できないと聞きましたが、本当ですか？

その他…仮設住宅や公営住宅に何回も申し込んでも当たらないし、民間の貸家もなかなか遠い姫路から通勤するのは大変でした。客が半減し収入も半分、交通費は一日3000円以上掛かるし、せめて更地に事務所だけでもと申し込んでいるが、順番が来ない。初めの内は眠れない日も多かったですが、川の流れる音もする、メダカもいる、星がきれい、夜霧の降りるのを感じる、この土地で休日などとてもしラックス出来る事を知りました。住まいと会社を無くしても、頑張っている留学生や従業員の手前、泣き言一つ言えず逢う人皆から頑張れ頑張れと言われて重圧を感じていた様子でしたが、遠くて大変だった反面ここは遠いからこそ気が休まったと思う。

その他②…私も20年米ボランティア活動をしてきましたが自分が受け身になってみて、その時何が必要なのか何をすればよいかなど大変勉強になりました。皆さんの貴い汗の玉を忘れません。

(兵庫区 女性・68歳 南駅前)

●兄とは永い事付き合っておりません。電話も住所もハッキリしません。保証人が有りません。

(長田区 男性・76歳 南駅前)

●すきま風が多く寒い電気代が高くつきます床ががたつく仮設場所によって支援の仕方が違う。

(長田区 女性・64歳 御国野)

●神戸市内の県市営に入りたい。一日も早く入居したいです。仮設住宅の道が暗くて不安です。

(灘区 女性・58歳 御国野)

震災のとき学校や病院で暮らしたことを思えば何も不足ありません。

(中央区 女性・59歳 御国野)

●今仕事がなく無収入なのでせめて3～4時間のパートでもあればと思います。

(東灘区 女性・73歳 白浜)

●毎日一人ぼっちで淋しいです。今までは沢山のお友達がありました。ものを言っても返事をしない人がいます。仮設住宅の中で苛めが有ることを始めて知りました。

(長田区 女性・48歳 白浜)

●今後、家を建てるには、失業しているし、年齢も考えると借金までして家を建てる勇気がない。だからといって高い家賃を払う生活は苦しい。県市住に入るには、条件がありすぎて、独り者はスムーズに入れそうにないし、住まいが先か、仕事が先か…。なるべく明るく振る舞っているけど、持病が白た夜は泣きたくなる。叫びたくなる。何をやっても足が地についていないので先々を思うと不安でやりきれない。神戸に帰りたいけど仮設を離れるときが怖い。神戸に帰りたいけど帰るところがない。

(兵庫区 女性・57歳 白浜)

●先日近くの県営住宅を申し込みました。姫路市内で、なるべくこの仮設住宅に近い所があればよいのですが、なければ申し込んだ所(高砂)で駅に近いようです。妹に来てもらうのにいいと思います。神戸は家賃の面で私の場合は無理だと思います。あまり遠い所は目が見えませんが困ります。代筆してもらいました。

(長田区 男性・57歳 白浜)

●この度の罹災で住む家もなくこれからどうしたら良いかと親子で心配しましたが、この地へ来て10ヶ月生活できたのは、ボランティアの心温かいご支援のおかげです。有り難くお礼申し上げます。私共も元の神戸で新しい生活が一日も早く出来るよう努力しますので支援をお願いします。

(灘区 女性・81歳 白浜)

●電気ストーブが欲しい。来年1月から入院予定。玄関の手すりと段差を直してほしい。

その他

- ◆隣の墓場からゴミを燃やし時や後に灰が飛んできて困ります。風のきつい時は止めてほしい。
- ◆すきま風がすごい。(とても夜は寒い)・断熱材を下さい。(自分で張りますので)
- ◆県市営の住宅の家賃をもう少し安くしてほしい。年金生活では高すぎる。
- ◆神戸に帰りたい。
- ◆高齢者・身寄りなし・転居先なし・老人ホーム希望。
- ◆神戸に帰りたい。
- ◆ポストが遠いのでから出来ればこの仮設に作ってほしい。
- ◆仕事の関係で今は親子別々に生活しているが、一日も早く一緒に暮らしたいです。
- ◆大切な人を亡くし、家屋や大事な物を失った痛手は例えようのない悲しみの日々です。
- ◆何故こんな事になってしまったか、虚しさだけが感じられます。これから先どうしたらよいかわかりません。
- ◆今の所、特別有りませんが、お正月も近く、神戸市は何を考えているのか？
- ◆部屋のなかに棚を作してほしい。
- ◆公共料金を免除とは言いませんが、せめて半額位にしていだけたら嬉しいです。
- ◆役所等に問い合わせは何時も市外通話で割高となります。姫路市内で対応してもらったら助かります。お金が必要。カーテンの厚い物が必要。とても寒いです。光熱費の割引を考えてほしいです。
- ◆緊急先は警察に届けております。
- ◆姫路市にばかりに依頼せず県・神戸市が積極的に関わってほしい。
- ◆仮設内の環境整備をしてほしい(舗装・街灯…)
- ◆復興より復旧が先決。(港湾・空港・都市計画より人の住める街作り)

(東灘区 男性・62歳 玉手)

●無職で寒くなるし正月が来るしお金もない。良い方法を…義援金は早く来れ。

(長田区 女性・54 玉手)

●義援金が欲しい。正月が来ても出来ない。仕事もないし生活が出来ない。

(須磨区 女性・52 玉手)

●別に何もありません。ボランティアの方々が良くして下さっているので感謝をしています。

(中央区 男性・48 玉手)

●こちらに来て3ヶ月になりますが、色々行事があった。一週間が直ぐたちます。空気も美味しいし、これで仕事があれば幸せです。家の前の汚水餅が高く困っております。何とかありませんか。

(中央区 女性・67 玉手)

●深夜の夫婦の争いごと。朝から子どもを吐り泣かせるなど…怒声。天災の折、我慢が必要と思いますが、隣人の事を考えずに暮らして居りますのでほんと疲れます。その外のことは先ず自分で出来、感謝の日をすごしています。息子が近くに暮らしておりますので恵まれています。

住んでいる各自が、気を使って、せめて自分の家の周囲の清掃は皆でしたいです。

バスの回数を増やしてほしい。

(須磨区 男性・79 玉手)

●仮設に来て幸い健康に恵まれております。空気も良く慢性気管支炎の症状も軽くなったようで喜んでおります。住宅の新築を業者に頼んでおりますが、工事が遅れております。寒くなると暖房器具が原因での火災も気になります。この年齢になると『ばっつと』して火元になる懸念もありこれだけは注意しております。

(灘区 男性・59 玉手)

●玉手仮設住宅に入居してから早くも5ヶ月になりますが、一番最初に感じたことは、空気が美味しいこと！工場がなく車の量も少なく空気がきれいなことが一番です。出来れば近辺の県住・市住があればと思っています。お金が少して出来れば早く移動したいと願っております。

姫路はとても美味しい空気がある。神戸には帰りたくない。

(長田区 男性・84 玉手)

●年を取ると人に言えぬ小さな故障が出てくる。身体自体元気な故、日常生活には異常なく普通に過ごして居る。この住宅に来たときは、少しの買い物も遠くまで、医者も近くに薬を貰いに行くのに暑いのでえらいところに来たものと閉口した。時候が涼しくなり近くにコープが出来、バスも通るようになり便利になりました。環境にも慣れ、根が呑気な性分で平常の生活になった気がします。色々とお気遣い有り難うございます。

(須磨区 男性 59 玉手)

須磨区の元の場所に息子夫婦との二世帯住宅の再建を計画しているが、資金が不足気味で満足な

家が建てられない。持ち家全壊での建て替えをする者に義援金等何らかの助成はないものか？

（灘区 女性 84 玉手）

一日も早く仮設から出られるようにお願いします。神戸市がお金がなかったら、国から義援金が出ますように皆様方困っておられている方がたくさんいます。お願いします。

（灘区 女性 73 玉手）

姫路は良い街ですが、県住が少いと思います。英賀保の町も住みやすい町で良いと思います。交通が不便です。この町にも県市住があればと思います。いくら働いてもやはりお金もなくなったので困ります。家がなくなりましたので…。

（須磨区 男性 52 玉手）

生活する上で困ったことは有りませんが、道路がじゃり道ですので車の通る所はアスファルトをしてほしいです。私は朝4時45分神戸に仕事に出ていきます。砂利道では音がするので気になります。

（中央区 男性 65 玉手）

義援金はまだ当たらないのですか、たったの10万円ばかりですか？仕事もなくお金もない人間はどうしてお正月をこしたらよいのですか？もう一度義援金を下さい。

（長田区 女性 56 玉手）

医療費免除の延長・不動産の税金免除・新築に義援金の分配をお願いします。

ボランティアの皆さんには色々の催しをしていただき有り難うございます。

玉手の住宅では楽しく暮らしております。

（灘区 男性 63 玉手）

ボランティアの皆様のご厚情に接し老夫婦共々感謝の日々を過ごし祈り候、故に特に要望を明記することは無く候。下頭合掌。

（灘区 女性 57 玉手）

土地、建物に関する法律相談を開いてほしい。仕事を紹介して頂けないでしょうか。神戸市に限らず播磨地区の県市営住宅の情報がもっとほしい。毎月一度でもよいから仮設の皆さん全員に出席して頂いて総会を開いたらどうでしょう。その場で自治会で決められたことや注意したいことを伝える。又皆さんからいろんな意見を聴くと言うふうな場があっても良いと思いますが。

（灘区 男性 45 玉手）

私自身の神経病の為、家内も就業につけず病院通いと自療養をしている状態で、市からの保護を受けており、経済的にも苦しく生活に困っている現状です。何か良い思案があればと思う毎日です。これからの冬支度の為暖房器、布団等のレンタルがあれば希望します。毎月の保護費の支給が5日

すが、それまでの期間の生活貸付、借入等が出来るものであれば希望します。米や日用品の支給があれば希望します。仮設住宅を出る時点での住宅確保に不安を感じます。電気器具、電子レンジ、オーブントースター等のレンタル等があれば希望します。全壊で身体一つで仮設に來たので家具や生活用品が無いので支給やレンタルがあれば希望します。

（長田区 女性 27 玉手）

一日も早く神戸市内に戻りたいと思います。姫路市内の暮らしもなれてきましたが、やはり何かにはつけ神戸市と違うことがあり戸惑います。それと何処へ行くにしろお金がかかるので自転車で行ける所しか行かないと言うのが本音です。

（長田区 女性 52 玉手）

3年前に腸のポリープの手術のため入院。昨秋に再入院して今年の1月10日に退院しました。落ち着く間もなくこのような事になり悪夢の事を思うと良く助かったと思います。神戸では、5回仮設を申し込み駄目で学校、知人の家とお世話になりましたが、やはり自分の部屋が欲しく最後に三ノ宮のセンターで玉手の鍵を6時間かかって頂きました。初めて来たときはどうしようかと思いましたが、やっと馴れて来て自分なりの生活をしています。道具も何もかも失った私にとって義援金は助かりました。でもいろいろ必要な物があって冬のストーブを買おうと心細い思いがしております。病院はやはり神戸に通っています。今は、仮設の前からバスがあり・・コープもで随分過ごしやすくなっていると思います。ボランティアの方達にいろいろ良くしていただき特にこれから寒くなるので頂いた衣料を大切に指せて頂きます。何時も有り難う、これからも宜しくお願いします。

先日住宅を申し込みましたがかぶん駄目だと思っております。やはり神戸に帰り馴れた土地で何かパートを見つけて少しでも働いて生活の足しにしたいと思っています。

（灘区 女性 38 玉手）

ボランティアの方が、バザー 商品を持ってきてくださるが自治会役員が『良い品とこれは私が唾を付けている』と言って私たちに手に入る物は良い品以外ということはどういう事なのでしょう？

公平不公平というのはとても難しいことと思います。役員の方が我慢なさいということはなんですか？不公平になるのだったらバザーなど取り止めたほうが私は良いと思います。

（兵庫区 女性 玉手）

バザー とか他に色々として頂くのは有り難いことですが、行けば直ぐに良い物はもう無く。早く行けば役員の方が、横において他の物を進める。こんな事では、行く気にもならずボランティアのかたにも来ていただいても何の感謝の気持ちもなくなり、それなら初めから行かない方が、腹も立たずにいられる。もう少し皆に平等に物が回るようにしていただきたい。

（兵庫区 男性 74 玉手）

定年退職してから今日まで高年齢のため仕事もなく現在貯金を取り崩して生活をしています。厚生年金も10年程かけましたが、年が足らず年金もなく無収入です。県市営住宅に入れても家賃を払っていけないので今後どうしたらよいか困っています。

(長田区 男性 57 玉手)

困った事と言えば現在、現時点の連絡先が少ないと言う事。と言うのはこの震災にかかわって、そして震災後も身内等とは連絡を取り合っていないため少し孤独感にひたる毎日が少し気になります。というのも別に理由が無いのではなく、やはり神戸からかなり距離的に離れているということです。ホームシック的な憂鬱になるのも無理はないと思うのですが…。その他で困ったことは細かい点ですが、少し駅から遠い事です。部屋の壁が薄くてプライバシーが守れなく気になります。

最後になりましたが、やはり最終的な悩みは、神戸までの距離が有りすぎます。

その他

- ◆一番困っているのはお金です。
- ◆催し物や救援物資その他お知らせ事を一々言って回られていますのでマイクを取り付けてください。家賃の安い県市営住宅を希望します。
- ◆こちらに住みたい。
- ◆街灯をつけてほしい。
- ◆家賃の安い公営住宅（一万円）。
- ◆この住宅の・・・号は、・・・の持ち主になるのですか。???
- ◆神戸に早く帰りたい。毎日思う。
- ◆仕事がありません。現在はパートで収入が少なく生活が苦しい。
- ◆職業安定所も何度も行きますが、なかなか思った様に仕事が見つかりません。
- ◆災害援助資金・・・保証人がいないので借りることが出来ません。
- ◆平成9年末が来れば住宅は姫路で良い。(厚生年金の受給資格が出来るので)
- ◆仮設の人がお金を借りに来る。友人でもないのに困っている。
- ◆ゴミ当番等の当番が仕事の都合上なかなか出来ず苦しい。ここにもやっと馴れてきた。
- ◆環境に馴染めないところもある。
- ◆神戸大学病院への通院が大変。
- ◆皆さん良くしてくださって喜んでおります。有り難うございます。
- ◆別に困ったことは有りませんが、早く神戸に帰れるようになりたい。

【被災3周年 被災者の気持ち】

平成9年1月17日

〔御国野雇用促進宿舎 男性 48歳 サービス業 全壊（全焼）〕

誰もが予期もしなかった震災私たちは人生の谷間に突き落とされた様な感じでした。明日は我が身に言う言葉と震災のむごさを語り難いで行く事、震災に負けず立ち直る事の重さを人間としてやり遂げて行きたい。

私は震災当日から一年八ヶ月、一個の人間として、地区の中で子どもたちやお年寄りの人達の為に全力を出し切って参りました。我が地区はおかげ様で、いち早く区画整理事業の仮換地指定も決定し、地区の皆さんに喜んでいただきました。まだまだ資金面、住宅建設の再建のなかでローンで苦しむ事がたくさんこれから先出てくるでしょうが、何事も負けず頑張っているものと確信しております。今は、家族の再建のために、姫路の地で家族仲良く懸命に働いております。

震災によって失った物は、計り知れないほど大きいと思いますが、それ以外に家族の有り難さ、又友達、周囲の人達、親戚、色々な方々に励まされて、助けられたことが一杯あります。震災で亡くなられた方々の為に私たちは震災を乗り越え今まで以上に幸せにならなければと痛念している今日この頃です。私は、震災後地区の会合（会議の中で）（地権者集会）（借家人集会）の中で亡くなられた方々への弔い合戦だと言っておりました。どんな気持ちで亡くなられたのでしょうか心の中を情けなかったに違いありません。

震災を思い出す事、語り継ぐ事も必要でしょうが、震災をバネに大きく人間として成長する事の方が大事だと思います。県命に残された命、社会のために尽くしたいと思います。

姫路の地より神戸を思い出して……。

震災によって自分自身負けたくなかった。

〔男性 44歳 無職 全壊〕

医者にかかりたくてもお金がないのでそのまま過ごしております。又整体術で直る高血圧、腰痛も直すことが出来なくて困っております。お金さえあれば早く直して仕事に就けるのと思っています。月日のたつのは早いもので、老いて行く年齢の事ばかり気にする今日この頃です。きちっとした仕事に就けることが難しくなりつつあります。

〔女性 41歳 有職（パート）全壊〕

仮設での生活面でいろいろと言われているようですが、賢淑を言えば切りがなく仕方が無いと思っています。おかげ様で、私たちは周囲の方々によくしていただき有り難いことと喜んでおります。

一人でお住まいの方も沢山いらっしゃると思いますが、自分から心を開いて接する様にすればもっといろんな面で広がって行くのではないかと思います。

〔男性 60歳 無職 全壊〕

私はこの3年間病弱で入退院を繰り返しております。

〔女性 47歳 有職 全壊〕

職場が神戸なので一日も早く復興住宅が当たり神戸へ帰りたいと思っております。

〔男性 67歳 有職 半壊〕

仕事が神戸なので交通費がたくさんいるし身体も倍も疲れるように思う。一日も早く市住の低家賃の所へ行きたいです。

〔男性 43歳 有職 全壊〕

兵庫県、神戸市に対して、いろんな面で頑張っておられる方に対してテレビを見て有り難いと思っています。

なるべく皆さんの要望に答えてもらえるように頑張ってください。お願いします。

私たち自身も前向きに一生懸命頑張って神戸に帰れるように毎日送っております。

行政に対して皆さんが神戸に帰れるように・・・お願いします。

〔男性 53歳 有職 全壊〕

①公営住宅を申込み当選を早くしたい。

②神戸で早く仕事に就きたい。

③神戸の情報を早く正しくつかみたい。

④神戸での生活と同じようにこの住宅で他の人と皆仲良くしたい。

⑤収入がもう少し有れば・・・と思う。

⑥ボランティアの方達が多くきてほしい。

〔女性 80歳 無職 全壊〕

私は、心臓病なのでペースメーカを体内に入れておりますので、身体の調子がよく変わることがありますので、身体の休まる時がありません。

〔男性 72歳 有職 全壊〕

個人保障をしっかりしてほしい。病気の時には、どの病院がいいのか迷います。

人と人との交流がないため、ストレスが溜まりやすい。

〔女性 48歳 無職 全壊〕

希望する住宅がありません。主人が病院に通っているので困っています。

〔男性 72歳 有職 全壊〕

被災者に対する国または地方公共団体の個人保障が極めて少ない。この宿舎は、まだよい

が他の仮設住宅は可哀相なくらいと思う。話し合い（コミュニケーション）の機会がなく、従って団結と友愛の交際がない。特に老人や病氣の人にとっては明るい環境が芽生えるはずがない。動物と同じように冬期は戸外活動が出来ないから冬眠状態といったところである。施設は御成りだが人間関係の構築には、不可能な要素が多すぎる。今後の改善が望ましい。生活状態が個人主義的で団地生活には魅力が見いだせない。従来からの特殊な慣習の影響も感じられる。

〔男性 51 歳 無職 全壊〕

個人保障をしてください。

〔御国野住宅 女性 73 歳 無職 全壊〕

家の事が不安です。公的保障をも少ししてほしい。

〔女性 38 歳 有職 全壊〕

個人保障と家をお願いします。

〔男性 62 歳 有職 全壊〕

生活がしんどく感じる。明日が見えない。

〔男性 57 歳 有職 半壊〕

もっと個人保障をしてほしい。

〔南駅前住宅 男性 62 歳 無職 全壊〕

ボランティアの皆さんの活動は、一生忘れることは有りません。

〔女性 62 歳 無職 全壊〕

姫路にはいろいろお世話になり、お礼の言葉もありません。神戸には2年ぐらいで帰れると思っていましたがお先真っ暗です。高級なマンションや公営住宅ばかりで、何時になったらと考える。度々申し込んでも、落選ばかりです。ストレスが溜まります。一日も早く私たちにあった住宅を神戸でお願いします。世のため人のための思いのボランティアを引き続きしてください。

〔新白浜 女性 50 歳 無職 全壊〕（ふれあい喫茶責任者）

仮設を出るまでこと（人間関係）。

また出たからの新しい住居代のこと。

みんな自分ひとりで決めたり・・・。

自分ひとりで悩んで決めたり・・・。

自分ひとり自分ひとり……。
つかれた　　。
だけど自分で決めるより。
やっぱり流れに押し流れて。
ここまで来たのかもしれない。
何一つ自分で決められず……。
今度どんな流れがあるやら……。
人に優しくしたら誤解され。
腹立つ事を言われてもぐっところえていたら。
すぐ顔に出る……と言われ。
何をしても何か言われる度に。
私は迷う。

〔女性 68歳 無職 全壊〕

残り少ない人生もあの憎らしい大震災。何もかもパーです。小学校で丸5ヶ月生活し最後まで取り残されどんな淋しかったか、又仮設でも残りそう。何とも言いようのない悲しさ・住居の決まらないこの不安・何度も死を考えた事も有ります。

〔女性 63歳 無職 全壊〕

常々お世話になり本当に感謝しております。
この度の私事の思いは、突然の病気で一人暮らしの不安が本当に心配になりました。
幸いに、家族の常々の心配が痛いほど感じられた日々でした。

〔女性 47歳 無職 半壊〕

ボランティアの皆さん有り難うございます。これからもよろしくお願いします。

〔女性 73歳 無職 半壊〕

一日も早く一生落ちついて生活できる所へ行きたいと思います。

〔女性 78歳 無職 全壊〕

早く神戸に帰りたい。お願いします。

〔女性 64歳 無職 全壊〕

公営住宅を早く当ててほしい。

〔女性 59歳 有職 全壊〕

神戸で市営住宅が当たればよいと思いますが、神戸に帰った時、当分は仕事が無いと思い

ますので、小額の家賃でも払うのが困難と思われます。願わくば個人保障をしていただく事を願っております。

〔男性 69歳 無職 全壊〕

自然体で生きたいと思いながら一日一日を過ごしています。

〔男性 70歳 有職 全壊〕

人生自力更生あるのみ。

〔女性 66歳 無職 全壊〕

早く住宅が当たることを祈る。一日も早く神戸に帰ること。

〔女性 62歳 有職 全壊〕

姫路に来て一年半になります。皆様に恩いがけなくお世話になり大変有り難く思っております。皆様の思いやり一生忘れません。ボランティアの皆さん有り難うございます。寒さの折御身体に気をつけてくださいませ。

〔玉手仮設住宅 女性 71歳 無職 全壊〕

一日も早く神戸に帰りたい。

〔男性 61歳 無職 全壊〕

当地に来て早一年半が過ぎ去り、私は当地に住み良かったと思った。私は、元々大阪出身で特に神戸は仕事の関係上居ただけです。空気も良い姫路で過ごしたらと思います。

仮設に入居して感じたことは、私たちの為に心からのボランティアの方々のご苦労、これから生きていく行く私どもに大きな目的が生まれたと思います。有り難うございます。

〔女性 59歳 有職 全壊〕

最近ふれあいセンターの運営の事で悩んでいます。今のままだと私自身が病気になりそうです。毎日が仕事とセンターの事で眠れません。何とかならないでしょうか。勝手なことを書いてごめんなさい。

〔男性 50歳 無職 全壊〕

皆様方のご挨拶の中に季節柄『寒いすね』と良く言っていますが、私は何時もこう答えています。今までは、集金前や給料前は『特に寒かった』けれど地震から『どこもかも皆『寒い』』と答えております。寒いのは一つや二つでは有りません。と笑いながら申しております。こう言う状態を『…も立たずへーも出ず』と言うのでしょうか？。

これはお酒を飲んで誓いたものではありません。

何時も家族の事を気にかけて頂きまして感謝致しております。有り難うございました。
年末の年越しそばは、美味しかったです。 何時も有り難う。

〔女性 87歳 無職 半壊〕

お蔭様にて皆様のご温情に幸せに暮らしております。感謝申し上げます。早87歳位まで世に置いていただきましたから十分でございます。幸せのなかに逝きたいと思いますが、なかなか迎えに来てくれません。何をする事もなくこんなに年寄りばかり多くなると何をする事もなく、早く幸せのなかに逝きたいそればかりが願いでございます。

〔男性 35歳 無職 全壊〕

昨年は、仮設の応募件で出しても当選はしないと思っていたし、希望の場所もなかったの
で出さなかったが、今年は前向きに応募しようと思っている。

なんせこの場所では、動きもとれないし、ここからではなかなか神戸の方迄交通費が高く
つくし、本職も見つからず、バイトで繋ぐ生活にうんざりしている。早く本職（美容師）に
戻り活気に満ちた生活に戻りたい。バイトを見つけても同じ仕事内容でも姫路はバイト料が
安く感じるし仕事をしてても張りがなく嫌気がさすのはと感じる。とにかく今年はこの生活か
ら脱出したい。

〔女性 32歳 無職 全壊〕

子どもが居るので落ち着いて学校に行かせたい。

〔男性 33歳 無職 全壊〕

仮設住宅は、世間で言われている通り、夏は暑く冬は寒い本当にプレハブそのものです。
厳しい暮らしの毎日だと思います。それに部屋作り自体が全体的に薄っぺらな作りなので両
隣の声や物音が丸聞こえで時には電話で話をする声まで聞こえてくるのでこちらとしても本
当に気を使い、非常に生活していく上で不便を感じます。

〔女性 24歳 無職 全壊〕

仮設住宅は、壁がうすいので隣の物音がよく聞こえてうるさいと感じたり、逆に自分がう
るさくて隣に迷惑をかけたりと思い、気まづくなったして大変でした。特に、話し声が聞こ
えた来たりして、お互いのプライバシーがあまりないように感じられます。

〔男性 67歳 有職 全壊〕

長い仮設住宅に疲れ果て前途に希望も夢も失い先々行末を考えるとノイローゼになり、
酒に頼る事もあるが酔いが醒めると又行末を考え仕事をして出来るだけ考えまいと仕事をし
てみるが、夜が来ると床に入ると脳裏に浮かぶ、知人友人の居る神戸に帰郷に望みをかける
が全く何年先に仮設から新住宅に夢を託すかさっぱり前途が見えず人生嫌になる。

〔男性 78歳 有職 全壊〕

地震から仮設生活とこれからの前途を考えると不安とおびえて来るだけで考えると頭がへんになるので、酒の力を借りるときもある。夜静かになると同じことを考え自分ではどうすることもできない。

情けない始末だ。職業も年齢的に余り長続きも出来ないだろうし早く友達のいる神戸に帰りたい。

地震対策アイデア



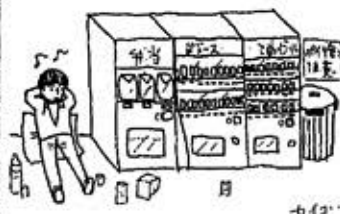
★各戸にメスゴリラを飼う。
寝る時に腹の部分をかけ布団代わりにすると体毛があたたかい。
ライフラインの切れた時には母乳で食料をつなぐ。母乳タダ、しかも飲み放題。
※母乳人数制限あり。エサ代をどうするか問題。

地震対策アイデア



★遊園地にある、外側は動物で中に入ると風船クッションの部屋になっていてピョンピョンはねて遊ぶヤツ。
その中に住む。
いくら揺れてもケガしない。ふだんから訓練している事になり、揺れてもバランスをとる事になてくる。
※相当慣れないと取れない。

地震対策アイデア



★家の中に自販機設置
地震が来れば中のコインがチャラチャラ鳴って地震を知らせてくれる。
食料と水は確保。
※電気が来ない時が問題

地震対策アイデア



★施設の開放
国宝などの建物を被災者に使ってもらおう。
国民があつてこそ国宝である。
※かえって気をつけて生活しにくい？

<玉手仮設住宅>より

(二度と地震はいりません)

〇〇中学2年 女性

(1996. 1. 26 記)

1.17、マグニチュード7.2。これは1月17日午前5時46分、あの憎たらしい忘れられない阪神淡路大震災の数字です。

笹舟のように左右に揺れ、トランポリンのように上下に飛び上がり…。私はまるで洗濯物のごとく家の中でかき回されたりほり上げられたり、たたきつけられたり、最後には、目が回って、口からあわが出るほど、怖かったです。

しばらくして、天井を見ると、青黒い空が見えるではありませんか。天井も屋根ありません。家の中のものは散乱し、抜け落ちた天井の下から、カニのように這い出した私の家族は九死に一生を得ました。そして、命のあったことを喜びました。

頭から、手や足からも血を流した人達が、たくさんフラフラと歩いている姿に思わず体が固くなってしまいました。その後も小さく地震が体に伝わってきます。あわてて、箱型の軽自動車で安全な広い場所に避難しました。そして、公衆電話をかけに行きましたが、テレホンカードではかからず、10円玉を何回も入れなおして、無事を知らせました。

この時、心ない近所の牛乳屋が、牛乳の1リットルパックをとんでもない値段で客引きをして、売り込んでいるではありませんか。

放心状態の人が歩き回り、よく見ると靴もサンダルもなく裸足なのです。

私の家族にも、無風の時のヨットみたいな一日が始まりました。お腹のすいたのも、のどがかわいたのも忘れ、また、怪我をしたのにも気付かずに。

空には、ヘリコプターの数が増え、カーラジオも別のラジオも全く聞こえません。やがて、夜が来て、長田、須磨の火事が夜空を赤く染めるのです。ガス、電気、水道は別に何とも思わずに、ひねれば出るもの、スイッチを入れればいいものが、そうでなくなって初めてありがたさが分かりました。

車の中で3日過ぎて、東は駄目なので、祖母の親戚のある加古郡稲美町へと逃げました。ここで思ってもみなかったドラマが始まるのです。大人の言葉を借りて表現したら、他人一人入ると、何10年の付き合いも冷たくなるということが、現実になりました。そのおうちで説明できぬ2週間を過しました。悩んだ両親は、神戸の学校の先生方の力をお借りして、残りの日を神戸の避難所に入れていただくことになりました。私も、弟も、父も通った小学校の教室での生活が始まりました。うれしかったことは稲美町の親戚とは、正反対に食べても、食べても、ネタ切れにならないことでした。お風呂のない着の身着のままでの生活でしたが、思いの他、早く日が過ぎて、姫路に来れる日が来ました。

2月17日、元の学校で最後の授業を済ませてから、現住所のタツボの社宅に、別にいた父母も来て、地震から1ヶ月ぶりに、家族5人、おいしい暖かい、林の家の味の夕食を食べた時、家族の目に光るものがありました。

1ヶ月の間に3度も転校するはめになって、くたくたの私を〇〇中学校がやさしく迎えてくださってありがとうございます。先生方をはじめ、お向かいの同級生の栢坂さん宅には、いろいろと未だ

にお世話になっております。

暖かい南の国から帰ってきた姫路のツバメには家がありますが、神戸に帰ってくるツバメと私たちには帰れる家がありません。

「うぬぼれた人間よ。自然に対してあまりにも自分本位なことをするな。」

と教えられたのが、今回のこの地震だと私は思います。どこのだれとも分からない人同士、少しの物も分け合い、安否を尋ね、人間が裸の動物に戻りました。家の電話番号や住所が急に思い出せなくなったり、とんでもない組み合わせの漢字を書いたり、天気の良い前日には、頭や体中がズキズキ痛んだり、わが家には、まだ地震が引き続き残っておりますが、お世話になった方々に一生かけて、恩返しをしていきたいと思ひます。

1年が過ぎた今でも、たくさんの方々が入院しています。父も50歳になります。毎日、仕事探しに出かけております。

もう、二度と地震はいりません。

(1997.9.現在 姫路〇〇高校生)

田 中 喜美代

ボランティア様、6月11日のしあわせ村の旅行は本当に楽しかったです。震災に逢い1ヶ月過ぎて『フロ』が恋しくて、友人と2人雪の中をタクシーで行った事が思い出されました。入浴するにも1時間待ちしんどかったけれど、帰りはさっぱりして気持ちよかったです。この度はスムーズに入れたし、時間もたっぷりあり、よかったと思います。日本庭園も1周してきてカメラがあれば撮りたいところがありました。御弁当とかいろいろと係の方は大変だったと思います。バスもクッションがよくてゆったりしていましたネ。また何かあれば誘って頂ければ参加したいと思っています。私の近所は仲が良くて本当によかったと思っています。これからもがんばるつもりです。いつも御苦労様です。

(玉手仮設に入居して)

岩 槻 功

早いもので玉手の仮設住宅に入居してから早、丸2年になります。

私は、若い頃からスポーツ好きで時間があればグラウンドで走り廻っておりましたが……、1月17日あの一瞬の出来事！

私は、急をようするレントゲン検査のため須磨の国立病院へと……約6ヶ月間入院、そして玉手に入居！杖をついての生活が始まりました。

当初仮設内は砂利が一面に敷かれ杖をついて、いや自転車で外出時は私にとって一番困りました。のちに通路がアスファルトになり動きやすくなり近辺を歩いて歩いて、やっと平成8年4月杖がとれ現在に至っておりますが、やはり手足が痛み特に指先が不自由しています。

当初は仮設内の出入り口にテントを張り我々にボランティアの方々が勤めの言葉を掛けていただいたものです。

私もこの近辺と申し上げますか、いや英賀保の街が好きです。

出来ることならこの町で永住したいと考えております。

私はこの2年に学び経験したことをこれから人生に活かして行きたいと願っております。

(97.5.7.記)

（仮設住宅民住所感）

長谷川文治（87才）

ことの始まりは、平成7年1月17日午前5時56分。どんの音と同時に体が宙に浮いたか尻を打って、目が覚め寝返りして四つ這いに。砲弾の下を潜り、胆の太くなっているが、一瞬閃く、尋常でない。危ないか、予感がない、動かず待て、これも閃き。後、続け様にどンドン、終わって雨の音明かりで窓から見る、降ってない。玄関に回るが施錠部が飛んで開かない。隣は静か。寒いので着替えて寝間にもぐこむ、停電で寒い。窓が白んで、人の声。常夜灯が付き元気が出る。テレビ、クーラ、ホームこたつの電源を入れ、窓からキイをだし「誰か玄関を明けてください」。隣の人が聞いて門まで、扉が歪んで開かない、門扉を外して入ってきて、キイを取る。暫くいじって居たが開いて、キイを返して帰る。門まで出てみると泥水が渦巻いている。水道本管割れたとか、中に入り倒れた筆筒を整理、コタツに入りテレビを見る。

転やわんやで5月末。この間、余震が激しいので、飛んだ家の記録をとスケッチ書いて取る。地盤沈下はと、水盛りが無いので、6畳2間の中突に糸を垂らし、縄糸を引き直角を三角定規で調べ、修正高さを測る。左の壁際と中央は、中央が24センチ低い、中央と右の壁際はこちらが4センチ低い、都合高低差28センチなり。記録は一週間に一度調べ異常なし。電話が通じる様になり田舎に電話、神戸の友にもかける。一人、北町の同級生、元女医の小田部、ベルが鳴るが山ない、切る。罹災証明を早くと、息子夫婦が言うので、歯の治療の後、区役所へ。道筋の女医さんのうちを見る、戦前の古い長家べちゃんこ。区役所は大変な人で諦めて帰る。電話する、応答無し、線も切れず受話機も外れず下敷きらしい。罹災証明が出来、全壊を見て、息子夫婦も諦めて解体しようという。住宅は、嫁が走り回って家から近い玉手住宅という。お爺さんも行って本人が行くと早いと一緒に行き、手続きが出来1棟35号のキーを貰って帰る。行き先が出来れば、引っ越し準備と、家の解体手続き。準備は俺が星電社に電話、クーラ三台外してもらった。道具類は親子で来て荷造り、孫が行き先の札を張る。玉手、飾磨、山崎等、不要品は整理して出す。老いては子に従え、みている。問題は解体手続き。嫁が、個人スーパーの主人が外交員に電話することを知り、食い下がって、外交員と会い交渉、話を決めてしまった。大した物だ。協議の結果、引っ越しは6月4日になる。

6月1日、甥60代で死去。2日、3日、葬儀。雨大変だったが省く。天気が気になる。3日俺が帰る時嫁がJR阿賀深で会って神戸で泊まった。朝起きると好い天気。朝食後、食器類の梱包にかかる。AM9時過ぎトラックが着く。他にバン、息子と孫が入ってきた。後嫁の上姉夫婦と子で三人、次の姉、妹、大勢だ。それと、運び出すのを4屯トラックに親子が積む。11時頃終わって出発。屋前頃飾磨のお婆さん家に、荷物預けて、食堂の小部屋で昼食。後、玉手住宅へ、荷物を降ろして、息子夫婦は残り、お手伝いは帰った。荷物の整理、置く所に置く。「お爺さんテレビの線付けたら」「付けよか」でいじくる、特別放送で各局同じ、サンテレビだけ違うので他は待つ。その内特報が済み、暫時合す。ビデオは画面出ぬので諦め「勉強せなだめだ」とつぶやく。息子が電話線をいじって居たが、「お爺さん見たって」嫁が言う。「みよか」でみる。コンセントが1ヶ余分になって居る、取ってつなく。つないだら「何番押すのかな」、嫁が「〇〇〇番」、それを押すつつながりました。こえ、早速息子が試運転。遅くなったので帰り、俺は初めての夜をすごす。2日めも夫婦は来て、押し入れの整頓や、拭き掃除もしてくれた。帰りに嫁が「明日午後、解体屋の外交員がきて、三者契約

書を作るから、お爺さんも立ち会って」と告げる。3日め、朝食後所在なく思う。外観はともかく部屋の畳はしっかりして居る、台所も必要品が最小限置いてある、おまけに風呂があり、洗面所、鏡、俺にとっては贅沢くらい。其れにしても思い出す。戦後三年会社の敷地に、神戸市が住宅を立てて、会社が借用社宅にして工員に貸した。俺は借家を追われていたので申し込んで入った。哀れなもの、付いて居るのはトイレだけ、六畳と三畳の畳はぐさぐさ、窓ガラスは割っていて其の都度空気が開く。通り庭で裏に出ると、雨ざらしに瓦斯と水道栓がある。これでは女が可哀想と、物の無い時、材木屋を捜して、板を買って来て自力で垂みなりの炊事場、出窓、通り庭に縁、大変だった。午後、嫁が早目に来て隣近所に挨拶、外交員もくる。嫁が三者契約書に記入、俺が捺印、契約済み。後の手続きは外交員任せ。外交員が予定は〇日、機械を入れて翌日より解体と告げて帰る。嫁がスーパー、医者の位置を略図に記入する。3日めAM10時散歩に出る。目的はスーパー探しもある。道を東に取って飾磨中尚東十字路で、左へ少し行くと東側にスーパー。近付いて置くが商品が少ない。打ち切って帰路につく。6月そろそろ暑い、帰って人生史を少し打つ。夕方、洋子ちゃんが来て夕食を食べさせてくれ帰った。昼と夜の菜は作ってくれる。朝は一人身になってから味噌汁は自分で作ってきた。ここに来る時、材料は、だしじゃこ、だし昆布、本だし、味噌赤白、人参、芋、うすあげ等当分の量があるから、スーパーがみつからんでも凌げる。「毎日来ること無い、3日に一度位」と言うが聞かぬ。住宅で孤独死の新聞記事が気になるらしい。家の解体の日、朝早く来て、「お爺さん、住んで居た家の解体見るの嫌だろう、私が行って見て来る」と行ってしまった。一人の時は新聞・テレビ見るか、キイ叩くか、散歩に出るかが、日課の様なもの。夕方帰って来て、色々話しをする。傑作はクーラの外機を忘れていた、其れを外交員が車に積んで、「上郡まで帰るから、あんたも乗れ」で、乗せて貰って帰ってきたと言う。夕食、食べさせて帰る。

平日は平凡そのもの、散歩も川の上手から町の方へと、広がる。この頃ボランティアという人が尋ねてくださる、有り難いこと。お陰で私は持病がなく、健康で居られるのを喜んでいます。6月は年金の現認届を出す月と話すと、「私も行く」で、都合の良い日を見て、JR阿賀保駅からにする。当日AM10時来たので、住宅を出て歩く。阿賀保駅だ。財布を出して切符という。姫路から新快速で神戸駅、市バスで住んで居た天神町へ。家の跡を見て、御近所に挨拶。昼時で馴染みの寿司屋で昼食。市バスで区役所へ、証明印貰って前のポストに投函。長田から山電で、西飾磨迄、疲れたのでタクシーで帰宅。やれやれで万歩計を見ると一万歩だった。電話と言う便利な物があるから、都合の悪いときは電話して休めと言うが、電話せぬので、雨の日はこちらから電話して今日は休めと言う。ここに来て初めに感じた事は、「えらい不便な所だ」、何処に行くのもタクシー。ある時、散歩に西飾磨方に行き、この辺にウェルマートがあると思い、道端の人に聞くと見通しの良い所に連れて行き、指差して「あの赤い屋根です」と、親切さに厚く礼を言う。目印を目当てに辿り付いたら相当なスーパー。入って見る商品も多い、必要品を買って帰る。

6月末、頃薬が少なくなったので、前に洋子ちゃんと英賀保へ歩いた時、「この辺に木村内科が在るはず」と言ったので、探險がてら散歩に出る。近くに行き、道に居る人に聞くと、丁寧に教えて呉れた。礼をいって、辿って行くと見つかった。日を改めてと帰る。翌日保険証と書類揃えて持って出る。一本道を歩く前に着き、時計を見ると20分。受付で手続き、控えて待つ。呼ばれて診察、色々聞かれて精密検査。終わって「2・3日でわかるから来なさい」、薬を受けて帰る。暑くなったので散歩はAM6時から朝食前に済ます。医者の結果は2度め薬を貰いに行ったとき聞く。正常で異常

在りませんで終わり。薬貰って帰る。暑くなって困るのは、医者薬貰いと、ウエルマートの買物。住宅もクーラ付けても32度止まりで下がらぬ。一人住まいの気安さ、上下肌着で、32度では上も脱ぐ。暑い時はシャワーで涼ぐ時もある。夜は案外温度が下がる夏の寝間着でごろ寝ができる。

テンやワンやで9月も終わり。通知や噂で10月からAコープが開店、市バスが通る様になる、住宅にとっては大朗報だ。俺の頭の不便な所が断ち消えになるだろう。開店で色々の催しが在ったとか、商品券がくばられる、ちょっと覗いてみる。バスが通って姫路へ買い物に行きたくなる。ワープロのインクリボン、カラーも、ビデオのテープその他小物も。洋子ちゃんに話すと「私も行く」と言う。太子町へは生まれ故郷で一人でも行かすが姫路は駄目らしい。「お爺さんいつ行くの、都合のよいとき13日どう」「いいよ」で決まり。当日10時のバスで待ち合わせ姫路に行く。星電社で買物、昼で食事。後、帰るだけと「私、薬を見てくる」、其れは、かゆみどめの薬。前に頼んだのが、飾磨には無かった。「其れならバスターミナルで待っている」、着いてきて「ここで掛けて待って、次のバスが出るまでに帰る」と行ってしまった。帰って来て「何処もない」と言う。バスが来たので帰る。

ここに来て暫くして2号棟の向かいの家の人、名が分からぬのでAさんにする。憐の犬を散歩させていた。心安くなって毎日元気かと声を掛けてくれた。時には説教もした。「息子の嫁さん、毎日良くて呉れるな、有難くおもわなあかんで」。こんな事も話した、「震災で仕事を失って探して居るが、皆安いのではんぞい」と言う。両隣も合えば挨拶して呉れる、段々もの言う人か増える。Aさんは散歩の途中川をはさんで、行き違って手を挙げるのが挨拶。秋になって田の水を切っている。川の堰も開けたのか、水が減り鯉が腹すって泳いで居る。子供が入って手掴みをやっている。住宅の土手では住人が昆虫の網で鯉をすくい2匹目に熱中していた。案外居るものと感心。

12月になって〇〇の婦人会から餅、〇〇の老人会から米というように、またボランティアの方が、色々物を持って来られる。其の都度こちらは恐縮するばかり。洋子ちゃんが餅を見て、「今年は正月餅充分やな、仏さんと、さんぼうさん、(はまのこと)だけでよいな」と笑う。今年も息子と孫が年賀状の印刷に来た。親の話しでは孫はお婆さんのもしているという、幾らかせびっていると笑う。年末が近付いて、ミカン一箱、塩鮭一本、ボランティアの方が持って来られた時は驚いた。私一人で食べきれませんと辞退したが、「各、家に持って行って居ますので、受け取って下さい」で、置いて帰った。何処から出ているのか、驚き恐縮した。洋子ちゃんも見て驚く。ミカンはばあさんが食べたが、俺は食べず林檎だった、其れで「子供に食べさせい」という。「重いから少しづつ貰って帰る、鮭は持って帰って切って良い所をお爺さんに持って来る、後、弁当のおかずにする」と言う。何のことはないおこぼれが息子の所に行く。正月といっても老人のこと、何の変わりもないが。2日午後例年の如く皆来て会食をする。この時は楽しい時間だ。3日は年賀状を見て面影を忍ぶが段々少なくな成るのが寂しい。今年元女医さんは無い。

正月がすんで町は平常になる。俺は72からの隠居に変わりない。変わったのは年が増えたのと、医者のおすすめで薬を飲んでいること。ボランティアの方その他の皆さんも尋ねて下さる。親切心で有り難いと思う。何の返礼もできぬ、ただお受けするのみ。この地に慣れて、のほほんと暮らして居る。楽しみはテレビの時代物、日曜の昼NHKの囲碁を見ること。酒は飲めぬので肴は不要、ビールは旅行かおよばれにコップに一杯。ここに来た時、向かいに足の悪い人がいた。名は分からぬのでBさんにする。いつも裏の戸を開けて座って居た。洋子ちゃんが良く話していた。正月前後と思う

が、自転車に乗って居るのを見かける様になり、道で合うと話すようになる。いつもお爺ちゃんと話しかけてくる。いつだったか木村内科で薬を貰って帰る道、後から、「お爺ちゃんどこへ行っていた」、「薬を貰いに」と言う、気を付けてなと先に行った。正月後Aさんを見なくなった。たまにあって聞くと、働きに行きよると言う。今日は面白くなく休んだと笑う。バスが通るようになって薬貰いは片道乗る。しんどい時は阿賀保駅前からタクシーで帰る時もある。

時候は春めいて、散歩に出ると桜の咲いて居るのをみる。悪いが、毎日が、気楽で呑気なこと。いつだったか洋子ちゃんに悪い様に思うとゆうたら、お爺さんが元気だからと言うた。

隣36号の若い衆が、神戸に帰ったのが、5月か6月か？はっきり記憶がない。「今度神戸に帰ります、お爺さん元気で過ごして下さい」と、丁寧に挨拶して行った。

6月、今年は法要の当たり年。一番手の案内が来た。洋子ちゃんにお供えの菓子を用意して貰って行く。「帰りに送って貰いな」と言うた。80代に成ると長老で大切にされて呉れる。帰りは住宅まで送って呉れた。息子に電話、「膳料をすけて呉」という。洋子ちゃんが来て「お爺さんの」と手際良く分けて、夕食を済まして帰った。夏が来て思出す。去年は大変だったウエルマートの買物、薬貰いの往復、日傘を持っていたが、アスファルトの照り返しで暑かった。

盆に息子一家も墓参りすると言うので、天気が悪いが押してみんなで行く。墓参りが済んだら俺は残るが息子は急いで帰った。夜中に雨風だった。翌日姪が子供乗せて、住宅まで送って呉れた。

10月は法要の2番手。11月、3番手それぞれ参る。2軒とも60代で若死にした仏。

ここに来た時の思わくは息子の近くに家を見つけてと思ったが、たまに在っても年を聞いていい顔をしない。其れに3月迄に空ける宛のない者は延期願いを出す様にて出した。市住宅課に申し込むことにして、最悪の時は神戸の土地に、老人が住める位の家立てる事に、話し合った。

正月は去年程ではなかったが、相当の贈り物があって有り難く正月を迎えた。年明けでと思う住宅課に電話して「長田区の房王寺町の市住に空き家在りませんか」、「あると思います、ちょっと調べます」、「暫くすると「在ります、申し込まれますか」、「ハイ」、「用紙を送りますから所と電話番号を知らしてください」、で知らず。2・3日で電話があり、送ったの帰って来ました。玉手の字が間違っていたらしい、「教えて下さい」、教える、特送か。

＜新白浜仮設住宅＞より

福 田 とし丞

ここへ来てから約一年たちました。ボランティアさんにはいろいろとお世話になりました。なやみを聴いて頂いたりしました。でもやっと神戸へかへることが出来ました。本当に有り難うございました。(H8. 6. 6記)

上 林 綾 子

平成7年1月17日。世界の人達までびっくりされたと言うあの惨状から1年5ヶ月が経過いたしました。止むに止まれぬお気持ちでボランティアの体験をなさいましたことでしょうか、そんな方達も徐々に少なくなられたやうですね。色々な御都合で辞められたのでしょうか、それとも被災を免れた人達に心を煩ってもらってと思ったり、嫌になられたのかと怪しさを覚えます。長い間本当の勇気ある岸岡さんはじめ皆さまの善行には唯々頭の下がる思いでございます。

私も無料のこの仮設で勿体無いと感謝いたして居ります。それでも熱風吹き込む部屋に閉じこめることしかないとき「せめて日中だけでもクーラーをかけて涼みたいなー、電気料金を忘れて」と思います。ことに長い長い今年の冬布団から出るとぶると縮みあがるような寒さ「ストーブで部屋いっぱい暖かくしたいなー」と次々と崩れてゆく体調に耐えながら静寂な夜、更に涙する日もありました。高齢者対策と喜ばしい事柄も新聞紙上で見受けます。法や制度は解りません。不信がかえって募ります。2年先のことより私にはあすの日が大切なんです。私の感想文でございます。

只今の一番楽しいことは名古屋市立植田南小学校の可愛い6年4組のお便りです。からふるな便せん封等似顔絵38名さんの寄せ書き、それぞれのお顔を想像しながら読みます。

そしてどうぞ皆さん方、金のしゃちほこの名古屋城より、しらさぎの城の姫路城よりも勝る『日本の宝』になって下さいと念じます
(H8. 6. 記)。

中 川 (女性)

先日はひな人形をいただきありがとうございます。娘は昨年11月に生まれたばかりで今年は初めてのひな祭りでしたので本当にうれしかったです。

3月3日まで飾り、当日はお祝いもしました。まだ引っ越し予定もなく大変ですが、主人共々子供の為にがんばっています。仮設での生活は大変な事も多いですが、こうした皆様の応援をはげみにこれからもがんばります。本当にありがとうございました。



中 村 敏 子 (新白浜)

私は震災の日は、入院中でした。もし家にいたら死んでいたでしょう。仮設も5回も外れて、申し込みに行って、空いてる所どこでもいいって白浜を選んで来ました。白浜も選んで良かったです。役員の皆様、ボランティアの皆様には親切にして頂いてよく面倒見て下さって甘えるばかりで、申し訳なく思っています。仮設に移ってから入院3回もして、一時は落ち込んでいっそのこと地震の時死んだらよかったと思い込んだこともありました。でも皆様に逢ってから、生きるってことが素敵なこと思うようになりました。1日も早く元気な体になり恩返ししたいです。早いんですね。もう3年

目を迎えるんですね。

9月には引越人が多いようで淋しくなります。でも喜ばしい事ですね。だんだんふれあいセンターに集まる事が少なくなりますね。楽しみにしていた旅行にも2回とも行けなくなり残念でしょうがなかったです。早く住宅が当たって引越したいと思う半分、離れたくない気持ちもあり、複雑な気持ちです。姫路の人々は皆やさしく親切な人が多いですね。名前は分からないけど、おまわりさんのOBの方、毎日顔を見せて下さって体の事を心配して下さい有り難い事です。また保健所の人、心のケアのボランティアの人々、なかなか人が出来ないことを忙しいのに人のためにすることで有り難い心でいっぱいです。

<南駅前仮設住宅>より (私と地震)

山下 照 美

地震から早2年半。

前月から風邪で床についていたが中央市場市場に行っている人から中トロをもらい「一杯吞まずばなるまい」と一人悦に入り吞み食いして床についた。

午前5時過ぎ目が覚めて、テレビはどこも放映なく、本でも読もうと思い石油ストーブに火を付けかけたが、何を思ったのか布団の方が暖かそう。布団に入り本を読んでいた時。グラと右揺れでステレオが倒れ、左揺れで糊の物が落ちてきた。布団を頭から被り、二度ドンドンと上下に突き上げられ何が起こったのかわからず、怖る怖る布団の上に迷い目を懲らし、何一つ物音がなく一瞬の静けさ。あの静けさは今でも忘れられません。辺りを見まわしたら目の前に本棚とタンスが迫り出してきた。茫然自失……。その時「火事や火事や」の叫びで我にかえり階段で階段の踊り場まで行った。階段がない。手探りで探したがない。ガラスの山。踊り場の方から声が聞こえた。「誰か居るか、誰か居るのか」男の人が大声できけんでいた。「此こにいます、助けて下さい」と云ってるとき、道幅が2m50以上ある筋向かいの娘さんが隣の空き家の窓から「おばちゃん私も助けてもうて」と来たのには驚いた。「一緒に助けてもらおうね」……。

私の住んで居るところは旧名中道市場の中で、ごたぶんにもれず全店閉店してました。開店をしていたら大火事になっています。とうふ屋さんは朝が早いからその時間には火を起こしている時分です。

マンションの裏に水槽タンクが下に設置してあり、タンクの上から手を差し伸べてくれたが窓が高く巨体(62キロ)のため登れません。もう一度アタックしたとき、隣のブロックの塀と私の家に挟まれ「得手がちがうので力が入らんから手を持ち変えるから」と云い片手で私を支え身体がじょじょに下がっていく、手を持ち替えてから一気に引き上げ、タンクの上に乗り地面に下りました。娘さんも助かりホッとして自分を見ると長バジャマの下が脱げて下着一枚で震えていた。そのとき「亀井です。私は大丈夫ですが家内が埋まっています、助けて下さい」若い人たちが駆けつけて助け出されました。マンションの人にスリッパとズボン・上着を借りましたがお腹が出ているからズボンが半分しか入らず、それでも寒さは凌げました。その格好のまま水木小学校へ行き、まだ避難所には人がまばらでしたが市場の人達の顔もまだ揃わず、とうふ屋さんが埋まっているが、梯子だけではどうにもならず堀がないと掘り出せないと、皆一生懸命でした。何時間かするととうふ屋さんの

顔が見え、炬燵の下に潜っていたので助かったそうです。自分が助かると知人の安否が気懸かりで、外へ出てみると暗くて見えなかった町の様子の様変わりを見て、心が寒くなりました。親戚の家も傾き今にも倒れそうでした。私の姉たちは中央区に住んでいますが、電話するにも一銭の金もなく親戚に人に借りやと連絡がつき「皆元気だから安心するように……」。親戚の人にスポーツ用上下と皮のジャケットを借り着して、やっと人心地がつかしました。「姉の所へ行く」と云う私に「死ぬも生きるも共にしよう」と云ってくれ、五位池の親戚を頼って行きました。その間でも大きな地震が頻発に私たちをおそい、夜もろくろく寝られず、揺れが来る度に一斉に立ち上がり揺れが止むとまた横になりの繰り返し。2日程して妙法寺の団地に住んでる人の家に仮住まいするようになりましたが、長田の家のことも長田区役所へ行き、その後の対策も見聞きたく、板宿までしか電車がありません。それでも毎日長田区役所へ行き、その道すがら熱いコーヒーを無料で吞ませてくれたり、長田の変電所の前に行けば何日でも無料でうどんが食べられました。知人が少し荷物を出してくれましたが殆ど置いたまま。人間助かれば欲が出る、嫌ですね。脱出した時の窓はなく押入の上の壁がくずれ、そこから中が少し見え青空も見えました。

気分も落ち着き嫌に挟まれたお腹と両足の擦り傷が熱をもって痛みで座することができず、棚からの落下物で寝起きすると胸が痛みました。「病院に行って治療してもらいに行く」と云うと「病院へ行ったら何しに来たと云われるよ……」。一週間後診療所で診察をしてもらい、胸の痛みをうったえると先生は「骨の1本や2本折れていてもどうってことない」と云い、腹と足にヨウチンを塗るだけでした。姉の所へ泊まったり、中の姉の所へ泊まったり、約半月ほどして夜布団に入ると汗でびしょりと濡れる日が続きました。それでも毎日長田へ出て行きましたが、心身共に疲れが溜り、弟の家でダウン。39度3分の熱が出て歩くことがつらく医院まで行くのが大変でした。点滴を打ってもらい少しは楽になりました。それから弟の家に居候することになり熱も下がり、また区役所通い。

或る日、区役所の椅子に座っていると若い女の人が寄って来て「何か困っていることはありませんか、あるのでしたらお手伝いさせて下さい」と云ってくれました。倒れかけている家から少しでも物を出してほしいと話すと、時間を決めてその日に来てくれました。テレビ・着物・服など、外人1人と他に5人の男の方が来て下さり知人の仮設（都市計画用）へ運んでくれました。有り難く後ろ姿に手を合わせ涙が止まりませんでした。捨てる神あれば拾う神ありですね、この世は。

私が弟の家に居着くと弟は一人の時は電話・光熱費は定額やったのにと愚痴り、定額より多い請求額になれば私の負担とするから……。私がいると生活のリズムが合わないのか、西宮の子供の所へ行くからと着替えを持って出て行きました。色々な事があり、お酒の毎日でした。時折、弟が帰って来て「仮設まだ当たらないのか」「申し込んだがハズレた、今度は当たると思うから」と弟に云いわけをし、2回目に姫路の仮設が当たりホッとした。今度は「何日行くの、何日」とせつつかれ。「6月の〇〇日」と云ってもその日が雨で、甥の車を出してもこの雨ではとうてい無理。会社の車なので日曜日しか使われません。2回取り止め、3度目も雨。居るに居られず雨でも決行しました。

仮設に落ち着けばまた別の心配で、何日まで居られるのか。これから先は？ うづの続く日々でした。頭ではこれではいかんと思うが身体が働かず、唯日々を重ねているだけでしたが姫路の皆様やさしさに触れ前向きに考えることにしました。

姫路の皆様、ボランティアの方々本当に有難うございます。重ねてお礼申し上げます。

そびえ立つ 天守のまちに 仮りずまい

病む妻に刻を問かるゝ夜長かな

乳母車ゆるゆる土堤の暖き

山一つ越ゆれば柿の小村かな

一輪の菊に明るき四登平

踏青やきらきら光る播磨灘

対岸の灯の美しき夕端屈

播州路の秋祭

秋祭仮設住宅ひっそりと

出稼の雀が戻る街路樹に

『慈愛』

百姓が嫌な家を出て行けと母言いつてゝ戸外に去りき

行くがよい後はどうにかなるだろう母つくづくと吾を見つめき

古里をいで行く吾に母親は元気でやれと一言ありき

これは七十年前母とやり取りをした事を思い出したもので
母の心を思えば自分は人愛親不孝者 今日このような事に
遭遇するのも当然のことかと考える

平成八年二月

『震災詠』——平成七年最悪の年——

梅雨晴間復興進む街に立ち思い起こせり五十年前

振り向けばどこの誰かは知らねども懐かしそうに道問われけり

抱き来し妻の遺骨を須磨寺に納めて戻る初夏の陽浴びて

年老いて昔なつかしさつまふかして独り今日も味はふ

独り居の仮設住宅二三本半をふかして分かつ人なし

日々の炊事洗濯手に慣れて夕は明日の米研きにけり

葉牡丹に米の研き汁かけやりぬ浄土は如何に釈尼照念よ

骨折の妻は地震に襲はれて避難の途中帰らぬ旅へ

震災のあと絶望の暗闇に神の恵みの仮設住宅

わが住い仮設なれども住みよくて唯だ有難く手を合やすのみ

独り居の仮設を友の訪ね来て元気でいるか大きな声で

被災地を遠くはなれし仮設にて新しき年迎えり吾は

再建は老いの身背に手立なく除夜の鐘聞く仮設住宅

雨露を凌ぐのみにて不足なし仮設住宅・時借用

仮設にて独り住ひの八十翁日々の粗食に亡き妻偲ぶ

多事なりし平成七年今正に過去の歴史となる除夜の鐘

この度の阪神大震災の被災者として現在仮設住宅にお世話になって居ります
一年経過した今尚当時の恐ろしい事が次々と思ひ出されて夜も眠れず
東の空が明るくなる眠らねばと思えば思う程目がさえて一夜を明かす

平成八年八月二十日

<玉手仮設住宅>より

(1997年 9月 今思うこと)

濱 田 勇 蔵

1995年、平成7年1月17日未明5時46分。未曾有の大地震で、昭和53年、三世代同居のため二階建てに新築した我が家は傾き、敷地に支柱を建て補強する余地も術もなく解体し新しく建て直すことになり、私達老夫婦は姫路の仮設住宅に、次男夫婦と孫は加古川のマンションに移りました。老人会の知人は近所に文化住宅の空き家があるのに無謀なことはするな、齢を考えると諫めてくれましたが、姫路は家内の故郷に近く、警察官の甥の勤務地でもあり、家賃が無料であるのにひかれ、若干の不安を抱きながら、仏壇・冷蔵庫・洗濯機など最小限の荷物を運び、移住しました。冷暖房・エアコンや浴場・便所・炊事場の設備も整い、これからの日常生活は支障なく、我が選択の正しさを妻と喜び合いました。この時の安堵の心と感慨は終生忘れることが出来ません。傾いた家で余震の度に怖い思いをして過していた不安が消え去り、この家なら倒壊しても大事に至る懸念は無いと確信したからです。

入居して間もなく愛想のよい郵便局員の方が二人速れで来訪。ガス・水道・電話料金の自動払いの手続きをして貰いました。我が住いは4棟32号です。1棟には東から6戸長屋が西に6つ並び36号まであります。北側と中央の広場を挟み10棟も並列しています。被災地では避難所暮らしの人々も多数あると見聞してますのに100戸余りも空き家になっております。不思議に思いましたが私達は幸せすぎて思いやる心が欠けておりました。飽ばかり重ねて浅慮なことに気が付き恥じております。近くに農協系のスーパーが開店し、市バスの運行も始まり、とても便利になり助かりました。電話でタクシーを呼んでも割り増し料金や待ち時間の加算もなく、近距離の英賀保駅や西飾磨駅に乗車しましたが、運転手さんの嫌な顔を一度も見ることがありませんでした。神戸との差をつくづく体験しました。また近くの水尾川をはじめ夢前川や市川の堤防上の自転車道が整備されており、書写山麓や港までの往復、また花見で城を一周したり名古山公園など各名所を自転車で楽しく日課にして見物して回りました。道路が平坦です。膝痛が持病で杖を頼りに歩いている老齢80歳の私でも平気で乗り走ることが出来ました。川筋の空気は清浄です。健康や体力保持に随分役立ったことと思っております。

ふれあいセンターが完成し、通路は舗装され、広場の周囲に花や木の鉢植えが並べられ、仮設の景観は一新しました。ボランティアの青空グループの皆様も活動はセンターに移り、呼び掛けに応じる人達も増えました。甘党の私は菓子や『ぜんざい』やコーヒーをご馳走になりました。記録はしていませんが100回は超えていると思います。催し物やバザーは毎週有りました。ピンゴで掃除機を戴き、高価な品が当たり驚いたことがあります。招待を受けた東芝祭りや、相生市高年クラブより招かれた紅葉祭りやかがし祭り、昼食までご馳走になり有り難いことでした。荒川校区老人会連合会の招待を受け、皆様と一緒に手柄山の養寿園で講演を聴き、感動の涙に咽び童行体操で笑い、昼食のあと入浴で寛ぐ。またの日は施設見学会で科学館見学後、隣接の星の子館でかつては日本一だった天文望遠鏡の説明を受け宿泊施設を見る。一泊して夜空を眺めたいといっとき興味を覚える。レストランで勿体無いほど高価な昼食をご馳走になる。午後、書写の里の美術工芸館と城西に在る

好古園を一周する。

連合会会長・黒田忠雄氏の説明は手慣れたもの。経歴と奉仕に感嘆、改めて敬服する。岸岡様と初めてお話し合いをしたのはセンター前で奇術手品の公演のあった時でした。前々よりお姿は仮設内の歩行中を何回もお見かけしており、御名前は知っておりました。何かの招待に参加。観光バス車内での言行に私は関心を持ち、注目しておりましたところ、笑みをたたえた顔で万遍なく公平に接しておられました。私にはどんなに訓練を受けても真似の出来ない態度に写り、感服致し生来のものかとも思え羨ましくなりました。

仮設での暮らしは高齢者として特別な扱いを受けました。当初懸念していた危惧も不快な出来事も何一つなく、変事を探せば朝方は暖房、昼は冷房にしたことが数回あったくらいです。留守にしているとき雨となり洗濯物を隣の方に取り入れて戴き嬉しかったこと。気管支炎で夜中咳き込み、隣の方を睡眠不足にして欠勤させ、連夜迷惑をかけたこともありました。南里自治会長には車で医院の送迎を煩わし、御世話になりました。師走の半ば、読売新聞に家内が写真入りで姫路署員から安全袋を貰う仮設住宅の居住者として記事になり、コピーして親族親戚に配り家宝にしております。

神戸に帰り早1年3ヶ月になります。新しい家で一冬を過ごし二つ目の夏も終わりかけております。地震直後の室内は電灯は落下、家具は倒れ、よくこれで怪我をしなかったものだ。古い平家に住んでいたから下敷きになっていたのに。これもひとえに神仏の御加護のたまものと喜びました。年月がたつと被災時の気持ちもうすれ、近所の家は外壁に亀裂が出来た程度ですんでいるのに、何故自分の家は傾いたのだ。工務店の施工が悪かったと恨み、安普請だから傾いたのだとの噂を耳にして立腹する。私名義の家は消滅してなくなり、次男名義のこの家には私も現金で応分の援助をしている。長い期間、ローンの支払いが続く大変なことになりました。今年は台風の襲来が多い。これからが本番。地震や台風にビクともしない頑丈な家に住みたいと思うのみです。(H9. 8. 28記)

伊 藤 成 子 (玉手)

瞬時に会社と自宅を失った私は、天井まで積み上がった家財の下で地震を知りました。身動きする度にわずかに有った空き間も狭まり息苦しくなっていくなかで、私が早く這い出して助けなければ彼女を死なせてしまうという必死の思いが想像もつかない力を与えたようです。当時、私はボランティアで5年あずかっていた中国の留学生と一緒に被災しました。幸いその彼女も怪我はなくホッとしたものの、死者の中に多数の留学生もいたことで、安易な好意で外国の大切な娘をあずかる責任の重さ大きさに身が凍る思いをしました。

地震のショックで耳が聞こえなくなった老犬をつれて入居出来る貸家もなく、避難所、居候を経て、遠隔地で入り手のなかった姫路の仮設住宅に入居することが出来、仕事と全壊建物の整理などに往復110キロを通う毎日が始まりました。交通事情が悪くどうかとすれば片道2時間もかかり、たまりかねて更地に老後の蓄えを使い果たして小さい事務所兼住宅を建てたものの、水とガスが通るまで更に半年かかるのでした。全壊建物の後片づけという作業は、大切に使っていた物や、8年間も在りし日のままにしていた亡夫の形見の品々まで捨てる、精神衛生上もよくない、重くて辛い重労働でした。とうとう腰痛で這いずりまわった日々も経て、血の滲む思いでやっと建てた家に水が来なくて住めない？そんな馬鹿な!! 復興って何だ？ 自助努力って何だ？ 掛け声だけで足を引っ張り生活権を阻害するのは外ならぬ行政じゃないか!! 長蛇の列をクリアして相談に行ってもタライ回し

か、受け付けても返事も来ない。その間、あの日私の上に落ちて来た倒壊物の何十倍もの重たい物が私一人の肩と心にのしかかって、憤懣やる方ない思いは、這い上がって来る度に赤鬼や青鬼がサスマタで火の海へ突き落とす、あの地獄絵図さえ思い浮かべるのでした。心配されるから辛いとは言えない。しかし諸々を考え夜も眠れない。そんな日々の重なりが知らない内にすっかり肝臓を悪くしていました。酒飲みでもないのに、過労とストレスが原因で「放っといたら死ぬぞ」の医者言葉に少しゆっくりする気になったら、田を渡る風、川の流れる音、何年ぶりかで聞く揚げヒバリ、メダカもいた。牛蛙も鳴いている。ここはいいな。仮設住宅の炎天下で埃にまみれたボランティア学生の黒い汗。毎週毎週学生を率いて来られる先生の背中の汗。編み物や料理教室。どうですか？と声を掛けてくれる同じ顔。今まで色々のボランティアをして来ましたが、自分が受ける立場になって勉強になりました。何の気負いもない、慰着せがましくない、気長に続ける同じ顔ぶれに次第に心がほぐれてとても《元気》をもらいました。私は今、神戸定住外国人支援センターの日本語ボランティアの会で、あの時言葉が分からず倍の苦勞をした外国人に日本語を教えに通っています。私がもらった《元気》を他の誰にも分けて上げたくて……。

その節は大変お世話になりました。

お名前も聞かずでしたが、きっとあのお方かな、と自分なりに想像しています。いろいろとお氣遣いいただきました中国からの留学生は、無事に大学を卒業して中国へ帰り、すぐに中国で結婚しました。今年の暮れごろには母親になります。

あのよく吠えた黒い犬は、元の所に帰ると耳も聞こえるようになり、元気に番をしていましたが、今年のお盆に老衰で死にました。17歳半でした。

私のほうも掘っ建て小屋のような小さい家にもやっと慣れて、忙しくしております。ストレスになる原因がなくなったので、悪くなっていた肝臓もすっかりよくなりました。落ち着いたとは言え、また地震当時のことは、あまり書いたり、本当はとても辛かったのだ、などと発表したことがありますませんでした。

ネットワークの皆様にもよろしくお伝えくださいませ。

1997年9月3日

<新白浜仮設住宅>より

平 山 桂 子

あの朝、地震が手荒く私をやり起こした。

あの時、2階で寝ていた私は、窓から外へ振り落とされるかと思うほど畳がまるでトランボリンみたいに跳ねた。暗がりの中、やっとの思いで外に出て、足は自然に学校に向かっていった。校門近くの路上に駐めている車がヘッドライトをつけて暗い道を照らした。そのライトの光りに雪がチラチラ舞い散る光景が、今も切なく目に焼きついて離れない。その車を取り囲むように人が集まり、カーラジオを聞いた。何度も余震に怯え、人は蒼白で無口になっていた。あちこちで火の手が上がり、煙が夜明けの空をまた暗くして、太陽が直視できた。消防車が……、救急車が……、パトカーが……。どれがどのサイレンやら、けたたましく鳴り響いた。空にはヘリコプターが低く飛び、校舎の窓ガラスをゆさぶる。それがとてつもなく怖くて耳をふさぎ、悪夢なら早く覚めてと何度も祈った。し

ばらくして何かに急ぎ立てられるように外に出た。今思うと、何故、燃え狂う火の側や倒れた家の屋根が道路を塞いでも避けもしないでその上を歩いたのだろうか……。頭から血を流している人、毛布かぶっている人、たくさんの人がどんどん歩いてた。遺体を並べていたのを見ても何も感じなくて、ただ人の流れについて歩いた。あれはどういう意を待つ行動なのか今もって判からない。

1日経ってやっと表面の乾いた冷たいおにぎり一つ手にした時は涙も出なかった。3日目、やっと校庭にNTTが設置され、弟妹に連絡がとれた。受話器の向こうで「生きとった!! 生きとった!!」の言葉だけだった。次の日、弟がリュック背負って何時間もかかって歩いて来てくれた。背中も腕もくい込む程の荷物で汗いっぱいかいていた。毛布、お茶、肉マン、乾かない様にクッパに詰めて沢山のおにぎり……。涙が止まらなかった。炊き出しのうどん、熱い物を口にしたのは5日目だった。風呂に入れたのは14日目。

避難所は風邪が流行し、咳と埃とトイレの悪臭で悩まされ続けた。この地震で誰もかれも思いもよらぬ暮らしを味わった。何度も身を置く場所を変え、職も失いこれから何を目的にどう生きるか、すっかり気持ちが萎えてしまった私でした。

望まないままに決めるしかなく、駅名の読み方さえ分からない神戸から遠い遠い土地に建つ仮設に7月入居。蛙の鳴き声。側にお墓。少しの風に怯え、雨の音に耳をふさぎ、各家からの生活の音が異常な程大きく聞こえて怖かった。住む所じゃない……と、当初は有り難さを忘れてよく嘆いたものでした。この仮設は神戸の人ばかりなのに誰一人知る人が無くて、私は益々孤独で、部屋にこもりがちの毎日でした。

早いもので、夏生まれの私はこの仮設で誕生日を3回迎え、もう知らない人が無い迄になりました。いい経験もしました。でも、いくら月日を重ねてもこの土地の人に成りきれず、神戸にも帰れない。中途半端のまま秋にはこの仮設を出ます。降り立ったことの無い知らない土地に行きます。高層住宅での生活を思うと不安です。健康のことや仕事探し、人間関係、いくつものハードルがまだまだ続く。いつまでも感傷を引きづってはいられないし、1から出直すには年を重ね過ぎたと弱気になります。弱気になっても立ち止まる余裕はもうありません。「急がずに」「休まずに」自分の歩幅で進むだけです。暗やみの30センチ程の間から外に出たあの朝から、今日まで私に関わって下さったたくさんの人、ありがとう。

(97. 8. 23記)

.....
(鏝 かすがい)

廣 岡 幸 雄

陸軍で大隊本部経理に属し警備隊の建築関係、主としてその資材、器具等の管理業務をやっており、為に鏝というものの効用等をよく教えてもらったこと。

今度の震禍で旧木造平家住宅（筑後40余年）は全壊しました。外壁内壁屋根瓦の殆どが剥離崩落し、居間より青空が見られる状態でありました。それでも大屋根を支える棟木や各骨組みとなるべき木材は、何ら剥離することなく崩れなかったのです。

東西に長い我が家はその途中で構造材の連結ヶ所があったにもかかわらず、怪傷一つなく脱出することが出来た。その原因として鏝の効用があった。

即ち入居して10数年頃よく屋根裏等に入り、当時の台風あとの屋根裏をよく点検したものでした。その時、むき出しになっている棟木及び粗材と粗材の連結部が何となく不安定に思えてならなかつ

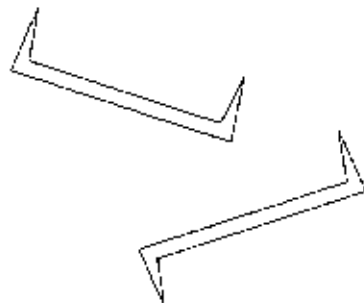
た。その時分軍隊時代の鋸等金具の効用を思い出し、すぐに街の建築金物業者を訪ね、各種の鋸を50個位買い求めた。暇を見ては屋根裏の柱類等の連結部分を十二分に鋸を打ち込んだのであった。

震災後全壊状況を点検に来られた方々が屋根裏を見られ鋸がよく効いて崩壊を防いでおることをうなづいて帰られたことを思い出す。恐らく、これ等鋸は正に対震効果を果たしたものと云える。

当時、屋根の継ぎ目の真下で寝ていた私達は、圧死の難を免れたとも思われ、正に鋸は命の恩人となったといっても過言ではなかろう。今もその鋸に感謝の念を抱く毎日です。

脱出後、私達は暫く住居に困りましたが、運よく姫路白浜地区仮設住宅に入居させていただけたことは感謝の外ありません。また仮設在住中は幾重にもお世話になり、気持ちよく過ごさせていただいたこと、また各行事と共に今もいい思い出と喜んで居ります。

この震災で得た教訓は、人と人の絆にも、またカスガイが大事なことだと思いました。(H9. 9. 2記)



(心の癒し)———仮設地域外から

東灘区 森 梢

深い深い闇の淵に

独り立ちすくみ

手さぐりの人生をひとは知る

死すことすら許されず

ただただ涙するのみ

力つきて地に伏せしとき

ひとははじめて神と出会う

暖かさに抱かれて

ひとは人となりゆく道をそこから始める



平成7年5月13日

私達は神戸市東灘区甲南町より、姫路市青山を経て現在、飾磨区矢倉町の県営住宅に居住してい

ます。

あの日1月17日を境に家族4人の生活は大きな変化を迎え、それぞれの心に哀しい深い記憶のミゾが刻まれています。

死者の一番多い東灘区でありながら、幸いにも家族に一人の不幸も無く、それまでのボランティアの流れから、夫婦共すぐさま助ける側に回れました。友人・知人の多くは被災者です。

震災後、今日までさまざまな相談を受けながら神戸との往復が続きました。そしてそれは自分自身や子供達のPTSDに向かい合う日々でもありました。日常の時の流れは「大震災」と言う言葉すら、あっと言う間に人々の意識から消しさり、いつまでこだわっているのかと言う言葉すら出ている現状の中で、あの体験は私達に何を問いかけているのだろうか？と考え続けております。

創作している者にとっては、受けきれないほどの大きなテーマを示された思いは今も変わらず、未熟な私がどこまで「作品」と言う形で答え続けられるのかは分かりませんが、「癒しの絵画」に生涯取り組み続けてまいります。

宇治市 ハント給子（森 梢友人）

当日、半分目覚めた状態の時に初めのゆれを感じて、「ああ、地震か。いつものように震度3ぐらいですぐにとまるだろう」と軽い気持ちでいたのですが、だんだんゆれがきつくなり、家中のものがガタガタ音を立てだし、今までに感じたことのない強いゆれにびっくりして飛び起きた私は、外がどんな状態になっているのかを知りたくて素足で外に飛び出していました。すると見慣れた宇治の景色はまるでダリの絵のように空間がねじれて見えました。当時大阪の学校に通っていた娘が、駅まで送って欲しいというので、私は車を出してふっと空を見上げた時、異様な月の光を見て二度びっくりしました。普通なら満月の光は四方八方にまんべんなく発されているのに、その時の月光は上下にしか光線は出ていなくて、まるで光の筒の中に月が浮いているような感じです。とても不吉な予感がして、背筋がぞっとしたのを覚えています。

当時、我が家にはテレビがなく、その日の昼ごろになるまで神戸が大変だということを知りませんでした。ニュースを聞いた時、東灘の古いアパートに住む親友のことが心配で、パニック状態になり、頭が混乱してオロオロするばかりで、どうすればよいのかさっぱり分かりませんでした。あのふるいアパートは真っ先につぶれて友人たちは全員下敷きになったに違いない。初めはそう思いました。心を落ち着かせて、意識を友人に合わせて、彼らがどんな状態かをさぐって見ようと、ありったけの集中力を発揮して見た結果、大丈夫という感じを受けたので、きっと彼らは無事にいると確信して、彼らからの連絡を電話の前で待ちました。私が感じたとおり、彼らから、家は全壊したが全員無事であるとの連絡が入り、ほんと胸をなで下ろしました。

友人の無事を確かめてから、何か自分たちにできることはないだろうかと思い、自分の所属している協会の江坂の近畿本部に電話をしたら、すでに緊急対策本部が設置され、会員の方たちが炊き出しなどをしているということなので、明るく日、私は上の娘と家にあった食料品をかついで、普段着で江坂に向かいました。途中の電車の中では、きれいに着飾った人たちが、何事もなかったように笑いながら話をしたり、また、若い男性二人が、「今、神戸にいったらもうかるで〜。」などと、話しているのを聞いて、不愉快な違和感や悲しみ、憤りを感じてしまいました。二日間江坂で炊き出しを手伝って、21日の朝、家に残っていた主人と下の娘に連絡を取り、梅田で落ち合って、考え

られる品物を持てるだけ持って東灘に向かうことにしました。西宮北口で見た光景は、まるで映画で見たことのある戦後の買い出しの行列のようでした。その列に加わり、歩いていくと、足の不自由な男性がゆっくりとしたペースで、大きな荷をひいているのに出会いました。西宮のお兄さんの所に食料を届ける途中だったそうです。別れぎわに、「あなたの友人に差し上げてください」といって、自分の持っていた荷から食品を下さいました。不自由な思いをしてせっかくここまで運んでこられた荷物と思うと、本当に心からありがたいと思いました。

芦屋のあたりから信じられない光景が目飛び込んできて、がれきの山という言葉がこの時初めて心底理解できました。一軒の家が粉々に跡形もなく壊れて、本当に小さながれきの山がいくつもできていたのです。一瞬にしてこの状態に壊れたら、逃げる暇などなかったに違いない。今もこの小山の下には何人もの人たちが埋もれているのではないかと考えると、なんともやるせない気持ちになって、祈るのも忘れて無言で通り過ぎてしまいました。見なれた神戸の町並みは見るも無残な姿に変わり果てていて、意識を半分とじた状態でないと、とても受け止められないほどのショックでした。

がれきの中で親友とその家族の無事な姿を見た時は、お互いに深い絆を感じて、抱き合って笑い泣きしてしまいました。その時に、友人が「やっぱり私たち、本当の家族やねー」と、しみじみ言った言葉を、私は一生忘れないでしょう。私はただ、彼らの側に行けたことがとてもうれしかったし、彼らもそのことを心から喜んでくれて、家は全壊というひどい状態だったけれど、心はお互い温かいもので満たされていました。その晩は傾いた家に雑魚寝して、翌朝無事だった者の荷作りをする中、アパートの住人の話を聞かせていただいたのですが、震災の直後は命のあったことを心から喜べたのに、今は家の残った人たちが恨めしいと、愚痴が出てしまう、そんな自分の心変わりの速さを嘆いていました。友は自分の親元は無事だったからいいというので、私たちの持っていた品物はすべて他の人達に配ることにしました。変わり果てた真冬の町角で、人々に声をかけると、品物は見る見るうちになくなりました。その間、誰かに差し上げて下さいといってタオルや水を下さる方もいました。常日頃、あまり価値を置いていないタオル、水、缶コーヒー、ラーメン、カイロなどを、それは喜んで持ってゆかれました。自分も被災者なのに、他の人達に、「共に頑張りましょう」と、声をかけながら、品物を配る友人夫妻を見て、私は本当にこの人たちと出会えてよかったと心から思わずにはいられませんでした。その場は、冬の寒空の下だったのに、天から光が降りてでもいるような暖かい空気で包まれていました。数メートル向こうでは、野菜を高値で売っている人たちの姿もあり、人間の持つ明闇を同時に見せていただいた時でもありました。

帰りには神戸の重い空気の中を歩いてたからでしょうか、西宮北口にたどり着く頃には異常に体が重くてまるでカタツムリの様にはしか歩けない状態になってしまいました。必死の思いで、泣きたい思いでやっと大阪に帰り着いた頃には普通の状態に戻って楽になりましたが、やはり行きの時と同じように神戸のことは頭中になく様な素振りで見ている人たちを見て、又ショックを受けました。

その後何度か神戸に出向きましたが空気の重さや痛さはだんだん強くなって行ったように思います。行く度に頭痛に襲われたりひどい嘔吐感を感じたりと、心身共に傷ついて帰りました。その後自分たちが震災の二次災害に遭ったんだと気付くまでに時間はかかりませんでした。私の頭には白いものがドッと増え、主人共々軽い言語障害にかかってしまったのです。自分の話したい言葉がす

っと出てこないで、まるで関係の無い言葉が二人の口をついて出てきてしまうのです。又その年の6月に横浜を歩いていた時、震災のカンパをしておられる方に突然声をかけられたのですが、私の口から〈私も被災者です〉と出てきて自分でもびっくりすると言う出来事がありました。それから宝塚で震災にあい、家が全壊した他の友人の話を聞いている時、その方は淡々と語っておられるのに私はサンドイッチを口に含んだまま、大泣きしてしまったこともありました。

この原稿を書くにあたって当時の色々な資料を見る時、涙を禁じ得ませんでした。震災の3日後に神戸に入り数回行っただけの私の心がこんなに傷つき泣いているのですから、当時被災された方の心の傷は外からでは計り知れないものがあると思います。ましてや大切な方を失った人達や我が命を失った魂達が本当に癒される時はいつの日かくるのでしょうか……。あの忌まわしい震災以来本当に自分は一体これから何を一番大切に、どうやって生きて行けばいいんだろうと自問し続けました。傷ついた神戸を目の当たりにして、今までの自分の価値観がドッと音を立てて崩れてしまったのですから。これからの私の人生は色々なことで深く傷ついた人々の心を少しでも癒して差し上げることに費やして行きたいと願い、自分の煩惱と魂の眠りとの戦いに悪戦苦闘しながらの毎日を過ごしています。願わくば震災に合われたすべての方々の心の傷が一刻も早く癒されますように。

.....

東灘区 土 本 浩 之（現在加古川市）

1995年1月17日に、各地で大きな被害をもたらした震災があり、亡くなられた方もたくさんおられたのは、知っておられるでしょう。

私たちの住んでいた東灘区のアパートも全壊となりました。

父は仕事の関係で別の所にて、無事だったのですが、母と私、そして妹は、崩れたアパートの下に埋まっていました。その時の私は、一瞬気がついてフトンの中にもぐり、すぐに背中に何かあたり、気を失ってしまいました。気がついた時は身動きが出来ない状態でした。その時、母の声が聞こえたのですが、それはもう今思い出してもおそろしい地獄からの叫びのようでした。しだいに声も小さくなり、とぎれとぎれになっていきました。

妹はというと、私の横で寝ていたのですが、母や私の呼びかけに答えてくれたようないないような……。

何時間後かに最初に母が、そして私が助けられ、私はそのまま入院しました。妹のことがものすごく気がかりでした。何日か後に親戚の方がこられて両親は大丈夫だということを聞いたのですが、妹は「あかんかった」と予想が当たってはほしくない方に答えは出ました。しかし不思議と悲しみは沸いてきませんでした。

再会したのは、1月の終わりで、みんなが病院にきてくれました。小さな箱に白い布で包まれていました。まだ暖かかったのを覚えています。本当に悲しみが沸いて来たのは、加古川に住むようになってからです。潰れたアパートの下から取り出してきた妹の物を整理し、写真を見るたびに涙が止まらない目がしばらく続きました。6歳下の妹とやっといういい感じで2人でいろいろ話しもできるようになって来たなんて思っていたのに。

あれから2年8ヶ月が経ち、世間ではだんだん震災のことはうすれてきているように思いますが、私の心はあの日のままです。

東灘区に住んでいた所の近くの公園に亡くなられた方の名前を刻んだ慰霊碑が出来ており、近く

へ行った時は必ずよってあのことを忘れてはいけなと新ためて確認しています。

この震災で新しく知りあった人や、人のあたたかい気持ちを大切にしていきたいと思ひます。これから今までよりもつらいこともあると思ひますが、妹は私の心の中であの時のままで生きています。そう思えばいろんなことも乗り越えて行けるでしょう。

多くの失った命をムダにしないためにも生きて行かなければなりません。「必ず神戸へ戻る」という気持ちをいつまでも強く心にもって。

〔サマーキャンプに参加して〕

場所／神奈川県小田原 子どもキャンプ

日時 1996 8・9～8・11

小田原での経験

鍋 島 浩（高校3年生）

長い長い新幹線に乗ってようやく小田原に着いた。やっぱり新幹線は乗り心地も良く、普段乗っている電車とは比べものにならなかった。次にバスに乗りこんでキャンプ場に着いた。

そこはまるで一つの村がつくられているようだった。まず真ん中に皆が集まる集会所があり、その周りを取り囲むようにテントやバンガローがあった。顔ぶれも大人から子供まで年齢層は広く、色んな人がこのキャンプ場に集まっていた。

行動は自由だったが、ご飯のときだけは、皆が集まり一緒に食べた。震災にあった人達やそのボランティアにあたっている人達のグループだったけど、そんなことを少しも感じさせないほど食事の時の雰囲気はにぎやかだった。もう一年以上もたっているからみんな忘れているのか、それとも小さな子供たちは無意識にあの時の嫌な思いを消そうとしているからなのか、どちらにしろ暗い雰囲気だったら嫌だなと思っていたのではとした。食べ終わって食器を洗っていると小学の時に行ったキャンプのことを思い出した。

「あの時もこんな感じで皿を洗っていたんだよね。」

とちょっと空想にふけてしまった。そうしているうちに1日目も終わり、あっという間に2日目の朝になった。僕は食事をすました後、笛作りをしていた。お互い全然知らない人なのに、金のためとかそんなことじゃなくて誠心誠意、心をこめて教えてくれたことに人の温もりみたいなものを感じたような気がした。そしてなんとか苦労して笛も完成した。皆は出なかったけど……。とにかくこの笛は誰かにおみやげとでも言っておけばいいかなどと思いながら2日目も色んな経験をした。

3日目、朝早く新幹線に乗りこみ、屋ごろ姫路についた。

家でゴロゴロしていたらできない経験や、色んな考え方をする人と会うことができた。最後に、このキャンプに連れていってくれてありがとうございました。

（新白浜）上林綾子

平成9年10月、仮設住宅にもお別れする事になりそうです。暑さ寒さに苦しんだ2年余りを振り返ります。

名古屋市立南小学校の5年生の方達や、学校挙げての激励にどれほど慰められた事でしょう。名前入り吹き込みテープを贈って下さってこれからも大切に保存いたします。

一番に心温まるボランティアの方達の善意、ずーと続けて下さって深謝いたしております。次々に

当選されて、恒久住宅に移られる人達にささやかな食事のパーティを。

取り残される侘しさ感じてゐる老人の私共には、立派なお寺の住職さまをセンターに招いて下さる。此の9月4日、中西玄 氏さま高僧を招かれて穏やかなお話ぶりを聴かせて頂きましてひとときの安らぎを与えて頂きました

改めてお礼申し上げます。

平成2年、転んで内臓破れ、6年4月、乳ガン切除、7年には内縁の夫の圧死、その都度、死は免れましたが奈落の底に突き落とされるとは。こういうものが孤独死さえ羨んだ事も、でも生きてよかった。仮設の生活を喜びの場所に近づけて下さった皆様、ありがとうございました。

残された人生を、頂戴した本<にんげんだもの>を拝読させて頂きながら、皆さまのご親切を無にしないよう、与えて下さった命を大切に楽しく生き抜くつもりです。ではこれにて失礼いたします。

前略ご免下さいませ
ソレウィークリーニズお届け下さる
有難度う御座居ます
さて、相田サマを様子の「にんげんだもの」
を拝読致しました感想下さすが
くり返して読む度に心に心が洗われる
思いになりました誰れも逆愛に
ある時とをすれば他人のせにしたり
他人を羨んだりしがちですが
生まれるとてう事はこういう事
さう、やう心がまえを持てう生まれ
ば人生は楽のしくま素晴らしいと
思いました。特に「の」という詩は
心をうたれまいたつたんその通り
です私の座右の銘にしたと思ひます
これからもう宜敷くお願い
申し上げます
どうぞ御自愛下さつませ

672 白黄飯設け
テ原田 和子



ふれあい姫路

＜他地域 V によるサポート＞
ボランティア



『ふれあい姫路』

〈名古屋市立植田南小学校から〉

ボランティア仲間（神戸・女性）

お電話をいただきありがとうございました。

早々に……と思いながら、文章や、言語で表現することが苦手で、ついつい今日まで延引き申し訳ありません。

去る5月25日は初夏らしいよく晴れたお天気、そのうえ気温が上昇し、汗ばむくらいでした。8時45分に新神戸駅の改札に姿を見せた植田南小6年4組の朗らかな顔は一瞬まだ見ぬ遠隔の孫が来神するのを出迎える「おばあちゃん」の気分にはさせられました。思いがけないことにCBC中日のスタッフが同伴され緊張しました。

阪神淡路大震災1年。この状況……、種々の問題を抱え復興のけわしさ……。充分に取材ししっかりと伝えて欲しい気持ちが先行して何も資料を提供出来なかったように思います。

高羽仮設には9時半頃に着きましたが、事前に一日の日程を緻密に打ち合わせていない上に、同伴のCBCのスタッフと連絡を受けて取材に来た毎日新聞社の記者とカメラマンで、それぞれが自分の計画を口にするやらでテンヤワニヤ。こちらの計画と新居先生の訪問指導計画とが大きくずれ、先生の目に涙が浮かぶ場面もありました。

新居先生がご自身の教員生命を掛けて児童を引率し訪問されておられることを十分に考慮し、新居先生のご指導が十分に現場で発揮出来るように配慮出来なかったのは残念に想えてなりません。そんなこんなで、高羽仮設で思わぬ時間を過し、寿仮設では予定しておりました高羽小6年のボランティアと一緒にプランタンにお花を植える作業は到着した時にはすでに終わっておりました。それでも女の子は高羽小のボランティアと震災体験を語り合い、住所の交換をお互いにしておりましたから新しい文通が始まることでしょう。男子は視覚障害の方から当時の体験を聴いたり神大救援隊のお兄さんからボランティアとは……と想いを聴いておりました。文通の相手の方が留守で会えませんでした。それぞれが新しい出会いをしたり、考えたりそれなりの意義があったことでしょう。

西神は計画的に造成された街だけにムードが午前中とは大きく異なり、驚異で、ロマンのある国際的な港町のイメージはどこかへ飛んでしまいました。アスファルトを照り返す太陽で暑さもきびしく、それぞれの顔に疲労が見られるように感じました。広々とした敷地に積み木を並べたように建つ仮設を重い荷物を持って各戸を訪問するのはさすがに懸念し、木陰に不用の荷物を置いて訪問することにしました。

荷物を残し、手に手に心を込めて創作したお花を持ち、文通相手の仮設を目指し脱兎のごとく走りゆく子供の姿を見送りながら訪問先が留守でないよう祈りました。

ふれあいセンターで交流会の準備がされており、各戸を訪問後それぞれが共に参集、みなさんから温かいもてなしを受けました。訪問時には留守であった人達もふれあいセンターに集まってこられ、全員会うことが出来ました。早朝からハードなスケジュールで疲れが見えはじめておりましたのも全員出迎え、手を取りあって語り合えた喜びで疲れはいっきに吹き飛んでしまったようでした。

学園都市より新多聞仮設へ移動するバスの車中で、仮設（新多聞）に住む老夫婦に出会い、遠方

からの小さなお客さまへ感動と感謝のことばをいただきました。

新多聞仮設の門を入るとドォーと歓声が上がり、ふれあいセンターがいっきに活気づきました。玄関とフロア正面に達筆で「天白区小学生大歓迎 ありがとう！」の幕が飾られ、前日よりみなさんで心を込めてカレーを煮込み、朝から今か今かと待ち続けてくださいました。手造りのペーパーフラワーと京都修学旅行文集のプレゼントこの度来神できなかった児童は声のメッセージを添えており、住民のみなさんの歓喜は筆舌に表現しえません。各仮設で歌った武田鉄矢の「声援」も一段とさえ、天使の声援そのものでした。

ここも文通相手全員が集まってくださり、前日より煮込んだカレーと果物でもてなしてくださいました。出された食事を食べる児童を目を細め楽しそうに眺め話に花を咲かせるさまは、まさに孫とおじいちゃん、あばあちゃんの和やかな楽しい集いです。澄みきった声で歌う「声援」を目頭をあつくしながら体全体で懸命に聴く姿、そして「がんばろう みなさん」に対してこぶしを上を振りあげながら「がんばるよ」「がんばるからネ」「いつまでもわすれないで！」の応答に「生」へのエネルギーを感じました。

長期になることを胸にコツコツと地味な活動を続けている私達ですが、パワーあるエネルギーの活性化は大変に難しいことです。この純粋な子ども達の活動は震災によりご自身の存在さえ否定したくなり易い高齢者に対して力強い「生への活性化」の貴重なエネルギー源だと思いました。

新居先生のこのような教育は古くまた新しい教育です。指導要綱の改定により自らが課題を持ち学習する力を育てる……、主に各教科の授業計画がなされる昨今、来神される前に震災を軸に各教科に拡げてゆくことも可能なように想えます。学校内で浮きあがらないように私達も配慮する必要があります。同僚内でも輪が広がるように今後も支えてゆきたいと想います。

仮設訪問で貴重な経験をさせていただいてます。訪問先の問題も……ですが、ふり取りやミーティングで私が発言することによって、他のメンバーとずれが出来て自己嫌悪に陥ります。先日のミーティングで質問した「YWCAの理念」はYWCAで活動をしてる方に「おかしなとてつもない質問」だったか尋ねてみたところ「YWCAの理念」は世界共通であるとのこと、次の機会に教えてもらおうと想います。

最近の私達の活動は訪問先の人に「主体」があると言いながらリードをとる人に「主体」があり訪問先の人々の思いは二の、三の次とされる傾向が感じられます。講座の受講者のあしならしなどを控えて勇足のようにも感じられます。「理屈っぽい」「自分自身でよく解っていない云々」「ヒステリーを起こす〇〇」「男性に女としての愛情を持ちはじめた」「反論する」こんな像に見るメンバーを私は受容すると、ミーティング、学習会で発言するのは辞めよう辞めたいと想う今日此頃です。高齢者を雇用症候群の方へ追いやらないように温かい愛をもって相手の生活リズムに寄り添った活動の在り方にしたいと熱望しております。

グループの活動だからとリーダーの指示通りの活動を行うと努力してやっと出来かけた相手との関係も水泡と化し振出しに戻されたり、それよりマイナスの関係となってゆくのメンバーに伝えられる悩みは蓄積します。

グループに定まったスーパーバイザがあれば訪問先の個々のプライベートなこともある程度、語り事例研究として分かち合い深めて自身を互いに高めてゆけるとも想います。

グループのメンバーが「心の問題」に対する認識をどの程度持つのか解らないところで訪問先の

人の心のことを語るのは、ともすれば「人の中傷」に流れる危険を持つように思います。人間として守秘しなければならず、正しく事実を伝えるのは難しく、グループ活動のリードを取る人が裏出しておる事象のみで判断をして、思いつきと思えそうな活動を指示されると訪問先の人の想いとリーダーとの板ばさみに私はなってしまいます。また前述のように努力が水泡と化し、虚しさが胸に残ります。私が最近感じることはみなさん「被災者救援のボランティア」をしておるという自己陶醉におちているのではないかと……。？と。

前代未聞の震災を被災された人々と関わることは長期になるし関わり方の難しさも総てに言われる通りだけにリードを取られる方達は現状をしっかりと踏まえて熟慮していただきたいものです。「ゆっくりとポチポチ、そして急いで」。

被災された高齢者の方々の「生へのエネルギーの活性化」の即効性は植田南小の可愛いボランティア達のように持たず訪問するボランティアの在り方によっては、むしろストレスを残して来るとも留意しなければならないでしょう。

植田南小のボランティアの米神がきっかけでこのお手紙を書くことになり、そのことに乗じて私の思いも羅列してしまいました。すみません。

リードを取る方々のご苦勞を感謝致しております。ご自愛くださいますように。

(1996年6月12日記)

名古屋市立植田南小学校
教師 新 居 とも子

前略

真夏の強いひざしの中、大勢の子供たちを連れてたくさんの仮設を案内して回っていただきまして、本当にありがとうございました。さぞお疲れであったろうと、ただただ感謝の言葉しかございません。また感想文もお忙しい時間をさいて、ありがとうございました。最後のページに書いていただきましたこと、私も5月の訪問の折からずいぶんと考えさせられることが多く、今回のこともありまして、またあらたな思いで見えております。

どれがお年寄りの皆さんにとっていちばん喜んでいただけることなのかと思いますが、どれもその方その方の考え方なり境遇なり、様々なように見受けられます。

訪問の案内をせずに突然参りました3月の大阪訪問。本当に暗くなった仮設の中を一軒一軒さがし歩いて出会えた時の感激、お年寄りも子供たちも心に残るものがありました。案内し、出会う日を決めて待っていると、どうしてもお年寄りは子供たちに何かしてあげたいという気持ちから、また周囲との（同じ仮設での）比較等から、おみやげを、おかしをと様々な心づくしをしていただくことが多いように思います。それもお年寄りの一つの楽しみだと言われる方もおみえで、それもうなずけることです。それにしかける月日を指定せず案内しなければ、文通相手の方とうまく出会えないということもあります。どちらをどうとればいいのか、本当に迷うところです。

今回は子供たちの希望をまず、とりあげました。行き先が多すぎてということ、承知の上でスタートしました。「文通相手の方に会いたい」。仮設のこと、方々よりも申し訳のない話ですが、まず子供たちの心から思うことは、自分の文通相手に会いたいということでした。それも今回夏休みとい

うことで、藝達の部活だのスポーツクラブだのとほとんど日程がそろわない忙しい子供たちが8月1日ならということで何とかそろわせてやっと決まった月日でした。やっと周りの状況が整って、以後はなかなか出られないのであらうと思う子供たちが今回は多数参加できました。

年間、土・日休みなしで少年野球をやっている子供が多く、珍しくそろった日にそろってクラスの人達と仮設のみなさんに会いに行こうという。「姫路の人にも会いたいけど、大阪の人にも神戸の人にも、文通している皆さん全部に会いたい。経費もかかるし、それなら少しでもたくさんの人に会いたい」子供、そして父兄の正直な気持ちです。

今回で3回目ですが、2回目の時、子供たちの何人かが親に「今回は行かないよ」と言ったそうです。「どうして？ 行きたいんでしょ」と母親が聞いたら「でもお金がかかるでしょ。だから悪い」と言ったとか――。

ふだん持ったことのない一万いくらのお金を子供は子供なりに考えたのでしょう。

教師として私は、そのへんの所まで口を出さずわけにも口をはさむわけにも、思うようには……。あとは親の考え方一つです。

仮設の中で、色々な考え方の人あり、様々な思いあり、おっしゃられる通りだと思います。学校も、学級も、今回参りました23名の中でも、その子供たちを囲む父兄も様々です。まして、子供を県外まで引率できる立場ではない。各家庭の考え方や事情を知っているから、なおのこと、私の身分では訴える力は弱く、父兄同士に多少任せる他ないようにも思います。もう少し近くであれば、父兄も少しは……とも思いますが……。

一家族、8月中旬2日程かけて神戸・大阪の仮設を文通相手の方をたずねて回られました。4人の方にお目にかかったそうです。

出会うことが果たして本当に全部お年寄りにとってよかったかどうか、出会わずに文通のみでいることも夢であり、幸せでかえっていられるのではないかと2回目の訪問後思いました。長い時間ゆっくり話していたいと思われるお年寄りもお見えでしょうが、お年寄りの中には子供に気を使っているためにかえって気疲れされて短い時間でお別れすることがよいと思われる方もおみえのようです。子供もまた勝手なものです。全員とは申しませんが、天使もわがままであきっぽいものです。私は反対にお年寄りの子供たちへのいたわりの心を傷つけないようにと願うものです。

一度お話をゆっくりさせていただこうと思っておりましたが、私も年中無休（ほぼ）です。思うように時間がとれませんが、このクラスの子供たちが卒業するまでにどこかで必ずもう一度（文通相手に会うという目的はほぼ果たした子供が多いので）、本当の意味での仮設訪問（お年寄りの皆さんとの交流）をさせていただきたいと願っております。ボランティアの皆さんには最敬礼ですが、子供たちが少人数であれば皆さんにご迷惑のかからないよう、本当の意味のボランティアを身をもってわからせてやりたいものとも思います。そうすれば岸岡さん始め阿部さん達のご苦労や、またボランティアは強制ではなくその人の心ですと教えて下さった神戸の江草さんのお気持ちなど、多少でも理解してくれるのではないかと、安易に考えます。

お手紙本当にありがとうございました。子供はたくましいものです。そして教えていくべきもの、気づかせていくべきものであると思います。周りで見せていかないと続くものもなかなか……。でもやはり子供は愛すべきものです。

岸岡さんのお考えは、神戸でお目にかかった時にすぐにわかりました。申し訳ないと思いながら

も、お気持ちにはそえていないと思いながらも、とにかく子供や父兄の希望をかなえていかないと次の段階には進まないであろうということもありました。クラス36名の中、一人一人の仮設に対しての思いはまだバラバラかもしれません。

『まだ一度もいっていない子』『親の事情から行かれない子』『何人かいる文通相手のまだ一人しか会っていないくて、次もまだとにかく会いたいという子』『一回行ったから親がもう行かなくていいという子』……。

どうまとめてどう進めるか。他のクラスや学校の中でのたった一クラスの勝手な(?)取り組み……。本当に様々な思いの中で(何事もそうだと思いますが――)、進めていくのには、父兄の協力・勇気などが必要です。

取り急ぎお礼と私の考え等、長々と書かせていただきました。

今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。外見や体裁を気にしなければならない学校教育が、何時もっと自由に、本当の自由を得るのかと思います。親の心はいつの時代も我が子のみ広い目で見える。親を期待するのは、無理がありすぎます。しかし逆に言えば、それで子供は支えられているのかもしれないが。

まだまだ暑い日が続いております。

お元気で活躍くださいますように。

平成8年8月21日

〈6年4組の心優しき「うるさい」子供たちに〉

坪 内 正 士 (貴之 父)

6年4組の心優しき「うるさい」子供たちに心からお礼を言います。

ありがとうございます。本当いい経験ができました。君達の3倍以上も生きて来て初めて体験したことでした。ボランティアという言葉は知っていても恥ずかしさや照れ臭さ、周りの目を気にして何時も1歩も2歩も後退りをしてしまうおじさんでした。地下鉄の中でもお年寄りに席を譲れなかったおじさんでした。

他人に優しくなれること、人に思いやりをもつことの素晴らしさを君達から教えられました。

名古屋駅から植田に帰る地下鉄の中で郁ちゃんが、乗ってきたお婆ちゃんに席を譲っていたのを見ていましたか？ さり気なく自然な行動に感激しました。当たり前のことと言えば、そうかも知れませんが。しかし、おじさんには新鮮に思え、君達は何回かの仮設訪問を体験して得た心の成長の一端を垣間見たような気がしました。

今だから本当のことが話せます。5月の仮設訪問のとき、子供会のソフトの練習を優先して行けなかった貴之でした。ギリギリの人数しかない井口2丁目のチーム『文通しているお婆ちゃん、お爺ちゃんにも逢いたい。でもソフトの練習は回数も少ないし、自分が抜けるとチームに迷惑がかかるし』と僞んで出した結論だった筈でした。でも仮設訪問も諦め切れず心の底では吹っ切れていない様に、その場限りの軽い気持ちで「夏休みになったらお父さんが連れて行ってやる」と言ってしまったのです。仕事に追われ、忙しさの中でそんなことはすっかり忘れていたおじさんに「夏休みに

また仮設に行くことになった。今度はうちのお父さんも行くと言ってきたよ」まさに晴天のへきれき。(仮設に子供と一緒にいく親父なんて俺一人だぞ。夏休みに連れて行ってやるなんて言うんじゃない。後悔先に立たずとはこんなことを言うんだな。)

これが君達と一緒におじさんが最初に仮設に行くことになった本当の理由だったのです。

そして仮設訪問当日の8月1日になりました。姫路の南駅前・白浜・玉手、神戸の高羽・西神中央・新他間、強行スケジュールでの慌ただしい訪問でしたか、君達とお爺ちゃんやお婆ちゃんとのふれあいを見ている内にいつしか気持ちの中にあった恥ずかしさや照れ臭さがなくなっていました。喜びを分かち合うことの素晴らしさを実感した思いでした。誰でも気持ちがあれば人に優しくなれることを再確認した気がしました。(子供達と来て本当によかった。絶対また来るぞ。)と思ったものでした。

そして12月8日、再び仮設へ。大阪の十八条、神戸の寿・高羽、8月より余裕のある訪問でした。一緒に食べた豚汁も温かかったけれど、君達と一緒に歌を口ずさみ、『人間になりたがった猫』に感激してくれたお爺ちゃんやお婆ちゃんとのふれあいは心までも暖めてくれました。それまでのおじさんでは考えられないことでした。集まった人達の中に入って

野に咲く花のように風に吹かれて

野に咲く花のように人をさわやかにして……

と一緒に歌っていたのです。

震災から2年しか経っていないのに今では震災関係のニュースもほとんど流れなくなりました。今年に入って震災のあった1月17日の前後に新聞、テレビ等で特集が組まれた程度でした。仮設での孤独死の問題、アルコール依存症の実態、復興の実情とどれをとっても現在もお仮設住まいを強いられている方達にとって暗く、寂しく、辛いことばかりをクローズアップしたものばかりでした。特に印象に残っている言葉があります。

夢？夢なんかあらへんわ。正直言って夢なんかあらへんわ。

NNNドキュメント'97『阪神被災地2年、被災から2年の人生ドラマ』と云う報道番組の中で、仮設に住む55歳の男性がレポーターに言った言葉です。

地震という予期しなかった自然の悪戯によって、それまで築き上げた生活、財産、仕事、夢、そして心の支えまでも一瞬にしてにくしてしまい、それでも生きて行く場所として仮設に住まなくてはならなかった人達、その日その口を生き抜くために気が張っているときは何も目に入らず、気にもならない。しかし生活が落ち着いて来ると周りが少しずつ見えてくる。全てを失った自分が見えてくる。夢も持てず、将来に対する不安が生まれ、精神的に落ち込む。現実を一時でも忘れるために逃げ場を求めて酒に溺れる人もいる。肉体的な傷ならば時が治してくれるが、心に受けた傷は治ることはない。その傷が深いものであればあるほど。「そんなのは甘えているだけだ。」と言う人がいるかも知れない。しかし、人間はそんな精神的に強い生き物ではない。困った時、苦しい時、迷った時、何かにすがりたい、誰か助けてもらいたいと思うもの。人間、決して一人では生きていけない。お互い助け、助けられて生きている。

そんなことを考えながら、その番組を見ていました。そして頭をよぎったことは、今回の訪問のことでした。

これまでは確かに子供達の訪問を喜んでもらえた。忌まわしい震災から2年経った今だからこそ、子供達の訪問を通じて一瞬でも夢を見て欲しい。一瞬かも知れない楽しみ、一瞬かも知れない喜び、一瞬かも知れない安らぎの時間を持ってほしい。でも被災者の人達が神経質になっている。未だに仮設生活を強いられている人達は尚更だろう。今回は果たして子供達の訪問を快く受け入れて貰えるだろうか。喜んで貰えるだろうか。

2月22日、初めての一泊訪問。前日の天気予報は近畿地方は曇り時々雪。まさに自分の心配を表したような天気でした。しかも、米原付近雪のために新幹線が34分遅れで新神戸に到着。当たって欲しくない時ほどよく当たる天気予報に恨みを持って底冷えのする神戸に下り立ちました。そして出迎えして戴いた阿部さんと西神中央、新多聞へ、しかし心の天気予報は外れていたようでした。子供達はこれまでも増して暖かい歓迎を受けました。

この子達、4月には中学生になります。これが6年4組としては最後の訪問になると思います。

お爺ちゃんやお婆ちゃんにも分かっていることでした。言わなくてもよかったことなのでしょうが……。本当に寂しそうな顔でした。でも、ここで一度線を引き、これから先は子供達の自主性に任せたいという思いから敢えて言ったのです。そして心の中でつぶやきました。(また必ず来ますから、仮設がある限り、私一人でも、でも子供達も来てくれますよ。きっと。)

阿部さんの本、あまり売れていないそうです。講演も少ないそうです。会社を辞めてのボランティア生活、活動資金もぎりぎり、自分の生活もぎりぎりでしょう。でも、そんなことおくびにも出さず、今回も今までどおり明るい笑顔で子供達を見守って下さいました。

阿部さんとお別れし、姫路へ。待ち合わせ口を間違えてもらったお陰で姫路城をバックに記念写真が撮れました。岸岡さんと合流し、なんとBMWで宿泊先の白浜仮設へ。(姫路のボランティアは裕福だなあ)それもそのはず、JCの方でした。名前は小林さん。

白浜ではふれあいセンターの玄関脇に『歓迎・植田南小学校』の横断幕、いや横断紙を発見、着いた途端に大感激。ここでも心の天気予報は外れていました。姫路「こころのケア」ネットワークの方達と仮設の方達が作って下さったカレーライス、手作りコロケ、仮設の方達と一緒に頂きました。本当に美味しく、忘れられない暖かい味でした。

夜、岸岡さんから被災直後に写したスライドを見せて戴きました。道端に哺乳瓶やお菓子、果物などが供えてある写真がありました。険しい顔で啞然と立ちつくしたお婆ちゃんの写真がありました。

当時は、こんな場所で一杯でした。涙を流す余裕もありませんでした。被災直後の険しい顔が2年後にどのような顔になられているのか。

一コマ一コマ、被災当時を思い出すように説明をして下さいました。岸岡さんが姫路市役所に勤める公務員であることをその時初めて知りました。ボランティアは、役所の勤務時間が終わった後と休日の土日にやっておられます。姫路は震災で直接の被害は受けませんでした。被災後、県からの給水要請で芦屋市に入られたそうです。隣の市に住みながら被災実態の把握もできず、軽い気持ちで給水作業にあたってしまったという自責の念が、それまでの自分の生き様を振り返らせ、岸岡さんをボランティアの道に進ませたそうです。

ふれあいセンターの一夜は暖かかった。皆で雑魚寝をしたからです。壁が鉄板の仮設住宅で一人

で寝るときっと寒さに震えていたと思います。やはり、仲間がいるというのは素晴らしいことです。

23日、とても暖かな日でした。天気までもが子供達の気持ちを汲んで応援してくれているようで、清々しい気持ちになりました。仮設の初対面の人達に「おはよう御座います。子供達がこれから笛の演奏をします。一緒に聞いて、歌ってやって下さい。」と声が掛けられた自分が嘘のようでした。

そして白浜から玉手に。日帰り組と合流し、玉手でも大歓迎を受けた子供達でした。(朝のおでんのあのジャガ芋を誰かさんが入れなければ、玉手でカレーライスが食べられたのに！残念！)

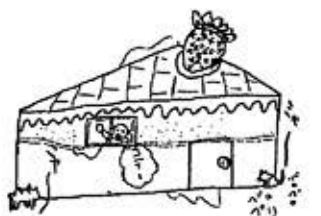
震災復興は確かに着実に進んでいます。しかし、心災復興はこれからが正念場なのです。これからはおじさんのできることをやっていきたいと思います。君達が今日まで築き上げた心の交流を無駄にしないために……。

『語らずも 無欲の奉仕 輝けり』『^{あせ}急らずに 我春来るを 願ひ待て』

新多聞のふれあいセンターに掲示してあった言葉です。

平成9年2月23日

地震対策アイディア



★おかしでできた家

火事にあってもほぼよく焼き上がって食料になる。

※何日かに一回、壁や天井の張り替えがあります。犬や猫に壁を食べられないように注意しよう。

地震対策アイディア



★ジャイアントセコイア

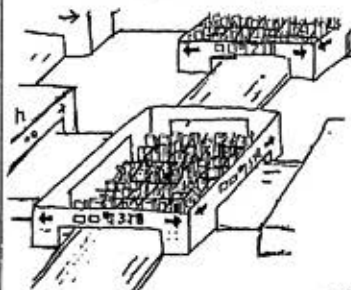
大木の枝に住居を吊す。セコイアは頑丈なので、地震時は揺れるだけで倒壊の心配がない。

※酔わない人向き。昇り降りが苦しい。

★又は木の中に住む。

隣保の動物が天災の予兆をしてくれるので便利。

地震対策アイディア



★町をブロック単位にする。ビルや家はコンクリートで一体化する。



贈る言葉 ♪

近藤幸江

今回、一泊二日の仮設訪問の中でボランティアの岸岡さんたちの活動のお話を伺うことができました。ボランティアをされる方々の細心の注意、心くばり、そして、言葉の重さ、日々の御努力に頭がさがります。ふと、先日行われたPTA研究会での講演との共通する部分を感じ出して見ました。

子どもの心のエネルギーを起こさせる為の言葉の中で「正論の怖さ」に気づきました。

「朝晩、きちんと歯をみがきなさい。」

「もっとしっかり勉強しなさい。」

「がんばってください。がんばってください。」

との言葉もすべて誤った表現ではありません。でも、時として、それらの言葉がむなしく、からまわりしている様な気がします。がんばれようにもがんばれない時にただ追い詰めるだけの言葉では、とても重く苦しくつぶされそうになってしまうのでしよう。

言葉について苦い思いがあります。

学生時代、卒業間近の頃、ある飲み会での事。

ある友人がひどく落ちこんでいました。話を聞いてみると教職の試験に全て落ちたとの事。私は、ほげます言葉を一生けん命探しました。

「エー、さうだ、あの、そのえと、や、ばりや、ばり……」

その後の言葉が出てこない。何か言わねば。

「や、ばりや、ばりむつかしいよネ、教職とるのばネ。」



と、フアローするつもりの矢先。

「や、ばり、私には無理だと言いたいんでしょ。」と、彼女の言葉。私は、言葉を失った。

言葉といえばこんな話も。

ある学生が就職の面接試験で

「家業は？」と聞かれた時、緊張のあまり

「かきく、けいこ」と答えてしまったそうです。

又、ある学生は、

「資格は、何がありますか？」と聞かれ

「正方形、長方形、ひし形、台形……、△△△」

吉本興業だったら受かったかも……

少々脱線してしまいました。

年を重ねる事と反対に言葉は、どんどん薄っぺらくなる様な気がします。

正直いって、震災から三年目を迎えた方々にかける言葉にとまどってしまいます。

誤解があてはけない、追いつめる様ではいけないと思うと

ますます口が重くなって……

白濁で、玉手で子どもたちの声が響く

彼らの元気な言葉で閉ざした玄関の戸をあけて迎えて、

くださった方、誘いに応じて、ふれあいセンターまで足を運んで

くださった方がいたと聞いてとてもうれしく思いました。

子どもでしか聴せないエネルギーの強さを感じました。

もうすぐ、小学校卒業を迎える我が子に、

どんな言葉を贈ろうか

たった五十のかなを並べて覚えて

ときどきしながら次の言葉を探しています。

『ふれあい姫路』

梢熊さち子

「今度は泊まりがけでゆくり来て下さい。絶対にですよ。約束ですからネ!!」
と、姫路「こころのケアネットワーク」の岸岡さんより電話をもらったのが、
去年の12月の終わり。
「はい。ぜひ、お願いします。」と元気に電話を切ったものの、色々と
考えれば考える程「本当に泊まる事なんてできるのか。不安になって
きた。寝る所は? 布団は? 食事は? 費用は? など……」
日持ちもだいたい決まり、具体的に内容を決めるわけないが、とにかく
時、岸岡さんに、「まあ、アバウトでもいいでしょう。こういう事は、ちやんとした
書類はいいですね。アバウトでもいいです。」と言われました。
結局、あれこれ思っていたのは、行動をためらっていた、自分自身の言い訳
だったんだと気付く。深く反省

そのアバウトはバツです。神戸。小聖の舞う神戸の街は旅行に来たの
かと錯覚する程、きれいでモダンで可愛で、でも、9ヶ月ぶりに見る
仮設は、やはりマテ箱の群れでした。
子供たちの声と笑い声が、群れの冷たい空気を少しふりほどけ
てくれる様な気がします。

姫路の仮設で、皆で食べたカレーライス。豚汁。坪中君、お得意(?)の
手品ショー。一生懸命 場を取りあげ、逆に私たちを楽しませてくれた
安達のおいちゃん。

岸岡さんより名付けた『ふれあい姫路』
人とのふれあいや、メンバーに、いものだという再確認を、皆なしてくれ
たと思います。

一番最初に訪れた時、涙があふれ出てしめやかに帰ることに、今更
に、メンバーに笑顔であえるなんて、不思議な気がします。同じ時間を
共有するだけ、楽しい方がいい。メンバー気持ちにだんだん変わっていったのか
もしれません。

仮設訪問の約束をさせていたとき、色々な人と出会い、色々な考えが
あることを改めて知り、家の中だけで、この地域の中だけで、利害
関係のない社会の一面に、つれづれでも参加でき、事に本当にうれしく思
います。

人間は、決して一人、又、一家族だけで生きている訳ではありません。人と接する
事を拒否して、若くは人が増えていくとかい。そんな人に、決まっています。あ
りません。



私の一方的な思い入れで、少々押つけの様に感じた所もあり、父兄の皆様
に迷惑をかけたかも知れません。『自ら学び、自ら鍛え、自ら高める』(これは
植田中学の校訓です) この言葉、素に成長していく、土台作りの一助と理解し
ていただければ幸いです。

今回初めて参加させていただいたうちの「荷物持ち」君は、行くより、何十倍、何
何十倍も重い荷物を抱えて帰ってきたと思います。気づく、その荷物を整理でき
れば、彼も、何十倍、大人になれるでしょう。

最後に、先生、岸岡さん、ハートネットワークの皆様、仮設の皆様、そして、色々な形で
協力して下さった父兄の皆様、本当にありがとうございました。

去年の秋に種をまいて、大雨の中、何度も流されてしまつた小さな小さな芽が、寒、冬を迎え、頭も顔も上ぐられずに、雪をかぶり、雪をかぶり、下を向いて、いゝも、なびれて、たといつのに――
冷たい風の音を聞いては、何處もく、自分を傷つけ、背肋が痛いほどに冷たく、声をあげず泣きながら、おびえていたといつのに――

花だんの定置置をはなれて、別の場所へすまいをかえただけのこと
で、春菊は、春のやうさや、あたにか、春のまなざしを感じとつたの
です。周りの風のあたにかさや明るいひびきが、春の足音を確か
めるように、春菊をかばつて、元気に生きよと、支えてくれました。

おかずで、花だんでうなだれて、椿菊は、茎がツリリとして、ギザギザの葉っぱも、空に向かってピンと頭をもたげ、生ききているという味わいを見せるようになりました。

姓 

インゲンマメ、トウモロコシ、大根、^{金魚草}春菊。——一年間に、たくさんのお菓子が、口の中に入るものが、色々と収穫できました。家で、食べようや、って人は、ぜひ、春休みに取りにいって下さい。春のおいがブーンとする、それだけの春菊は、みんなの家にむきつやさいい春をとどけてくれることでしょう。

でも、とりあえずは、みんなの身体を心配してと、………すず、XさんとVさんに喜味してもらって、一晚様子を見て、救急車がこなかったら、安心安心。(でも…本当に大丈夫かな?…なんて、たて高齡ですし

春のかおりを届けます。だれでもいいから、早く取りにおいで。
待っていますから。ネ。

※職員室に春休みにみえて
いる先生方にも、大好評で
大安売りしています。エッヘン

スウラム
組んで
5年4組 第12号
H8.3.27 (K)



行きたいという人達が、父兄の引率のもと、何人か集まって出かけます。文通している相手の人に、わたしたい物でもあれば、行くという人に、早目にわたしてください。

竹田さん 平野さん 石井さん 上辻さん 熊鷹さん
近藤さん 空賀さん 小林くん 加藤さん 今村さん

他に上村くんのように、しんせきが兵庫にいるので、ご家族で出かけるという人も、いるようです。

ちやうど連絡をした時に、留守だった人もいるようです。旅行に行くと、いろいろな人、野球がある人や、じくがあるという人や、色々だったそうですが、引率してくださる方が少ないため、まだ、あと、一人か二人おみえでしたら、もう少し、人数もふやせたのではないか……お世話をおかけします。子ども達に計画を立てさせて文通相手か、最初にクラスに手紙のきた、林ひろし君達のママ、族をたのねてもいいかと思ひますし、入院している藤田艶さんの、お見舞も、考えようみたいです。

せいかく出かけることですか。むこうの方達の生の声を、ぜひ
ぜひ、とてきてほしいですね。(テープ)

30日は先生、用があつて京都に行つていますので、その足で翌夜は、姫路へ行き、31日は、みんなと合流したいと思ひます。

(〒671-22)
お世話になる 姫路市青山南3丁目12-15
岸岡孝昭さん
TEL 0792-66-3529
(FAX) 030-29-59267
FAX 0792-67-5126

お風呂の便所へ行く時は、
連絡をしていた方がいいわ...



(どの似顔絵がいちばん似てるかな?)

姫路 神戸に行つて。(竹田 有子)
 私は、姫路神戸に行つて、新しいことをか
 けてもらいました。それがなにか
 は、わからないけれど、なにかを心の中に、
 ギャッとおしこんで、もう一生でいいおく
 のちへ入いりこんで行った。
 最初は、元気にしてるかな? って考えてた
 けど、会ってみると、本当に、元気な人ばっ
 かりで、~~安心~~安心して、それと、すっごく、
 うれしかった。
 うれしいとか、安心とかよりも、
 「~~自信~~ 自信を、したような感じがする。

~~姫路 神戸~~
 姫路、神戸の仮設住宅へ
 行つて。(今村 智里)

みんな、元気そうで、すごくよかった。
 最初、行く時、2回目だったけど、
 元気かどうか、心配、だったけど、
 行ってみたら、明るい笑い声がいっぱい、
 戸からきこえて、本当によかったと
 思います。

ここへ来て、いろんなことを学んだ
 と思います。言葉では、言えないもの。
 ずっと忘れないと思います。
 悲しい時は、仮設の人たちの
 笑顔を思い出して、がんばりたい
 と思います。一生。

① ②
 姫路の仮設へ行ったのは

始めて、わくわくドキドキして
 いきました。そしたら、みんな
 元気で、ぶん通あいつの
 江頭正さんも、

仕事が決まって
 とってもよかったです。

それに、それに仮設から
 でた人でも、お手紙をくださる
 ので、とてもうれしいです。
 それに、~~ぶん通~~ぶん通あいてじゃない人も
 声をかけてくれて、たのしく

お話をできて、とってもたのしかったです。
 でも、先生は、あたり前のことだ、といいます。
 そうです。あたりまえのことをや、っている
 だけなんです。たから、もと、
 あたり前のことを、やっていきたいです。
 いつまでも、えいえんた
 たのしく♡



をもって、1日1日がんばるぞ!
 加藤(みふみ)

幸せ

しあわせを感じる時は、千差万別。病の床に伏している人は、きつと、健康であることに、しあわせを感じるやうに。旅の好きな人は、世界中を、カッパカッパと、明日へのアリスでも口ずさみながら、あめ、しあわせだ……と……

(音程?……もちろん、はずして歌うことでは……)

この一年、あなた達は、どういつ時にその、シワめをも感じてくれたのでしょいか? 本当に、何おしてあげられなかった先生ですが、……

が、……みんなさういふしかな先生ですが、……でも、たった一つ、あなた達も先生も、そのシワめをいっしょに感じることでできた場面がありました。

神奈大坂、姫路などの仮設住宅に住んでみえるお年よりのために、一生けんめいテープに歌を吹きこんでいた時、自分の特の声を、相手のお年よりのために、呼びかけながら吹きこんでいた時です。

一つの意味では、クラスがこんな一つになつてくれる、という、シワめ、でした。もう一つは、人のために、だれかのために、少しでも役に立てるといふ、シワめ、でした。

そして、今、あなた達と過ごしたこの一年、

いつも、こんなズッコケ顔の白雪姫のよきお手本であり、よき先生であつたあなた達、あなた達から、教えられることがいっぱいあった先生、様々なことに感動し、手を取りあつてとびあがって喜んだり、悲しんだり……

先生の幸せでした。幸せな一年でした。ありがと。来年また同じクラスで、同じようにあなた達と出くわすことがあったら、……先生と同じように、その幸せを感じてくれる人は、いてくれるでしうか? 心から、ありがと。



新居 先生

先生に言うことは、ありがと。みんなさん

しかばい、いはいめいわくかけて、いはいめいわくして、もう、た先生は、百回いすも満足いだいと思つて、程だバレーで、おこっちゃん先生、笑い話で、泣いて、先生

全部大好き。

なんかい子供みたいな先生だよ、でもそんな先生が、と、がんばって、未

くろまわり

先生へ

平野 絵莉

先生の目の奥は何があたんだらう。先生の心は何を持、ていたんだらう。先生のは何を秘めていたんだらう。ノ学期から、こまで、で、の、何が出来あが、たんだらう。私は見えない手が、てきたと思つ、見えない大きな手に、全員の、つかま、て、いるんだと思つ、その手の、主は、先生で、これから先、たれがつかま、てくるか、ずと手につかま、て、いると思つ、ずとずと、手を、つかま、て、いると思つ、だからこれから先、先生、心の手を、忘れな、ざれ、大事にしてね。

スーパースター(音楽) イケちゃん(電器)

ハナちゃん

(音楽)

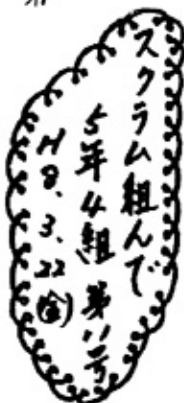
いっちゃん

元気な子ね。

必ず、また会おう。



ジャギクイ



[こころのサポート・市民の会]から

(避難所訪問のボランティア仲間)

姫路を訪ねて

浅井 春 美

はじめての仮設住宅への訪問。

姫路のボランティアからのお誘いがなければ、実現することはなかったように思える。駅前と新白浜にそれぞれ一泊ずつさせていただいた経験は、とても意義あることだった。東京のメンバーに伝えたつもりではあるが、実際体験してみて、まず、上がり口が高いのにおどろいてしまった。アプローチのアスファルトもだいぶたってからとのことで、砂利の上を高齢者の方たちが歩いていたところを想像すると、身の縮まる思いである。都市でおこった震災はほんとうに多くの人たちの生きる道を余儀なく変動させてしまったのだ。住み慣れた町に帰ったとしても今までとは別の町になっているかもしれない。心の動揺をやさしく、また時には厳しく受け止めるボランティアの働きは大切なことのように思える。

抽象的なことばかり書きつらねてしまったようであるが、仮設住宅における自治会運営の難しさは東京にいたら、全く知ることができなかった。人はみな心を込めて「みなさんへ」と物資を送ることはする。でも、うまく分配すること、いつ配るか、どのように配るかetc. いっそうのこと提供者が自分の手で一人一人に手渡せば、問題はおきないのだけれど、全国から寄せられるのだからそうはいかないということなど現地へ行ってみて感じたことである。岸岡さんの計画による「復興住宅への見学バスツアー」を実現されることを心から祈っている。

3日間を通して一番強く感じたことは、さあ、次のステップへ行こう！という気持ちを持つことはなかなかできないということだ。「しんどいな」という気持ちがどっかと腰をすえてしまう。そんな時、ボランティアの働きがけがきっかけとなれば、とても喜ぶべきことではないかということが大きな収穫だった。

岸岡さん、楠本さん、東さんをはじめ、その仲間の方たちのボランティア活動をこれからも応援していきます。そして、この夏には合同でキャンプのようなかたちで再開できたら良いなと考えています。

3日間、お世話になり有難うございました。

1997. 2. 11th.

姫路こころのケアボランティア様

さて、いよいよ3月1日に岡田先生の講演会と音楽会を開くことになりました。みんなそれぞれ分担を決めてあとは当日、お客さんが来て下さるかどうか心配しています。東京でお知り合いの方、また興味をお持ちの方がいらっしゃればどうかお知らせ下さい。

では、またお元気で。

東京都 原 章 子

姫路ではお世話になりました。

21日 仮設住宅での夕食会では、皆さんと心ゆくまでおしゃべりができ、堺さんが「今日は本当に

楽しかった。こんなに笑ったのは久しぶり。今夜、はよねむれそう……」と云われた時は、こちらまで、本当にうれしい気持ちになりました。

22日 ポートアイランド仮設住宅の隣が公園で、ジェットコースターからキャアキャア聞こえる声をととても嫌な気持ちできいておりました。しかもポートルイナーが片道240円かかるし、こ20202016の立地条件の元で、生活せざるを得ない方々の大変さをつくづく感じさせられました。三ノ宮でのフォーラムも行政の方々との話し合いなど、この眼で見たことがありませんでしたから、なかなか勉強になりました。(行政の方は考え方が固いですね)

23日 新白浜仮設住宅で上川綾子さんをお訪ねし、1時間半以上もおしゃべりをしましたが、御自身が3年前に乳癌をとったこと、正に私とは同病相憐れむといえますか、私を大変励まして下さった時は涙が出るほどうれしくなりました。また坂本先生とのボカボカ体操は本当に楽しく、あの催しは皆さんに大きな喜びを与えているのだと確信しました。天気が良く、外の畳の上でできたのは最高でした。そしてお茶とおはぎのおいしかったこと!! ボランティアの方々が輪になって一言ずつ感想を述べているのをみて、岸岡さんに対する皆さんの信頼感がひしひしとこちら側に伝わり感動いたしました。お忙しいのに、私と小沢さんの為に3日間の過し方を教え導いて下さったことに心よりお礼を申し上げます。3日間、私は沢山のことを岸岡さんをはじめ、仮設であった方々から与えていただきました。本当に本当にありがとうございました。4月19日青山で報告と森梢さんの絵はがきの宣伝もいたします。取り急ぎお礼と感想まで。

'97. 3. 25.

岸岡さんへ

東京は朝から雨で桜が可哀想です。でも、今週末からはどこでも桜が咲き始め楽しませてくれることでしょう。姫路では本当に色々お世話になりました。この同封のお菓子はボルボロといって、ちょっとらくがんの洋風的なもの(この店の人気商品)、日持ちしますのでどうぞ召し上がって下さい。一つは姫路仮設住宅の皆さんにお渡し下さいませんか。夕食会のあとにいただいた冷たいいちご本当においしかったとお伝え下さい。

P.S このポピーの絵は主人が描きました。



NEWS LETTER

こころの サポート

発行:こころのサポート・市民の会



会報第7号
1996年8月1日発行

連絡先
〒104東京都渋谷区渋谷4-4-25
青山学院大学3号館102研究室
河本洋子
☎(代)03-3409-8111、内2427
FAX 03-3409-1528
編集責任:森田 仁

Our Group Identity

私たちは市民ボランティアとして、災害時の人々の「心の援助活動」を行うことを目的として、

「こころのサポート・市民の会」を結成する。

上記目的達成のため以下の活動を行う。

- 1.資質向上のため研鑽を積む。
- 2.援助活動をより効果的に行うためのネットワークを組織する。

第3回研修会「有田モト子先生をお迎えして -ロールプレイ-」に参加して

記:鈴木身佳

さる6月15日に有田モト子先生による、こころのサポートのロールプレイの研修会が開催されました。有田先生は、私たちと一緒に芦屋の教会に寝泊まりをし、被災地でこころのケアの訪問活動をした仲間でもあります。

この日は7人(河本・河辺・村上・金・原・森田・鈴木)しか参加していなく、少し静かな出だしでしたが、徐々にテンションも高まってき、人数が少ない分だけ、一人ひとりが満足のいくモノが得られたように思います。

まず、2グループに分かれて、相手のお話を伺うためのスキル訓練を3段階に分けて、ロールプレイを行いました。話し役、聞き役、観察者の役割を各自が経験します。

ステップ1

聞き役は、ただ頷くだけです。

つつい自分の考えを言いたくなり、口がムズムズしました。

ステップ2

聞き役は、話のキーポイントと思われる言葉を繰り返す。

これが案外難しかった。話のタイミングを捕らえることや、腰を折らないように合いの手をいれるのは、結構難しいものだということを思い知り

ました。また、いいところでつかんでもらえると、共感してもらっているようで、安心します。

ステップ3

聞き役は、上記1と2を踏まえて、話し手の感情を明確にフィードバックする。

2でもタイミングが難しいところへ、相手の感情を言葉にして返すのは、なかなか難しい!何気なく「犬が死んでしまっ……」と流れてしまいそうなどころへ、「つらかったんですね」と感情を明確化するのです。これをしてもらえると、心臓をお包みで抱かれているような気持ちになります。これらを身をもって体験しました。

ステップ3が終わると、話し手と聞き手以外は観察者になり、聞き手が三つの技法を習得しているかを、みんなで観察する段になりました。私が話し手になり、村上さんが聞き手です。時間は15分。小グループの時の3倍の持ち時間、一体何を話したら良いものかと考えた末、小グループの時に話した家の犬の事を話すことに決めました。みんなの前で死んだ犬の事を、拾ってきた時から順を追って話していると、村上さんの必要なだけの、オーバーな褒め振りのない姿勢に、感情が高まってきました。犬(竜ちゃん)が死んでしまった時、「悲しかったのね」と一言明確なフィードバックが入った時、ポロポロと涙がこぼれてきたのです。もう、犬のことは昇華していると思っていた。もう、2年も前のことだったのにです。

その後、神戸のボランティア活動時に印象に残った人の役をイメージし、代表が聞き手になりロールプレイを行いました。聞き手は河本さんで

話し手は森田さん。森田さんは「ムウ…」としか言いません。「お話を聞かせていただけたら…」と尋ねても、「何もない」としか言いません。こんな時、どうしたら良いのか。無理強いはいくないので、引こうと思いました。沈黙は、なにか落ち着きが悪い気がします。このような経験はありませんでしたか？ここで、有田先生が教えてくださいました。「オープンマインド」こんな時は、落ち着きの悪い気持ちを、自分の方から言ってみると効果があるそうです。こちらの話を話すことは、相手に、「自分は得体の知れない気味の悪い人間ではありませんよ」という安心のメッセージを出すことになるのだそうです。

沈黙は、必ずしも拒否ではない。拒否は、必ずしも拒否だけではない場合もあるのだということを、体験できる裏あるロールプレイでした。自分などは、涙がでてしまうほど感動的な研修会に参加できて良かったと思います。

※こころのサポートのボランティア活動の原点は、相手への受容的態度で、カタリシスのお手伝いができることを、再確認できた研修会でした。

会報第6号で、(財)東京カリタスの家ボランティア養成講座"こころを受けとめて"の第1回目のテーマ:「ボランティアの心」を掲載しました。今回は、その後の2回のテーマを掲載します。

第2回テーマ:「心の悩みの訴えを 聞くために」

-講師:鈴木純一(精神科医) 5月25日-

記:鈴木身佳

「心の悩みを持たない人はいない」と低い力強い声で、まず、鈴木先生はおっしゃった。「悩みのない人は、周りの悩み」とおどけてみせるユーモアのある先生でした。

悩みには四つのタイプがある

1:人に聞いてもらいたい悩み

話して同情してもらうことで楽になる悩み

2:聞いてもらいたいのが、話せない悩み

悩みを自覚しているだけ良いものの、通じ合うためには、多少、工夫が必要

3:何を悩んでいるか、分からない悩み

問題がありそうなのは、なんとなく分かっているのに、悩んでいる

4:本人は悩んでいないのに、周囲が悩んでいる

本人には悩んでいる自覚がないので、聞くことは難しい

悩みを聞くことで、大切な心構え

(1)その人の身になって考え、共感すること

その人の身になって考えることは、その人の生活模様を含めた背景を実感をもって考えることである。たとえば、「誰と、どんな生活をしているのか」「月給はいくらぐらいで、家賃はどのぐらいか」「風通しの良い部屋なのか」ということを尋ねる。そこから、その人がどんな生活をしていて、そこで、どんな気持ちになるのだろうかということを考え、共感することである。

(2)その人にとって一体何が大切なのか

生きがいを尊重する。

(3)その人の悩みが分からない、ということを知ること

分からないものは分からないものとして、残しておく(そのうちは背景が現れてくる)。大切なのは、分かった気にならないことであり、相手の価値観を変えようとしめないこと。その場で、明確化を迫ると、押しつけがましくなることもあるので、注意。

(4)人の悩みを聞いている時の、自分の気持ちの動きに気付くこと

カウンセリング中に、自分がイライラしてきてしまった時、「なぜ自分はイライラするのか」「何に対してイライラしているのか」ということに、常に、気をつけていなければいけない。自分の悩みを人の悩みを聴くことを通して、解決しようとしてはいけないのは、もちろんである。

(5)自分の悩みを相手に投影して、満足しないこと。思い込まない、押しつけないこと

「あなた、怒っているのでしょうか」と相手の気持ちを察して言ってみたが、本当は違うかもしれない。言ったそこには、自分の価値観や、偏見や、思い込みが含まれていて、自分の思いどおりに操作してしまっている可能性もある。感情の明確なフィードバックをそれとなく伝え、相手の言葉で表現できるよう促すようにしたい。

(6)逆転移を理解し、相手の感情に巻き込まれないようにすること

逆転移とは、相手が自分に向けている感情が、

実は、自分を通して向けている感情のこと。自分は代理にしか過ぎない、ということに気付いていること(感情の再演技化)。例えば、親との関係で、昇進されない憎しみがあつたとして、カウンセラーを憎しみの対象として攻撃したとする。しかし、カウンセラー自身を憎んでいるわけではないので、自信をなくして、落ち込まないように。また、それゆえ、その攻撃に正面から立ち向かうとはいけない。待つ姿勢が大切。

(7)聴くことは、ついでにできることではない

第3回テーマ:「不登校の子供たち」

・講師:奥地圭子(東京シュール主宰) 6月15日・

記:河本洋子

長欠児は、いつの時代もいたが、1975年以来、急増の一途をたどっている。奥地さんの長男も、1978年ころから頭痛・腹痛を訴え、小学校5年生で拒食症にまでなった。登校拒否を子どもの立場でみてくれる児童精神科医の渡辺位(タカシ)先生と長男が2時間ぐらゐ、学校の出来事を話しているのを、そばで聴いて、22年間公立小学校の教師をしていた奥地さんは、「この子の学校での苦しみを、なんて分かっていなかったのか」と思われた。渡辺先生に分かってもらえて、長男は気持ちが軽くなったと言ひ、お腹がすいたと言って、オニギリをパクパク食べ、以来、拒食症が消えたことで、人間の心とからだが密接な関係があることが分かった。奥地さんは、これは、わが子一人の問題ではなく、日本の教育のあり方、学校のあり方を問い直さなければならぬと考え、多くの人たちと「考える会」で学び合ひ、教師をやめ、1985年に「東京シュール」という学校外の学びの場を開設し、今日に至っている。

世の中全体が、「学校へ行くのが当たり前で、行かないのはどこかおかしい」という考えが大勢をしめているが、学校を利用して成長する子もいれば、そうでない子もいる。その子をその子として受けとめることが大切で、「人と同じじゃないから駄目」というのではなく、人生の主人公である自分を、「この自分で良い」と自己肯定できるよう、援助していくべきである。

「学校に行かなくても、学校に行ったのと同じ立派な人生を送っている例をたくさん知っている。あわてることはない」と奥地さんは強調された。

<参考文献>奥地圭子著「学校拒否は病気じゃない。-私の体験的学校拒否論-」、教育史料出版会 1989年

※私たちの仲間からの、自己研鑽の報告を、参加できなかった皆さんの参考にしていただければ、幸いです。次は、ネットワークに関する報告と提案です。

神戸で活動が続けている

ボランティアの報告と提案

記:三木祥子

「えらいご無沙汰しました。元気やった? ほんま暑うて、かなわんなあ」という"ほんま"懐かしい、おやさしい電話の声。それは、大阪Yのボランティア(現空、姫路仮説住宅訪問ボランティア・グループ代表)の岸岡孝昭さんからのお電話でした。丁度、この次の週に、講演会で東京にいらっしゃるので、私たちと東京の仲間にも会ってくださるとのこと。(急な話だったため、お声をかけることができなかった方、ゴメンナサイ!)当日の参加者7人と岸岡さんと西原由紀子さん(自殺防止センター所長)のこじんまりした会になりました。

岸岡さんは、あの後(昨年の2月)、平日の姫路市役所の仕事もお忙しい中、毎週末、神戸の各避難所と仮説住宅の訪問、そして、現在は、姫路市を中心とした訪問をズーツと続けていらっしゃるということです。その熱意と誠実なお人柄に、再び、触れることができた私たちは、なんてラッキー者だったのでしょうか。いろいろなお話(この紙面では書きれないほど)を聞くことができ、大変貴重な一時となりました。

よく、何かに頑張っている人に"パワフル"とか"エネルギー"とかいう言葉が使われますが(そういう我々も、よく言われます?)、そんな単純な、無神経な一言では語れない、本当の"限りないやさしさ"と、その計り知れない"心の深さ"を感じさせていただきました。その根本的な人間性は、どんな専門家や学者も太刀打ちできないのではないかと、とつくづく思いました。実際、彼が代表であるボランティア・グループは、現在、30人ちかくのメンバーが、活動していると言うことで、その記事は、何社かの新聞でも取り上げられました。「とにかく、一人でも二人でも、まだまだ大變な

状況にある現地のことを、これからも聞いてもらえれば!!ふだん「聴くこと」ばかりだから、こうして東京のみんなに聴いてもらえて、とても嬉しい」と言う、そのやさしいニコニコ顔が、「何か、東京でもできることをやりたい!!」とズーッと思っていた私たちのモチベーションにさせてもらうことができました。

と言うことで、丁度、「『聴く』ことから始まる!」-阪神・淡路大震災支援活動報告-という大阪YWCAこころのケア・ネットワークの冊子の発刊キャンペーンを兼ねて、また、チャリティ講演会(&コンサート&バザー&etc)を10月、または、11月あたりに行いたい、と考えています。前回、今年の1月のチャリティの時は、全員のご賛同が得られず、主催が河本さんと三木ということになってしまいましたが、「今度はゼビ」こころのケア・市民の会"主催としてできれば……」と思っていますが、如何でしょうか?

また、先の冊子「『聴く』ことから始まる!」は、私たちの神戸でのボランティア活動の記録も含めて、その後の状況や、いろいろなボランティアの気持ち(森田さんの鋭い原稿、渡辺さんのステキな詩、三木のへたな文章も載っちゃっています)など、たくさんの方、少なくとも、この会のお仲間には、ゼビ!ご一読いただきたいと思っていますので、これも合わせてお願いいたします。カンパとして、一冊1000円ということです。ご希望の方は、三木(TEL&FAX 0427-21-4419)、または、直接大阪YWCAこころのケア・プロジェクト:担当坂上信子さん(TEL 06-361-0838、FAX 06-361-2997)へ、ご一報をお願いいたします。

※震災後も、神戸でメンタル・サポートのボランティア活動を、現在でも継続して行っているグループは、2-3グループあるようです。私たちの"こころのサポート・市民の会"が、積極的に交流を図っていく進捗先ではないでしょうか。

また、三木さんの提案を、次回の定例会で検討する必要があります。私たちの"グループ・アイデンティティ"に照らし合わせて知恵を結集してみませんか。

ボランティア活動は、自主的・自発的な内発的活動です。できる人が、できるときに、できる方法で、背伸びをせずに自然体で活動できるよう、皆で共にすすみましょう。

7月18日定例会決定事項

1. 橋野さんの辞任に伴い、今後も代表者を置くかどうかは、代表者がいなくても、今の私たちの活動に支障がないとのことで、代表者は置きません。橋野さん、半年間ご苦労さまでした。
2. 各役割分担は、できる限り、持回りでいきます。
3. ニュースレターの編集は、森田が河辺さんと協力して行い、発送作業も合わせて行います。那須野さん、島崎さん、半年間ご苦労さまでした。
4. 個人やグループの活動(ホスピス等での実践)を、著実に積み重ねていきます。
5. 会の連絡先表示は、河本さんの研究室とし、河本さんが定例会の会合場所の確保も合わせて行います。
6. 当初、次回の定例会は8月17日(土)を設定していましたが、お盆でもあり、9月19日(木)になります。18:30から開始しますので、総研ビルの実内板で、場所の確認をしてください。
7. 現在までの「心のサポートワーカーグループ名簿」による50名若の全登録者への会報送付は、今回限りとします。
8. 会費未納の方は、9月19日までに、持参するか、振り込みをしてください。
9. 会員名簿を新たに作成し、連絡網を作り、緊急連絡に備えます。

---編集後記---

▼会報第7号の作成には、4名の方から、5本の原稿をいただきました。1週間の厳しい納期に、ご協力ありがとうございます。紙面の都合で次回に掲載するぐらいの嬉しい悲鳴。

▼会報はみんなで作るもの。皆さんの投稿を、よろしくお願いします。

FAX送付先:03-5573-2188 森田宛

▼公私共に多忙な河辺さんに、単純作業の労務提供をしていただき、感謝。大先輩に仕事上では、絶対にお暇いできません。

▼私たちの活動は、一見、亀かデンデン虫のように歩みがノロイかもしれませんが、着実に前進。

【イベント 餅つき&シチューと野菜即売】

- 実施場所……………姫路玉手仮設住宅（世帯数160）
- 実施日……………06.12.15（日）午前10時～午後2時過ぎ
- ボランティア団体 …… 姫路こころのケアネットワーク 12名
- 参加人数……………大河内ボランティアグループ 14名
上郡高校（1～2年生）有志 32名（内引率教師 5名）

『感想』

・今日はシチュー作りをした。私自身の目的は、シチューを作ることよりも作る過程での色々な人とのふれあいだったが、作ることに目が行ってしまって目的をあまり達成できなかったように思う。

また、このボランティアをするなかで、全ての人が積極的に関わろうとするかと言えばそうではなく、中には窓からソッと見ていたり、騒がしくて嫌だと思っている人がいるという事に気付いた。そうした方とのふれあいも考えて行かねばならないと思う。

・今日は一日楽しかった。また機会があれば来たいです。

・ここに来るまでは、被災者の方々はちょっと近寄りがたい感じがしたけどすごく楽しい人達ばかりで、子どもはすごく人なつこくて可愛かった。雪だるまを毛糸で作っているとかわいーのを作っていると聞いてくれ、しんどかったけど作ってよかった。私が作った雪だるまをあげるとすごく喜んでくださり嬉しかった。私はこういうボランティアははじめてで、一寸緊張しながら来たけど温かい人ばかりで、来てよかったと思いました。

・仮設住宅に来たのも初めてで、こんな風にボランティアしたのも今まで少なかったもので、今日はとてもいい経験になった。最初はどうなるのか不安になったけれど、楽しく出来てよかった。

仮設住宅は、テレビとかでしか見たことがなかったけれど、真近で見ると、あーこんななんなんだって思った。私は、ツリーの方を作ったけれど、ちゃんとできて良かった。雪ダルマを作っていたら『雪ダルマ』って分かってくれた人がいてすごくうれしかった。ちゃんとできるか心配だったから嬉しかった。喜んでくれてとても良かった。

・今日は少しだけ風邪を引いていたが、色々な手伝いをしていくうちに少しずつ楽しくなったような気がする。

・訪問したのは2回目ですが皆さんが、普通に暮らしていたので安心しました。これからは頑張ってほしいです。思ったより仮設住宅の建っている面積が広かった。そこに住んでいる人は、とても温かい人で、話をしやすかった。皆明るい人達だった。自分たちも大変なはずなのに私たちにとっても気を使ってくれた。

・今日は、沢山のひとと知りあえて、話しをしたりシチューを作ることができてとても楽しかった。

・すごく楽しかった。

仮設住宅の人達はもっと暗い感じなのかと思ったけど、全然そんな事がなかった。おばちゃん達も明るくて、気さくでいい人ばかりだった。

シチューはあんまりうまく作れなかったけど、作ることが楽しかった。おばちゃん達が、昆布飯を作ってくれた。サンドイッチやおにぎりが美味しかった。疲れたけど楽しかった。

- ・とても楽しかった。
- ・今日は、とても楽しかった。

仮設住宅に住んでいる人達はとても元気で、私たちよりいい顔をしていました。私はこれからボランティアなどに参加したい。

- ・ボランティア活動をするのは初めてだけど、容易に出来ることに気づきました。ボランティアはもっと気を使ってするものだと思っていたけどそれほどでもなかった。

また、小さい子と遊んだりもして面白かった。また機会があればやりたいと思う。住民の人とのコミュニケーションも取れた。

- ・草むしりをした。タンポポ咲いていた。……？ 今何月だったけ？
- ・ここにくるのは初めてで、どんな事をするんだろうと考えていたけど結構楽しかった。ここの人々も色々と喋れたし、いい感じだった。優しく話してくれる人もいたので良かった。前よりも気持ちが安らかになったと思う。来てよかったと思う。また来たい。
- ・今日は、朝から餅つきやシチューを作ったけど、準備にかかるのは素早く出来た。

今回は初めてきたけど、仮設の人々は思っていたのと全然違ってとても明るく活発な人ばかりで、餅つきをしている時などはとても楽しく出来たと思う。僕ももちをつかせてもらったけどみんなつくたびに喜んでくれたので、やりがいがあった。次もこんな事があったら参加したいと思う。今日は、被災者の人々も楽しかったと思うし、僕も楽しかったので大成功だったと思う。

- ・初めて仮設住宅訪問をしてこんな事ならいつでも来ていいと思いました。

いろんな人に喜んでもらえて嬉しかったです。来てよかったと思いました。こっちの方が親切にもらえて嬉しかったです。何かの機会があれば又訪問したいです。

これからも頑張ってください。みかん有り難うございました。

- ・前に来たときよりもいろんな人と話が出来た。特に小さい子ども達がやけに元気なんで、見ているだけで楽しくなれて良かった。

・今日一日、ボランティアとして活動しましたが、戸惑いや不安感があり、あまりちゃんと出来ませんでした。これからボランティアなどして、このような経験を沢山していきたいな- と思いました。今日は楽しくすごしました。

- ・ボランティアに参加したのはこれで2 回目でした。人のために何かをしてあげることは、とても気持ち良かったです。仮設住宅の人達は、嬉しそうにシチューを食べてくれたので嬉しかったです。

また、このような機会があれば参加したいと思います。今日は本当に楽しかったです。

- ・今日はいい天気だったので楽しく出来た。また来たいと思いました。

コアラの会（東京） 森 美重子

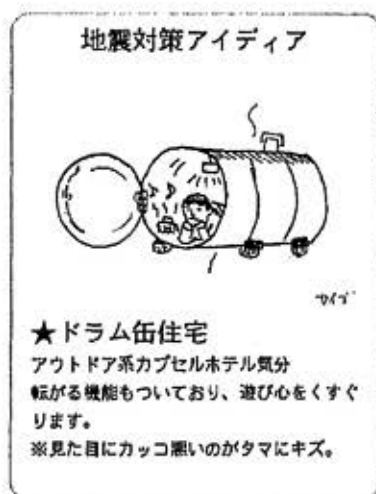
※姫路〇〇仮設住宅に入居されていた家族を紹介し、継続した支援を展開中です。

私は「コアラの会」という小さい子供をかかえ、動きはとれないが、何かできることがあるのではという思いで、活動して来たグループの者です。自分の地元で、活動してはいるが、思うように現地の情報が入らず、日毎にうすれていく震災への意識をどうしたらよいかなど、現地に入ったことが無いために活動を続けることが難しくなっています。反面続けている強みでしょうか、思わぬ所からの物資の提供や手伝いの申し出などにまだ続けられると思い、勇気づけられたり、揺れ動きながらもやれるだけやってみようという思いで、今日来ました。

今日大きなテーマとなっている『コミュニティ』は元々井戸端会議から発した会ですので、ボランティアに入った方々が今後どう作るか話していることにかえて驚きました。現地に入れないという思いからもどかしい日々を過ごしていましたが、今日はこれで良かったのだなという思いでいます。今後も地味な活動ですが、地域の方々とやれることを見つけやってゆこうと思います。

たくさんの同じ思いを持った方々と遇せて良かったと思います。皆さんのお話を聞いて問題は本当にたくさんあり、それは震災と関係なく元々あった問題なんだということが分かりましたが、それは一人一人の人間の生き方などにも関係があり、全ての人がこの問題を考えて行かなければ行けないのではと思いました。

SP：〇〇さんの顔がとても疲れているように見えました。何故そうなのか気になりました。ボランティアへの心のケアはどうなっていますか。



【ボランティアとは 今思うこと】

神戸での戸別訪問ボランティア連絡会 1996.1

U・I (女性)

- ・上下関係ではなく、どちらもおっさりさりと受けられる関係でありたい。
- ・以前のイメージする施すとか身を投げうって全身全霊で奉仕するという感じではなく、対等な立場で特別なことではなく、あたり前のことといった風でありたい。
- ・体調をくずすことも、また心がかぜをひくことがある。そんな時、その人が元気をとりもどすまで相手の立場に立って人格を重んじ、手伝えることがあれば友達として手伝いたい。
- ・受手側も、サービスを利用という感じの明るさ前向きに生きてゆく為に、自分でできないことだけその期間のみサービスを利用する、へりくだるとか、ひくつな居心地の悪さを相手を感じずにすむように……。
- ・できる時にできる人が高い目標を設定せず、自分のできる範囲のことを無理せず、気負いすぎず、お互いありのままを受け入れあえる、そんな関係になりたい。
- ・あの人に言えば何か合った時は来てくれる、そういう安心感を心に盛ってもらいながら、日々の生活の中では誇りを失わずに生きてゆくことができるように、心に添った形でV活動なり福祉サービスをしたい。

『共に生きている

生かされている』を大切に考える

- ・ボランティアVが至れり尽くせりの世話をすることで自立を妨げている。
- ・Vが依存させてしまっているのはその人の人格を尊重せず、誇りを失わせてしまっていることになると考える。
- ・Vも自分自身をよく知り、一人一人今までの生きてきた人生・生きざまを大切に受け取りたい。
- ・自分自身でもできることがあるのにもかかわらず、やればできる人が『全部してもらえばいい』と自分を見失わせてしまうところへボランティアが追いこんでしまう過度な手助けをしない。
- ・イラスト→相手の立場に立って考えてみようという投げかけをイラストを使ってまず最初につかみとしてみては？ その後お話を進めていってはどうでしょうか？

T・M

①ボランティアとは？(一般論)

<個人として>

一個人の思いを行動へ

感受性＝知ったら放っておけない

行 動＝可能なところで具体化

想像力＝考えて行動する

<社会の一員として>

社会的存在＝社会的責任

社会的責任を具体的に果たす方法の一つ

支援は、共に生きる者としての同志的協力関係

☆救援ボランティアには社会的に行動することの理論武装が不足

②神戸の現状

メンタルケア

・心的外傷・ストレス

今後、子供を中心に激化するのか

報道されている割には対応されていない

・アルコール依存症

失業等生活基盤の破壊による無力感が原因

個人的問題であるが、しかし、待つ姿勢が必要

家族への支援、補助的支援

☆人とは夢や希望がなければ生きれない存在

☆専門的対応を要する部分が多い

高齢者／障害者

震災「災」ではなく社会問題である！

共生する社会の建設が解決には不可欠

☆震災なら96/1/17以前に戻れば解決するが……

コミュニティの破壊と復興

被災→避難所→仮設住宅→復興住宅＝移転の繰り返し→孤立の増大

復興住宅を含んだ地域コミュニティの建設

☆住民が発信する街づくり

☆参加と受容の原則

③活動に必要なこと

＝頭と手と金＝

頭／現状認識と見通し＝理論武装

☆手／現場へ！＝具体化

仮設住宅では経済的支援と精神的なサポートが必要。物は物として支援となるが、精

神的なサポートは、被災者が支援されていることを実感できる状況が合ってこそ。そ

れ故、現場！へ出向くことが絶対的に不可欠。

☆／具体化には資金が必要

④発信！＝震災から2年たって、今なお、なぜ、ボランティア活動をするのか？

震災は今？

被災地の問題は社会問題である→救援活動ではない！
なぜ、我々は活動するのか？
一個人も社旗的存在だから、社会的存在として自分の責任を果たす
なにを、目指すのか？
「すべての人が
弱者も強者もただの一画で相対的な表現でしかない
共生する社会」
かかわりあって生きる
→都市的「街」論の崩壊
→コミュニティの創世（たて糸とよこ糸）
どうやって？
自立した個人相互の信頼・尊重を基盤にした社会的なかかわり方の確立
→ボランティアも含めた自立プログラム

〈ボランティアとしてめざすもの〉

U・O

すでに活動のスタイルは、福祉ボランティアの域には入っているが、私の活動の基本はあくまでも震災ボランティアである。震災によって、何が見えてきたのか「いまここで」立ち止まってみようと活動をしている。

従って自分の活動を長期的な目でみると、今後どう続けるのか、正直なところまだ答えが出ていない。現在、ポートアイランド第3仮設で活動を始めたが、いかに展開するかも模索中。

ただ、これまでの避難所や西神第7仮設でできた関係については、ひとつの関係としてできている部分があるので、距離をおいてはいるが、少しは友人に近い関係で見守ることができそうに思う。

私の活動の立脚点は個人の自由意思にあり、善意とか奉仕からはできるだけ遠ざかっていたい。「美しく」なく「善い」行為とならないようにしたい。等身大の自分の身のおけるものとしたい。

震災で気づいたことや見えてきたことが、どのように次の新しい文化となっていくのかに関心がある。また、そういう新たな文化を担う者としてかかわりをもちたい。

日常的な仕事や生活の中では、意識的にであれそうでないにしろ、切り捨てたり効率化したりしている部分がある。それをここで回復しようとしているのかもしれない。忙しくしていて、気づかないことに、目を向けたり考える機会とみている。

カウンセリングの技法や、プライバシーを守るといったマナーを別にして、活動全般の中で考えていることは次の通りである。

【めざしたいこと】

1. 対等な人間関係をめざし、自分自身が来て欲しいと思えるVに
2. まっ白な気持ちで入る。とらわれのない目で見て判断する（マスコミの目で見ない）
3. 仮設の視点から自分の生活を見直す。豊かさとは何か。
4. 活動グループの中間作りを大切にする（1回だけの参加者であっても）
5. 活動をふりかえる。

【あえて、すべきでないこととして】

1. 仕事ではない。ノルマはない。効率を追求しない。
2. 仮設に住む人たちを管理しない。
3. 「無力な被災者」という扱いをしない。かりに社会評論をしたとしても、行為する者としては、その人個人を尊重して会う。

【注目している人】

1. 単身の高齢者
2. 他人に頼りたくない人

【具体的な自分の変化】

1. 健康と体力づくりに積極的になってきた。
2. りりしい老人に出会い、めざすものが具体的になった。
3. 仕事（面接）にプラスになっている。

'96. 11. 25

M・K

ボランティアグループに参加して教えられているいくつかのこと。

- ・参加者自身自由な精神と自発的な強い原動力をもっていることが、とても大切な要素であるように思っています。
- ・対応する物事が決まった枠組の中で、どこから指令が常に示されているわけではないので適切な判断と選択・決定もしなければならないこともある。
- ・他を支援・援助しながら、実は個々人も相互に成長しVグループも成長しているという姿が堅実なように思われる。
- ・いつもより急を要し、見過ごされがちな面を知って対応することの出来る柔軟な体制をもっていると、より効果的な援助活動が出来る。

その対象は今は仮設訪問であるが、それでも対象になることの様々なものがある。

メンバーにとってもそれぞれの発想、対応の仕方があるので、この事実が自然に解消され行動されていてエネルギーが健康的に消耗され、活用されることが自他共によるこびとなっていくと思う。

- ・どんなに援助・支援が必要と思われるようなケースでもそれが時間的な力（病気など）行政の側の内容となると、どこまでVとして関係を持ち続けるかは判断しなければならないことが多くある。

- ・相手がいくらVを必要のように求められても自立を妨げる結果になることは勇気をもった決断で他の方法にゆずるなど。
- ・基本的には同じ社会人。共に今の時の中で生きている人間同志として、友達として同等の感じ合い方、よろこび方、前進の仕方をしていけたらよいと願っているものです（また途中です）。

A・O

私にとってボランティア、ボランティア活動とは？

「それはひとつの出会いであり、しるしであって
ひょっと気づいたことを大事にして、
目に見える効果を期待しすぎないで、息長く、
その時まで、共に歩み続けるもの（こと）。」

◎私は長い間、仕事とボランティア活動をわけていました。

生活のおまけの部分のように……。

然し或る時からそうではなく、仕事もボランティア活動も基本的に私の生活の一部なのだと
ことに気付かされました。

だから、気負わず、頑張りすぎず、さりとておろそかにはせず、私の身体の一部として大切に
していきたい、仕事もボランティア活動も同じようにと思うようになりました。

◎然し、被災地のボランティア活動としてはボランティア間の連帯が大切だと痛感していますので、
フォーラムではイベント的な連帯ではなく（それを通して教えられることもあります）、ボラン
ティアひとりひとりが心の深いところで感じ合える連帯が必要と思います。どうすればいいか、具
体的なことはわからないのですが。

96. 11. 25

M・T

○特別な人間関係ではなく、普通の人間関係の延長として考えられる。たまたまそこにその方（グ
ループ）がおられ、私がボランティアとして受け入れて頂いているということではないか。故に
自分の人間関係の持ち方が問われる。

○……『ではない』という面では、

- ・相手に何かが欠けているからして上げるのではない。
- ・相手が出来ることや家族が出来ることを代わってするのではない。
- ・配偶者でも肉親でもない。
- ・医者や何かの専門家ではない（専門家をお願いする）
- ・自分の満足・安心の為にするのではない。
- ・同情・感情・共感のみが行動の動機ではない。
（距離をあげた客観性、思慮深さも必要）
- ・善意の押し売りではない。
- ・自分の考え・方法はいつも最適ではない。

○……「こんな関係」という面では、

- ・対等な人間対人間の関係である。
- ・相手の人格・力・今迄の歴史等々を尊敬する。
- ・相手の自発性・能力・治癒力・生活力・生きる力を尊重し信頼し、させて頂けることがあれば

させて頂く。

- ・相手のその日、その時の状態・歩み・リズムを尊敬する。
- ・相手の身になって考えたり感じたりする（出来るだけ）
- ・相手（個人・グループ）の人間関係の拡がりのために何が出来るか……。
- ・何も出来ない時、出来ないことを自分にゆるす。
- ・相手の誓のために関係もお手伝いも切らなければならない時がある。
- ・秘密を守る信頼関係がある。

○緊急的状況と平常時ではあり方が違う

- ・緊急状況……ボランティアの自発性・機転・行動力が求められる。beingのみでなく doingの面が大きいかも知れない。
- ・平常時……相手が主体。ボランティアは一步下がって必要性に応じる。being的な面というか、定期的訪問によって関係が深まっていく。変わっていく必要性に心を開いていく。

○ボランティアグループのメンバーとして

- ・私有化域はにぎりしめをしない。人との関係・問題・仕事・情報etc.
- ・定期的な会合でフィードバックし合い、今からの歩みを共にみていく。
- ・お互いの富を出し合い、また共に豊かにされる方法を探す。
- ・フランクに話し合えるようにオープンな関係を努力する。

○めざすもの

一人一人の方が、各々の状況の中で、自分らしく、（出来るだけ）自分の力で生きていかれるように。また、自分だけの世界に閉じこもることなく、出来るだけ交流をもって（人・自然・動植物・趣味etc）楽しんで生活されるように。ささやかなことにでも何か希望に気付いていかれるように。お元気に、平和になっていかれるように……等。

声をかけたり、聞いたり、話たり、何も言わずじっとそこにいたり、手をにぎったり、共に考えたり、働いたり、どこかに行ったり、食べたり、遊んだり、一緒に悲しんだり、困ったり、喜んだり……。

何かをする、出来るということではないが、使っていただけたらと使っていただくということではないでしょうか。

○ボランティアをして

本当に多くの方に出会わせて頂けたこと。それは最高の宝であり、私自身とても豊かにされました。まごころを頂いたり、人生の富から学ぶことも大です。そして私を使っただけの幸せを感謝しています。また苦しみや心身の病氣、行き詰り等々の前で、何も出来ない、祈ることしか出来ない厳粛さも味わっています。

※ボランティアって何？と度々自問自答する中で、文字にならないことを自分なりに文字化したよいチャンスになりました。

'96. 11. 21

地震対策アイデア



★家具が倒れないようにタンスや机、イスの足元をかみねんどで固定する。
※ねんどのニオイが気になる人はダメ。

地震対策アイデア



セブン

★コンビニエンスストア

全ての家がコンビニエンスストアになっている。
いざという時、水や食べ物が便利。子供はマンガを眺めて楽しい。
※店が多すぎて客はあるの？

地震対策アイデア

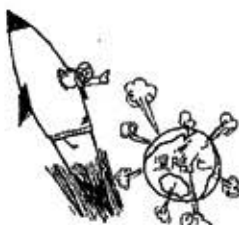


マリン

★地震對抗波動

体重 100Kg 以上の人は、地震時には貧乏ゆすりの波長で地震波を打ち消すようご協力をお願いします。
長期戦も有り得るので食べ物をふだんから所持しておく事。
まわりの人はジャンプ応援すること。
地震対策紀満会名誉会長 小嶋 八十吉

地震対策アイデア



でいこ

★宇宙から

ロケットに乗り、宇宙空間に滞在しておけば地球で何があっても大丈夫！
※燃料が心配。

地震対策アイデア



やい

★気功療法

中国より気功の達人に来てもらって震災の起こる前に大地のエネルギーを宇宙に放散する。

【三年目の私たち】

神戸北町ボランティアがんばり隊

●小さな街の小さなボランティア。今の私たちの現状は、そんな感じです。

自分たちの住んでいる街が好きだから、好きでありたいから、隣人と手を携えて暮らしていきたい——その気持ちが、今はボランティア活動となっているような気がします。

●役所、警察、民生委員さんいろんな立場の方達ともいろんな機会に交流を持ち、協力体制ができてきたと思います。

●2年目のお付き合いになる仮設住宅の方達とも、いろんなことがありながら、信頼関係も生まれてきたのではないかと思います。

●私たちも主婦ですが、民生委員さんも、ふれあいセンター文化教室の先生たちも同じ街に住む同じ主婦。その気楽なつながりで、大したことは出来ていないけれど、日常に根ざしたおつきあいが、それぞれ「自分のできることを無理なくする」ことを目指して続けられているのではと思っています。

●今までの活動の中で、私たちが学んだことはたくさんありますが、特に心がけていることは、「オーバーワークにならないように、余裕をもって活動に取り組めるようにする」ということです。子育ても家庭も仕事も、ボランティア活動も自分のライフサイクルのなかにうまく組み込んでいく。自分が辛せでないと、結果的に相手に負担をかけたり、いい活動ができなかったりすると思うからです。

●あまり、手を差し延べ過ぎないようにも、こころがけています。気持ちで先走って、相手にどっぷり漬かってしまうと、相手が本当に自分の足で歩いていくのを妨げてしまうと考えたからです。私たちができることは、所詮知れている。まず、謙虚に自分たちの実力を考えれば、相手の言いたいことをじっくり聞いて、専門的な知識や対策が必要なときは私たちなりに、探して、もがいて、つなげていくことくらいしかできないのではないかと考えています。

●実際、何もできていないと思います。でも、気持ちを寄せつづけること、明るい顔で、元気に訪ねること。それで、「ちょっと気が楽になった」「あんたの顔見ると、元気がでてきた」という言葉が、聞ければと思っています。

●まだまだ、これから……。今、仮設の自治運営の主だったメンバーは、今年たくさん仮設から出ていかれます。なんとか保っている人間関係のバランスが崩れ、先の見通しの立たない方、社会的弱者の方ばかりが残されていく。これは、今までの避難所にも、仮設にもなかった、異常な状態に

なるのではと思います。これからは、公的な援助、専門家の支援がますます必要になってくる……と考えます。

●その中で、いったい私たちに何ができるだろうか……まだ、答えは見つかっていません。

アジア協会アジア友の会 尼崎世話人

天 野 澄 子

悪夢のような地震から早や2年7ヶ月が経った。日本中の誰もが忘れることのない早朝の出来事。一瞬の間に変わり果てた神戸の町。火の海の長田区、橋げたのない高速道路。べちゃんこになったビル……。

大阪の協会本部を中心に、自発的に集った会員たちは地図を片手に神戸方面の会員の安否を確認することから始めました。無事な顔を見てホッと、「ありがとう！」の一言に疲れはふきとび、逆に元気を頂く日々でした。以来、神戸でのボランティアで2ヶ月はあっという間に過ぎ、少し落ち着いて来ると「震災児の心のケア」と言うことが問われるようになってきました。

私達も長田区にある避難所で「スプリング広場」と言うふれあいの場を開き、4月～6月までの3か月間、週3回数人がローテーションを組んで取り組みました。6月も下旬になると子供の数は減ってゆき、最後まで残ったのがN君とRちゃん姉弟。最初の頃、かたくなに心を閉ざしていた二人もさまざまな遊びを通して気持ちがかよい合い、笑顔を見せてくれるようになりました。最後の日、お別れの言葉を言うと「帰ったら嫌だ。」「ねえ！ぼくと結婚して」と言われた時のショック！ありがとう！N君、Rちゃん、子供達、仲間に入れてくれて。その後も元気になっているのだろうか？心の傷は？と気にしている自分があります。

7月からボランティア活動の場も仮設に移りました。どの仮設も様々な問題を抱えているようですが、一件ずつ個別訪問し、一番困っていることは何か？私達は何を出来るかを話し合い、希望の多い踏み台作りに取り組みました。大工の経験のある方を中心に、夫を引き込み、東京の仲間も加えてお盆休み返上の頑張りでした。カーペットを張った400台の踏み台を完成させることが出来、多くのお年寄りから感謝されました。

11月にはネパールの方達の協力で「ネパールカレー」、中国留学生による「中国ぞうすい」の食事会、そして仮設の皆さんと一緒にタコ焼き、綿菓子作り等を楽しみました。

最近仮設の空き家も月立ち、人影も少なくなって来ましたが、皆が安心出来る定住宅に落ち着かれる日は、いつのことでしょうか？一日も早くその日が来ることを願っています。

この2年数カ月、本当に学ぶことが多いバラエティに富んだ日々を過ごしました。多くの若者と共に体験出来たことは、とても嬉しいことでした。ボランティアとは、まず身近な所から自分の出来ることをする。無理をせず、何事も楽しくする！私達と一緒にやってゆきませんか？

【講演／ボランティア活動から学ぶこと】

場所／神戸YWCAいもづる会・日時／1996.6.22

林 祥 子

この前も西神戸YWCAで被災後の神戸におけるボランティア活動をしている人の話をききましたが、現場に実際おられる方のお話は具体的で心に迫るものが多く、行動することの大事さ、すばらしさと同時にその背後にあるさまざまなむずかしさが私なりにわかったような気が致します。

YMCAの方も、又、今回の岸岡さんのお話にもありましたが、アルコール依存症、うつ病といった精神的な病いを抱えた人への支援ネットワークがどれだけ必要かということを改めて思い知りました。これからの岸岡さんの御活躍を応援しています。

.....
T・T

これまで新聞・TVなどを通じて知っていた以外のボランティア、その活動の実体を知る事が出来ました。

将来、予見される高齢化社会を思うと、行政とボランティアとのあり方をしっかりと計画、実現してゆかねばと考えさせられました。社会のあり方、その前に一人一人の考え方、行動が大切だと思うことです。

貴重な体験を伺えて有り難うございました。

.....
影 山 雅 子

経験豊富な岸岡さんから、とてもいいお話がきけたのに参加人数が少なくて残念だし申し訳なかったと存じます。じっくりと時間をかけてお聞きできて本当によかったと思っています。今後も長くつづけたいと改めて感じています。

ご健康を祈ります。

.....
神戸市 田 崎 幸 次

公務員の方がボランティア。それもリーダー的立場に居られることは考えた事ありません。全く知りませんでした。驚きです。

この方面の事、小生詳しい事はわかりませんが、トラブルは多々あることと思います。小生は老人ホームで少しお手伝いをしたことがある程度です。

市や県の方はこの災害をチャンスのように見て都市計画などの実施を急いでいるらしく、それも大切でしょうが一般市民の立場も考えてほしい。本日の講師のような方が一人でもあられることに大きな希望を感じます。なにぶんよろしく。

.....
佐 治 菊 代

徹底したボランティアの姿勢に感動しました。矢張りその為の学びの必要な事を痛感します。殆どボランティア活動で今まで生きてきた自分の姿勢を振り返られました。

しかし、社会的に解決せねば……。ボランティアの努力だけでは片付かない問題が多いと思っています。市行政がボランティアに依存して、すべき事をしないという事を痛感している現在の私です。

.....

加古川市 飯 濱 玲 子

岸岡様がおっしゃったように、大震災から始まったボランティアのいろいろな活動ですが、高齢者（中高年）の問題とか、土地や住宅の公共性の必要性とか、日本の社会を大きくゆすぶる問題だと思います。「共生」と一口に申しますが、むずかしいですね。私は今までの経験から精神障害に『心ならずも』なられた方々の社会共存がいかに難しいか考えさせられますが、でも小さな歩みでもしていかなければなりません。同和教育とか人権学習の必要性を痛感します。

.....

A・A

ボランティアのあり方としては、自分がかなりしっかりしていて、冷静に慎重に行動できる範囲で行うということが大切だと思っている。もし、トラブルが生じた時にもある程度の余裕をもって対処できるくらいに。

しかし、今回のように予想もしない大きな災害が起こって、非常に多くの被災者が出た場合、ボランティアの対象になる方が、膨大な数になるこんな場合、不完全な（という言葉が悪いが）状態でボランティアに参加する人が（ムードに流されてという面もあって）多数出てくるのは問題では？と思っています。

ボランティア育てという面も両方負担されて本当に大変だなあと感じました。

今、まだまだ現状の問題が多いが、将来にはもっと一般人のボランティア育てが必要だと思う。

私自身はじめてボランティアになったのは1948年、学生時代のことでGHQのCIE（Civil Information & Education）が、日本にもボランティアを作ろうということで、自治体（私の場合は大阪府）に働きかけたときでした。「ボランティア」ということばをまだ誰も知らなかった時のことです。そのころは、戦災孤児を収容する施設があちこちにあって、休日を利用して学生のグループでそういうところに行き、子供たちの相手をしたり、演劇やゲームをしたりしたものです。途中、仕事や結婚、育児で中断した時期がありましたが、20年位前からまた盲人のためのテープ録音などをやっています。今度の震災では、自宅付近がひどくやられてしまったため、自分の家族の生活防衛に追われてしまって他人様のためには何もすることができず、申し訳ない気持ちでいます。岸岡さんのように仕事をもちながらしっかりした意識をもってボランティアをしていらっしゃる方のお話を聞き、たいへん励まされました。私もあと何年できるかわかりませんが、できる限りのことをしたいと思います。いい加減な気持ちではできることではありませんね。

『ボランティア活動終結について』

(大阪YWCA こころのケア 女性)

ボランティア(女性) 活動終結?を決めて!何かこころの中で大きな重たいものを横においたような気がしています。

これが、今後しばらく、楽に感じたり、後ろめたさを感じたり、させてくれるものでしょうか…。先の見えないのは、いつもいつもでした。

そんな時、岸岡さん・泉さん(りんくう助け合いネットワーク)の活動を聴かせてもらって、後を追ってばかりでしたので、私の先の見えなさは苦痛ではなかったのですが、岸岡さんの場合はどうもそれが苦痛なものなのですね。

何分にも2年半になろうとする長く重たい道のりを歩いてきた。(岸岡さんにとっては、走りに走ってこられた)活動なので、それぞれ自分の平常を取り戻すのにも、リハビリが必要だろうと思います。

今後は、バックアップを自分の活動として行けたらと今は考えていますが、どうなりますか?

ポストカードの販売に協力できて喜んでいます。

何か手伝えることがあればまた教えて下さい。

(1997.8 記)

(震災後、YWCA こころのケアネットワークで活動した仲間と、悩んだとき・落ち込んだときに相談にのってもらい、今日の活動基盤が出来ました。今後ともご指導してください。姫路T・K)

地震対策アイデア



セゾ

★ふだんから鳥の群れを飼いならして車代わりにする。交通渋滞にはスゴイ効果。
※行き先はランダム、鳥の意志に任せる。

地震対策アイデア



セゾ

★神木

家と神木をロープで結び、ご加護で災害から家を守ってもらう。
※宗派により、頼る対象を替える。

地震対策アイデア

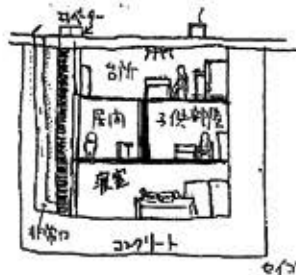


セゾ

★装甲戦車型住宅

地震で壊れる事はなく、移動時にはキャタピラがどんなガレキの道でも進める。
キャタピラで進めない障害物は大砲で爆破。
※あらゆる費用が高い。

地震対策アイデア



セゾ

★地下3階建ての家
夏は涼しく冬は温かい。

地震対策アイデア



セゾ

★水を身体に貯める。

ふだんから水をよく飲み、少々水不足に耐えられるように貯めておく。
火事の際には、オシッコで火を消す訓練をする。

【ボランティアの為にボランティアのフォーラム】

- 日 時 ……………1996年5月11日（土）
- 開催場所…………… 鷹取中学校（神戸市須磨区）
- 分 科 会……………「戸別訪問ボランティア」
- コーディネーター…姫路「こころのケア」ネットワーク 岸岡孝昭
- 趣 旨……………①これまでバラバラに活動してきたので、『とにかく集まろう』そして『自由な交流をしよう。』
②震災一年の活動の検証とこれからの活動の展望。
③活動を一部の人が行う特別の活動とするのではなく、視野を広げるためのアピールの場（被災地から各地に発信）
④ボランティアのゆるやかなネットワーク。
⑤ボランティアの自己主張。
⑥ボランティアだけの問題ではなく、『皆さんの問題ですよ』と「気付き」を促す。

【参加ボランティアの手形による今の思い】 抜粋

- ・神戸の市民にとって、被災した人々の事を忘れてはならぬと思います。そのために、私は現場から発信し続けようと思います。
- ・自然な形の自分のボランティアスタイルを作っていけたら…。思いを書くには、手は何枚も必要です。
- ・この世に生命があるかぎりそっと寄り添い共に生きたい。
- ・何も行動していない、がやめないで続けたいと思います。まだ、先は、長くかかるという言葉が心に残りました。
- ・ボランティアなんて誰にでもできる。普通のこと…。ぼちぼち真面目にやれたらいいこと…。
- ・これからも一日一日心を広く持って、皆で頑張っていきましょう。何十年かに大きな実りとなるように
- ・震災でものは無くなっても、心のなかまでは、無くしてほしくない。少しでも『貴方と話してみても良かった』と言ってもらえたら活動した意味も大きいだろう。そしてまず私自身も助けてもらえそうです
- ・皆が幸せで楽しい毎日を過ごせる世の中にできたらいいなあ
- ・この手にふれてみてください…。
- ・今日はとても勉強になりました。今までボランティアに興味はあったけれど何もできなかったの、これから、私にできることがあればやってみたいです。
- ・ボランティアの『和』が大切である。
- ・僕が活動してもらって思うことは、どないしょと思っている人と続けて関われば何かが出来ると。
- ・自分自身を大切に、人との関わりを大切に、これからも勉強を続けていきたいと思っています。
- ・これからも子どもとの関わりを続けていきたい。子どもにもっと近づけたらいいな。

- ・優しい気持ち・子どもプロジェクト支援参加・私のリフレッシュのための研修会参加・悩みを持っておられる人達の関わり。
- ・愛。
- ・生きる希望をこれからも持ってもらえるように頑張ります。スマイル…。
- ・私は始めたばかりで知らないこと、分からないことが多々あるけれど、これからのボランティアは『心のふれあい』がとても大事だと思った。相手とところを通わせること、ふれあいの輪を広げていくことを目標に頑張りたい。(女性・高校生)
- ・気がついてみたら、誰かが隣に居る。そっと寄り添って。
- ・地球家族。
- ・現在『ボランティア』と呼ばれている活動は『震災ボランティア』なののでしょうか？『仮設』は確かに特別な作りをしていますが、それ以外の問題はほとんど全国何処でもある問題…。
- ・全国レベルのボランティアネットワークはどこまで実現するでしょう。
- ・孤独な方々と共に関わりを持っていきたいと思います。
- ・どんな人でもいきいきと生きていける街。それが高齢化にも震災にもしなやかに対応していける街だと思います。街づくりの一員になれるよう私もしなやかに活動していきたい。
- ・昨年の夏から仮設を訪れていなかったが、『何も終わっていないんだ』と言う気持ちで、ずっと胸にありました。本日参加させていただいたことで、新たに自分がどう踏み出していくか、ヒントを頂きました。有り難うございました。
- ・ハート。
- ・今さら、今こそ、人間のこころって難しい人の分だけこころもあるから人それぞれだけど…。
- ・でも、その分大切にしたい。こころを大切にしていきたいと思いました。
- ・俺はなんでボランティアをやっているのか、もう一度じっくり考えたい。
- ・忘れがちな泉佐野市にあるりんくう仮設住宅の事を色々なボランティア団体と連携をしながら外へ向けて発信をして行政にも訴えてゆきたいと思っています。震災ボランティアで得た経験をいずれは自分の地元へ持ち帰って生かしていきたいです。
- ・私は今、被災地に住んでいますが、両親・弟夫婦が被災し、今回実家の引っ越しの手伝いに来ています。このフォーラムをニュースをみて参加しました。何かお手伝いをしたい気持ちはあるのですが、あまりにも神戸の話題は遠くなってしまいました。現在ではここで今日聞いたことを伝えることだと思っています。福祉職で8年間仕事をしていますが初心に帰っているんなことを考えさせられました。

【96サマーボランティア事業】

★場所／新白浜仮設住宅

★日時／1996・7／21～7／31

★目的／夏休みの一定期間、ボランティアな福祉活動を体験する場所を提供する。福祉に対する意識を高め、ボランティア活動への参加を促進する。

《ボランティアを受け入れた時の感想》

〔神奈川県海老名市 男性 高校生〕

●どこの仮設住宅でも高齢者の方が多い事に大変驚きました。

自分の逢った人達は、皆元気のいい人で色々な話を沢山聞け、今後ここで聞いたことを生かしていきたいと思います。ただ、何もやっていく気がしないと言っている人が居るとというのが、大変気になることです。ここへ来てメディアだけでは伝わらないことが沢山あることを知りました。ここまで来て本当に良かった。

〔東京都板橋区 女性 短大生〕

●仮設住宅に生活している方とお話をさせていただき、生活している人にしか分からない苦労や悩みを聞けました。知らない土地で知らない人と隣同志になり、一緒に生活するというのは、震災にあっていない私たちにとっても心細いだろうと思います。その上、被災者の方は、何もかも失い、また親戚とも疎遠になってその寂しさは計り知れないものと思います。その心細さを私たちが、訪問することによって、元気を取り戻してくれたら訪問したかいがあったと思います。訪問した方の中で、近所の方には言っていないことを、見知らぬ遠くからきた私たちに言ってくれたことが嬉しかったです。

〔埼玉県深谷市 女性 短大生〕

●今回の体験を通してみて午前中と午後に分けて色々な方のお話を伺うことができ、又、スライドや中学生の弁論などを通して色々勉強になりました。やはり実際に現地を見ることによって、そして様々な人とふれあうことによって、机の上では得ることの出来ない貴重なものを得ることが出来ました。実際にお話を伺って感じた事です、皆さんとても前向きに生きていらっしゃる事とても強く感じました。自分を重ね合わせたら、もし自分が同じ立場だったとしたらどうしているでしょうか？ キットそうはできないと思います。そういう意味でとても考えさせられた一日でした。

今日得たことを今日だけで終わられることなく、今後に生かしていき、またこれからの様々な人とのふれあいを大切にして、自分自身が一歩でも二歩でも成長していける自分でありたいと思います。

〔東京都田無市 女性 短大生〕

●今日は、色々見せていただいてどうも有り難うございました。

●色々感じることはありましたが、なかなか直ぐに言葉にできそうにもありません。

●私は、今社会福祉の勉強をしているのですが、今後は、特別養護老人ホームなどの老人に関係する仕事につこうと思っているので、それにも何かしら繋がるものが得られたと思います。お宅を訪問する前は、震災についてのことなどを聞かしてもらいたかったけど、聞いているうちに只の世間話でも、自慢話でも、病気の話でも、他人の私なんかにはプライベートなことを話してくれると感じてきてからは、話を聞けるだけでも楽しかったです。話を聞く側というのは、話す側より大変なことと思ってましたが、それも少し感じましたが、それも老人ホームに就職する者にとったらとても勉強になりました。

私の親戚は、殆どがお寺なので老人のお喋りに付き合ってみるには、恰好の場所かと思うので、今年は、祖母や叔母がやっているように私も話し相手をしてみようかと思いました。

【神戸市 女性 看護婦】

●先ず、最初に手際の悪いスタッフで本当に申し訳ありませんでした。でも今日感じたこと、学んだことは大きかったです。

ボランティアする事だけでなく、人間としても大きな実りとなりました。人間と人間のふれあいの大切さ、話を聴くこと、傍に居ることで相手に安心感を与えたり、今日一日の充実感となり、生きるエネルギーを与えたりする事が分かりました。

私は、ボランティアで仮設訪問を行って行く時、今日までは、それが何になるのだからと疑問を持っていました。最初の訪問は良かったけれど、何回も重なってくるとこのような疑問が出てきました。でも今日その疑問が解決できました。本当に良かったと思います。

また、地震直後の気持ちを忘れていたことを思い出しました。あの不安な気持ち、恐怖、暗闇、それがまだ今も続いている人がいる。そう考えるとゾッとします。あの時の気持ちは、何時までも忘れないで、これを土台にボランティアを続けて行こうと思いました。

地元のボランティアとして息の長いしっかりした、活動が続けたいと思いました。

本当に心に残る一日を用意してくださって有り難うございました。

【姫路市 男性 養護学校講師】

●活動するにあたっての条件として、人の話に耳を傾けられる人となっていて、日々子どもたちと接しているので心配はないのですが、さてお年寄りの方とはどうなるか？と不安でした。しかし、この活動する動機（目的）として、異世代の方々とのふれあいを通して、自分自身をみてみようと思っていましたので、その不安が活動の中で何とかなくなるかと思いました。

今日の収穫

『僕でもお年寄りの話し相手に十分なれる』。